

平成 23 年度

平成 24 年度

# 業務報告 / 業務計画

(第 56 号)



八戸市農業経営振興センター

**表紙写真解説 ～八戸市市民農園野菜品評会～**

平成 23 年度から、市民農園利用者の更なる農業技術の向上と、農産物の品質向上を図るため、市民農園利用者が栽培した野菜の品評会を開催いたしました。

10 月に市民農園現地にてだいこんの品評会を開催し、23 戸の方々からの出品がありました。出品されただいこんはどれも新鮮で肌のきれいなだいこんばかりで、中には聖護院だいこんなど、珍しいだいこんを作られている利用者もいらっしゃいました。

平成 24 年度は 8 月と 10 月の計 2 回の実施を予定しており、市民農園の更なる充実を図るよう取り組んで参ります。

## 目 次

第1 施設の概要及び機構	1
第2 業務報告	
2-1 気象	5
2-2 調査成績（施設野菜）	
No. 1 いちごの促成栽培（短日夜冷処理）調査（新規 H23）	8
No. 2 いちごの促成栽培（短日処理）調査（新規 H23）	10
No. 3 いちごの半促成栽培における品種比較調査（新規 H23～24）	12
No. 4 夏秋どりいちごの品種比較調査（継続 H22～24）	14
No. 5 夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（継続 H22～24）	16
No. 6 きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	18
No. 7 冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（継続 H22～24）	20
No. 8 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	22
No. 9 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	25
No.10 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	28
No.11 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H19～24）	31
No.12 ミニトマトの作期比較調査（新規 H23～25）	34
2-3 調査成績（露地野菜）	
No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 H22～24）	37
No. 2 ピーマンの品種比較調査（新規 H23～24）	40
No. 3 ピーマンの肥効調整型肥料における施肥効果の調査（新規 H23）	43
No. 4 ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（継続 H22～24）	45
No. 5 ながいもの品種比較調査（新規 H23～24）	48
No. 6 にんにくの栽植距離別収量調査（新規 H23～24）	53
2-4 調査成績（花き）	
No. 1 エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（継続 H22～23）	55
No. 2 秋菊の栽培調査（1 1 月出荷）（継続 H20～23）	58
No. 3 ラークスパーの栽培調査（6 月出荷）（新規 H23～25）	60
No. 4 トルコギキョウの品種比較調査（8 月出荷）（継続 H7～26）	63
2-5 土壌分析	66
2-6 植物組織培養	70
2-7 市民農園設置事業	70
2-8 農業体験学習	71
2-9 農業講座開催実績	72
2-10 家庭菜園講習会開催実績	73
2-11 施設利用実績	73

### 第3 業務計画

#### 3-1 調査計画（施設野菜）

No. 1 いちごのクラウン温度制御に関する調査（新規 H24～26）	75
No. 2 いちごの半促成栽培における品種比較調査（継続 H23～24）	76
No. 3 夏秋どりいちごの品種比較調査（継続 H22～24）	77
No. 4 夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（継続 H22～24）	78
No. 5 きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	79
No. 6 きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	79
No. 7 きゅうりのつる下げ栽培に関する調査（継続 H23～25）	80
No. 8 冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（継続 H22～24）	80
No. 9 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	81
No.10 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	81
No.11 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	82
No.12 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	82
No.13 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H19～24）	83
No.14 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	83
No.15 ミニトマトの作型比較調査（継続 H23～25）	84

#### 3-2 調査計画（露地野菜）

No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 H22～24）	85
No. 2 ピーマンの品種比較調査（継続 H23～24）	86
No. 3 ピーマンの接ぎ木栽培調査（新規 H24）	87
No. 4 ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（継続 H22～24）	88
No. 5 ながいもの種いも別比較調査（新規 H24～25）	89
No. 6 ながいもの施肥量別調査（新規 H24～25）	90
No. 7 にんにくの栽植距離別収量調査（継続 H23～24）	91

#### 3-3 調査計画（花き）

No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（8月出荷）（継続 H7～26）	92
No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（継続 H12～26）	93
No. 3 ラークスパーの栽培調査（6月出荷）（継続 H23～25）	94
No. 4 黄輪菊の栽培調査（9月出荷）（新規 H24～26）	95
No. 5 新鉄砲ユリの栽培調査（9月出荷）（新規 H24～26）	96

3-4 土壌分析	97
----------	----

3-5 植物組織培養	98
------------	----

3-6 市民農園設置事業	98
--------------	----

3-7 農業体験学習	98
------------	----

3-8 栽培展示計画表	99
-------------	----

# 第1 施設の概要及び機構

## 目的

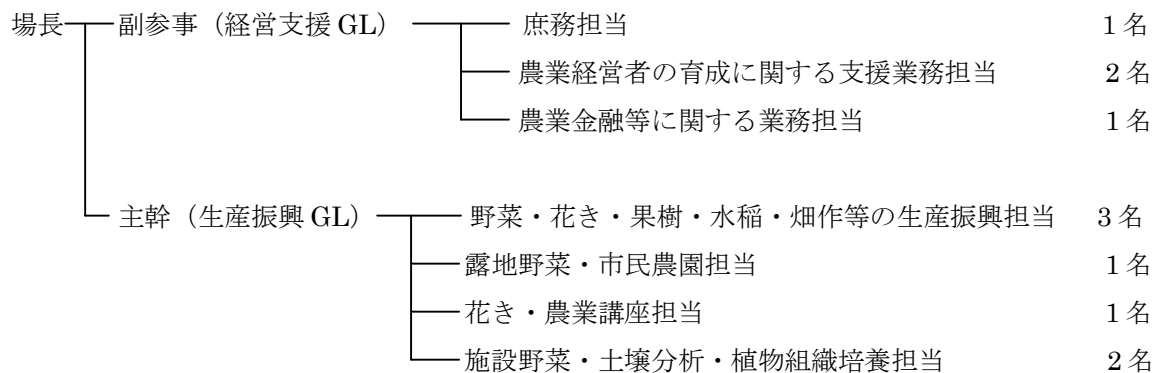
農業経営振興センターは、農業者の経営基盤強化や担い手育成等の経営支援ならびに農業振興への先進的な役割を担う技術拠点施設として、技術の高度化・多様化等に対応するため、新技術の普及や地域に密着した産地づくり等に資するとともに、自然に親しみ潤いのある市民生活を推進するため市民農園等を併設し、農業体験学習等の開催による農業を体験する機会を市民に提供しながら、農業生産の仕組みや農業の果たしている役割等、農業知識の普及啓発に資することを目的としています。

## 事業の概要

- 1 農業経営者の育成に関する支援業務
- 2 野菜・花き・果樹・畑作等の生産振興に関する補助業務
- 3 栽培技術指導
  - (1) 施設・露地野菜や花き及び地域特産作物の栽培調査及び技術指導
  - (2) 新しい作型・作物・品種・資材の比較調査及び普及指導
  - (3) 植物組織培養によるウイルスフリー苗の育成及び調査
  - (4) 土壌分析及び土壌改良指導
  - (5) 農業講座、野菜・花き現地検討会の開催等の実施
- 4 市民農園設置と利用者への栽培指導や農作業体験学習、家庭菜園栽培講習会の開催

## 組織図及び職員数 (平成 24 年度)

組織図及び職員数 <14名>



## 施設の概要

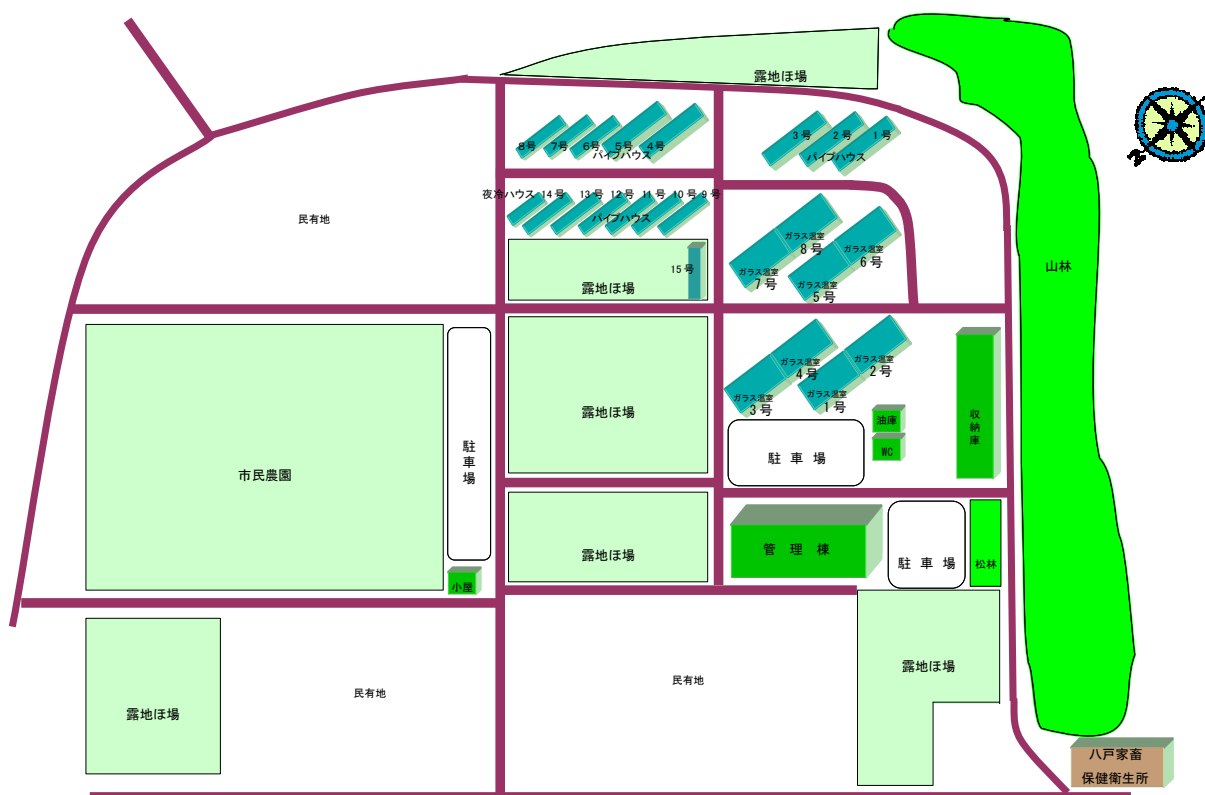
### 土地利用区分

総面積	115,334 m <sup>2</sup>
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,958
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

### 主要施設

管理棟<鉄骨造平家建>	1棟	713 m <sup>2</sup>
多目的研修室		
調理実習室		
会議室		
土づくり相談室		
バイオ体験室		
ガラス温室(鉄骨造)	4棟(8室)	1,498 m <sup>2</sup>
パイプハウス	15棟	1,927 m <sup>2</sup>
収納庫<鉄骨造平家建>	1棟	450 m <sup>2</sup>
屋外トイレ	1棟	28 m <sup>2</sup>
油庫	1棟	10 m <sup>2</sup>
農業用水施設	1式	
気象観測施設	1式	

## 場内案内図



## 沿革

- 昭和 30. 5 青森県農事試験場南部支場委託野菜展示農場として三戸郡大館村(新井田常光田地区)に発足
- 昭和 32. 4 三戸郡大館村に移管し、大館村野菜展示農場に改称
- 昭和 33. 9 合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
- 昭和 36. 1 八戸市農村青年研修所を併設
- 昭和 36. 4 八戸市立園芸指導農場に改称
- 昭和 45. 1 十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改称
- 昭和 57. 4 八戸市都市緑化植物公園(現八戸公園)開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
- 昭和 63. 4 花き(切花)部門・植物組織培養部門(バイテク)設置
- 平成 2. 4 市民農園開設
- 平成 12. 1 高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
- 平成 23. 4 機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

# 業務報告

【平成 23 年度】

場主	長幹	上石	村丸	智隆	貞典
(経営支援グループリーダー)					
主	幹	久保	昌	昌	広
(生産振興グループリーダー)					
主	査	島	川	正	範
主	事	佐	藤	靖	代
主	事	下	沢	佳	子
技	師	福	田	悠	紀
技	師	菊	谷	武	夫
技	師	田	茂	竜	児
技	師	幸	田	洋	平
技	師	中	里	一	希
技	師	奥	山	成	美



第2 業務報告

2-1 気象

表1 平成23年平均気温・日照時間・降水量 旬表

月	旬	平均気温 (°C)				日照時間 (h)				降水量 (mm)			
		平年値	23年	差	八戸特別地域気象観測所 23年	平年値	23年	差	八戸特別地域気象観測所 23年	平年値	23年	差	八戸特別地域気象観測所 23年
1	上旬	-1.3	-2.4	-1.1	-1.6	42.7	42.9	0.2	36.0	14.2	5.5	-8.7	13.5
	中旬	-2.1	-3.8	-1.6	-3.1	42.3	62.1	19.8	58.6	9.6	2.5	-7.1	0.5
	下旬	-2.2	-3.0	-0.8	-2.3	52.6	70.0	17.4	65.8	11.3	2.0	-9.3	2.0
	平均・計	-1.9	-3.1	-1.2	-2.3	137.7	175.0	37.3	160.4	35.0	10.0	-25.0	16.0
2	上旬	-2.1	-0.4	1.7	0.1	51.3	61.6	10.3	53.0	11.7	3.0	-8.7	2.5
	中旬	-1.7	0.2	1.8	1.0	53.5	51.9	-1.6	44.9	10.5	6.5	-4.0	9.0
	下旬	-0.4	1.6	2.0	2.2	46.4	49.4	3.0	44.9	9.4	3.5	-5.9	17.5
	平均・計	-1.4	0.4	1.8	1.0	151.1	162.9	11.8	142.8	31.6	13.0	-18.6	26.0
3	上旬	-0.0	-1.0	-0.9	0.0	59.4	55.5	-3.9	51.2	11.5	2.0	-9.5	0.5
	中旬	1.7	2.6	0.9	3.7	59.0	52.7	-6.3	43.9	14.5	13.0	-1.5	8.0
	下旬	3.2	1.9	-1.3	2.5	70.8	76.1	5.3	72.8	16.2	13.5	-2.7	17.5
	平均・計	1.6	1.1	-0.5	1.9	189.3	184.3	-5.0	167.9	42.2	28.5	-13.7	26.0
4	上旬	6.2	6.6	0.4	7.0	67.1	63.8	-3.3	64.4	14.8	1.5	-13.3	2.5
	中旬	7.7	7.5	-0.2	8.2	64.6	56.2	-8.4	58.8	19.2	25.0	5.8	20.5
	下旬	9.8	9.0	-0.7	9.9	68.2	44.4	-23.8	46.6	23.4	25.0	1.6	25.0
	平均・計	8.0	7.7	-0.3	8.4	199.8	164.4	-35.4	169.8	57.4	51.5	-5.9	48.0
5	上旬	11.5	11.5	-0.0	11.9	68.8	49.8	-19.0	56.4	23.2	14.5	-8.7	17.5
	中旬	12.8	13.7	0.9	13.9	64.7	57.5	-7.2	62.2	24.3	23.0	-1.3	26.0
	下旬	13.8	12.0	-1.8	12.4	74.1	39.6	-34.5	48.0	30.1	50.0	19.9	79.0
	平均・計	12.7	12.4	-0.4	12.7	207.5	146.9	-60.6	166.6	77.7	87.5	9.8	122.5
6	上旬	14.8	16.5	1.7	16.3	65.4	48.5	-16.9	74.2	21.2	6.5	-14.7	8.0
	中旬	16.0	17.0	1.0	16.8	59.2	44.0	-15.2	60.6	35.6	10.5	-25.1	10.5
	下旬	17.0	19.3	2.2	19.8	60.1	21.2	-38.9	36.4	32.0	47.5	15.5	47.0
	平均・計	16.0	17.6	1.6	17.6	184.6	113.7	-70.9	171.2	88.8	64.5	-24.3	65.5
7	上旬	17.8	22.2	4.4	22.4	49.4	34.2	-15.2	56.4	57.9	8.5	-49.4	6.5
	中旬	19.3	22.4	3.2	22.8	48.6	32.6	-16.0	43.0	42.8	18.5	-24.3	36.0
	下旬	21.6	20.0	-1.6	20.5	64.4	47.1	-17.3	51.7	41.6	26.5	-15.1	8.0
	平均・計	19.5	21.5	2.0	21.9	162.4	113.9	-48.5	151.1	142.3	53.5	-88.8	50.5
8	上旬	22.3	23.2	0.9	23.7	64.3	75.9	11.6	72.9	37.6	3.5	-34.1	2.0
	中旬	21.8	24.5	2.7	25.3	57.7	55.0	-2.7	49.6	35.9	87.5	51.6	90.0
	下旬	21.3	21.0	-0.4	21.6	64.7	51.8	-12.9	54.9	53.0	63.0	10.0	43.5
	平均・計	21.8	22.8	1.1	23.5	186.7	182.7	-4.0	177.4	126.6	154.0	27.4	135.5
9	上旬	19.9	22.9	3.0	23.7	52.8	34.0	-18.8	29.7	52.5	65.5	13.0	44.5
	中旬	18.1	19.7	1.6	20.5	51.2	23.7	-27.5	25.2	80.6	186.0	105.4	160.5
	下旬	15.9	15.5	-0.4	16.1	53.4	71.6	18.2	73.0	36.6	125.5	88.9	105.0
	平均・計	18.0	19.4	1.4	20.1	157.4	129.3	-28.1	127.9	169.8	377.0	207.3	310.0
10	上旬	14.0	12.7	-1.4	13.6	52.3	58.3	6.0	51.8	42.4	17.0	-25.4	18.0
	中旬	12.4	13.7	1.3	14.3	55.2	76.3	21.1	72.4	17.3	14.0	-3.3	17.5
	下旬	10.2	12.4	2.2	13.3	58.7	48.3	-10.4	39.9	27.7	4.0	-23.7	6.0
	平均・計	12.2	12.9	0.7	13.7	166.3	182.9	16.6	164.1	87.4	35.0	-52.4	41.5
11	上旬	8.6	10.5	1.9	11.1	49.8	53.6	3.8	53.0	25.2	8.0	-17.2	6.5
	中旬	5.6	7.5	1.9	8.1	41.6	45.1	3.5	43.8	20.3	8.0	-12.3	6.5
	下旬	4.0	5.0	1.0	5.9	41.4	31.6	-9.8	35.5	17.6	13.5	-4.1	9.5
	平均・計	5.9	7.7	1.7	8.3	132.7	130.3	-2.4	132.3	63.1	30.5	-32.6	22.5
12	上旬	2.4	1.6	-0.8	2.4	38.5	27.8	-10.7	30.3	15.0	37.0	22.0	33.0
	中旬	0.2	-1.0	-1.1	-0.2	38.4	34.9	-3.5	30.9	11.3	8.0	-3.3	5.0
	下旬	-0.2	-1.4	-1.2	-0.8	41.5	53.5	12.0	51.5	18.7	3.0	-15.7	2.0
	平均・計	0.7	-0.3	-1.1	0.4	118.4	116.2	-2.2	112.7	45.0	48.0	3.0	40.0
年平均・計	9.4	10.1	0.7	10.6	1,994.1	1,802.5	-191.6	1,844.2	966.8	953.0	-13.8	891.5	

※八戸特別地域気象観測所 観測数値(斜字)は気象庁ホームページから引用

※平年値は昭和58年から平成22年度までの当センター観測数値による

※四捨五入により端数処理

(1) 平均気温

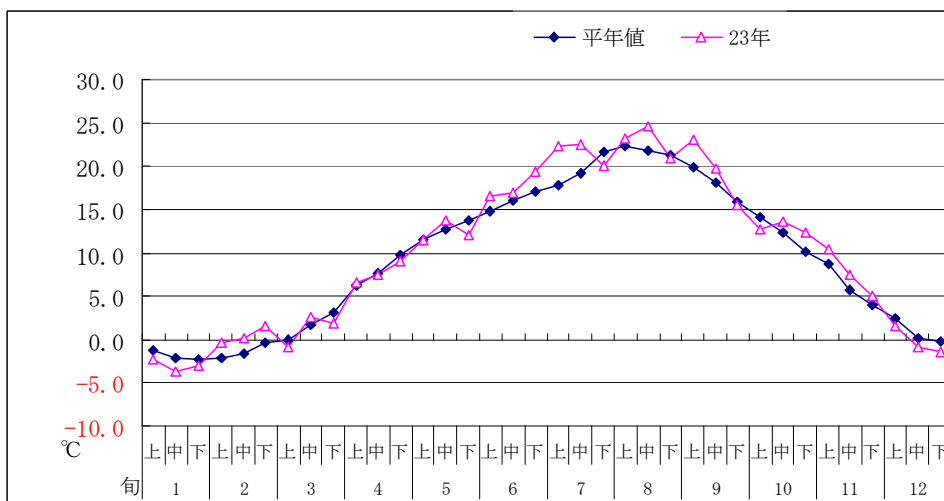


図1 平均気温

平年値との比較

- ・1℃を上回る月
  - 2月(+1.8℃)
  - 6月(+1.6℃)
  - 7月(+2.0℃)
  - 8月(+1.1℃)
  - 9月(+1.4℃)
  - 11月(+1.7℃)
- ・1℃を下回る月
  - 1月(-1.2℃)
  - 12月(-1.1℃)
- ・年平均気温
  - 10.1℃(+0.7℃)

(2) 日照時間

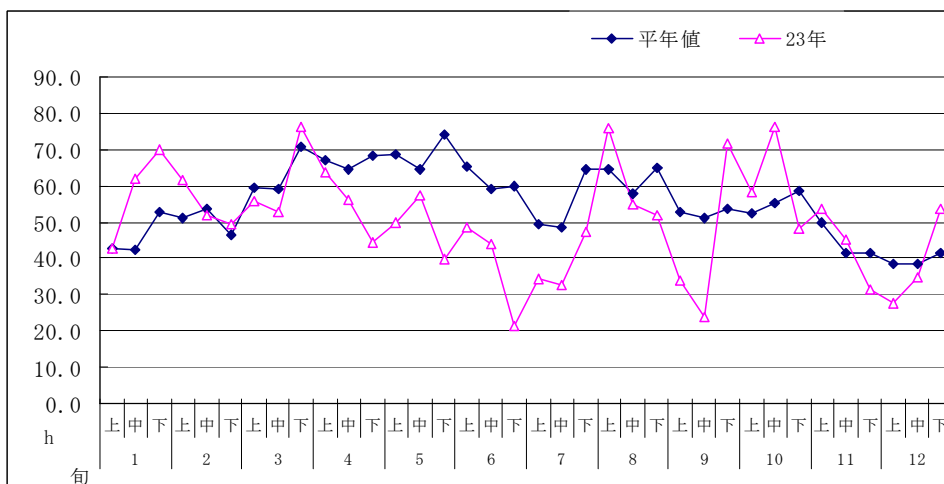


図2 日照時間

平年値との比較

- ・1時間/日を上回る月
  - 1月(+37.3時間)
- ・1時間/日を下回る月
  - 4月(-35.4時間)
  - 5月(-60.6時間)
  - 6月(-70.9時間)
  - 7月(-48.5時間)
- ・年間日照時間
  - 1,802.5時間
  - (-191.6時間)

(3) 降水量

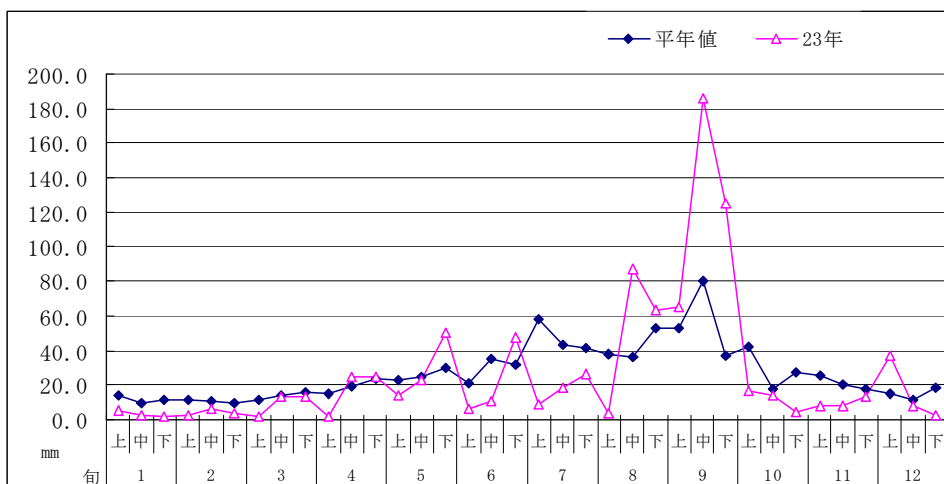


図3 降水量

平年値との比較

- ・1mm/日を上回る月
  - 9月(+207.3mm)
- ・1mm/日を下回る月
  - 7月(-88.8mm)
  - 10月(-52.4mm)
  - 11月(-32.6mm)
- ・年間降水量
  - 953.0mm(-13.8mm)

表2 平成23年 気象観測数値 旬表

農業経営振興センター観測

月	旬	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温 (°C)		
								0cm	10cm	20cm
1	上旬	-2.4	3.8	-8.3	42.9	5.5	80.2	1.1	1.8	2.5
	中旬	-3.8	1.4	-8.6	62.1	2.5	68.3	0.7	1.4	2.1
	下旬	-3.0	2.9	-9.9	70.0	2.0	69.8	0.5	1.1	1.8
	平均・極値・計	-3.1	3.8	-9.9	175.0	10.0	72.7	0.8	1.4	2.1
2	上旬	-0.4	8.8	-6.7	61.6	3.0	70.1	0.4	0.9	1.6
	中旬	0.2	8.0	-6.7	51.9	6.5	70.8	0.3	0.8	1.4
	下旬	1.6	14.4	-5.6	49.4	3.5	69.7	0.7	1.1	1.6
	平均・極値・計	0.4	14.4	-6.7	162.9	13.0	70.2	0.4	0.9	1.5
3	上旬	-1.0	8.0	-7.0	55.5	2.0	70.6	0.7	1.3	1.8
	中旬	2.6	13.4	-6.2	52.7	13.0	67.2	2.0	2.3	2.4
	下旬	1.9	11.1	-4.3	76.1	13.5	72.6	2.8	3.1	3.2
	平均・極値・計	1.1	13.4	-7.0	184.3	28.5	70.4	1.8	2.3	2.5
4	上旬	6.6	18.3	-1.6	63.8	1.5	57.5	5.2	5.2	4.9
	中旬	7.5	21.7	-0.8	56.2	25.0	63.2	7.0	7.1	6.8
	下旬	9.0	18.1	0.5	44.4	25.0	78.0	8.3	8.0	7.6
	平均・極値・計	7.7	21.7	-1.6	164.4	51.5	66.2	6.8	6.8	6.4
5	上旬	11.5	21.3	2.2	49.8	14.5	78.1	10.8	10.6	9.9
	中旬	13.7	26.3	4.7	57.5	23.0	67.9	13.2	12.7	12.0
	下旬	12.0	20.6	4.0	39.6	50.0	85.0	13.8	14.3	13.7
	平均・極値・計	12.4	26.3	2.2	146.9	87.5	77.3	12.6	12.6	11.9
6	上旬	16.5	29.0	3.0	48.5	6.5	76.8	15.8	15.6	14.6
	中旬	17.0	29.5	8.0	44.0	10.5	81.2	17.9	18.1	17.2
	下旬	19.3	29.6	10.8	21.2	47.5	83.2	19.6	19.4	18.5
	平均・極値・計	17.6	29.6	3.0	113.7	64.5	80.4	17.7	17.7	16.8
7	上旬	22.2	32.6	15.6	34.2	8.5	83.5	22.2	21.8	20.6
	中旬	22.4	32.1	15.1	32.6	18.5	88.2	23.9	24.0	22.9
	下旬	20.0	27.3	11.1	47.1	26.5	88.8	21.9	22.4	21.9
	平均・極値・計	21.5	32.6	11.1	113.9	53.5	86.9	22.6	22.7	21.8
8	上旬	23.2	33.6	17.1	75.9	3.5	87.5	23.7	24.0	23.0
	中旬	24.5	34.4	17.7	55.0	87.5	81.0	24.1	24.4	24.0
	下旬	21.0	28.9	15.9	51.8	63.0	90.7	22.2	22.8	22.5
	平均・極値・計	22.8	34.4	15.9	182.7	154.0	86.5	23.3	23.7	23.1
9	上旬	22.9	31.8	13.8	34.0	65.5	83.2	23.1	23.4	23.1
	中旬	19.7	31.5	12.0	23.7	186.0	94.0	21.3	22.1	22.1
	下旬	15.5	22.2	9.3	71.6	125.5	89.3	17.0	18.2	18.6
	平均・極値・計	19.4	31.8	9.3	129.3	377.0	88.8	20.5	21.2	21.3
10	上旬	12.7	21.8	6.4	58.3	17.0	78.4	15.0	16.4	17.2
	中旬	13.7	22.3	5.3	76.3	14.0	75.0	14.7	15.7	16.2
	下旬	12.4	22.9	3.2	48.3	4.0	82.8	13.7	14.7	15.3
	平均・極値・計	12.9	22.9	3.2	182.9	35.0	78.9	14.4	15.6	16.2
11	上旬	10.5	20.7	2.8	53.6	8.0	80.9	12.2	13.4	14.0
	中旬	7.5	16.5	-1.0	45.1	8.0	76.4	9.4	10.8	11.7
	下旬	5.0	14.0	-1.3	31.6	13.5	74.5	7.1	8.3	9.3
	平均・極値・計	7.7	20.7	-1.3	130.3	30.5	77.3	9.6	10.8	11.7
12	上旬	1.6	9.7	-4.9	27.8	37.0	75.1	4.9	6.5	7.6
	中旬	-1.0	6.7	-6.5	34.9	8.0	79.0	2.4	3.8	5.0
	下旬	-1.4	4.2	-5.9	53.5	3.0	72.5	1.1	2.3	3.5
	平均・極値・計	-0.3	9.7	-6.5	116.2	48.0	75.4	2.7	4.1	5.3
年平均・極値・計		10.1	34.4	-9.9	1,802.5	953.0	77.7	11.2	11.8	11.8

※四捨五入により端数処理

## 2-2 調査成績 (施設野菜)

### 施設野菜の部 No.1

調査名：いちごの促成栽培 (短日夜冷処理) 調査 (平成 23 年度)

- 1 目的 いちごの促成栽培 (短日夜冷処理) において、株間の違いによる収量、品質への影響を調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 4 号 (132 m<sup>2</sup> : 約 40 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) ポット受期 平成 22 年 6 月 24 日～
  - 3) 夜冷処理期間 平成 22 年 8 月 6 日～9 月 16 日
  - 4) 夜冷処理日数 42 日
  - 5) 夜冷処理方法 短日処理 8 時間日長 (16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光)  
夜冷処理 13～15℃ (16 時 30 分～翌 8 時 30 分)
  - 6) 育苗日数 85 日
  - 7) 定植年月日 平成 22 年 9 月 17 日
  - 8) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 15、18 cm、2 条植え
  - 9) 定植株数 1,060 株/棟 (株間 15 cm)、880 株/棟 (株間 18 cm)
  - 10) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.17-0.06-5.2
  - 11) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 197kg  
ハイフミンデルマ : 23kg  
LP コート 100 日 (N40%) : 3kg  
けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7～12%-Fe2～5%) : 26kg  
畑のカルシウム (P0.4%-Ca28.5%) : 14kg  
ハイクド 40 (Mg40%) : 7kg  
大塚養液土耕 5 号、6 号
- 12) 収穫期間 平成 22 年 11 月 24 日～平成 23 年 6 月 17 日
- 13) 薬剤散布 38 回  
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
- 14) 保温・加温 平成 22 年 10 月 25 日～平成 23 年 3 月 10 日 (12℃設定、内カーテン・トンネル使用)  
平成 23 年 3 月 11 日～平成 23 年 6 月 17 日 (8℃設定、内カーテン・トンネル使用)
- (3) 調査区の構成 4 区 (1 区 10 株、1 区制)
- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| (1) さちのか 株間 15cm | (3) とちおとめ 株間 15cm |
| (2) さちのか 株間 18cm | (4) とちおとめ 株間 18cm |
- (4) 調査項目 生育、収量

### 3 結果の概要

- (1) 生育  
収穫時の草丈は「さちのか」が「とちおとめ」をやや上回り、「さちのか」「とちおとめ」ともに「15cm」が「18cm」を上回っていた。  
展開葉数では「とちおとめ」が「さちのか」を上回っていた。  
また、クラウンの太さは「とちおとめ」が「さちのか」を上回り、「さちのか」「とちおとめ」ともに「18cm」が「15cm」を上回っていた。
- (2) 収量  
10a 当たり換算収量は「さちのか」では「15cm」「18cm」とともに約 3t と差が見られなかったが、「とちおとめ」では「15cm」が約 3t であるのに対し「18cm」では約 2.6t と差が見られた。  
株間別にみると株当たり換算収量では「さちのか」「とちおとめ」とともに「18cm」が「15cm」を上回った。

表1 生育調査

調査区名	草丈	展開葉数	クラウンの太さ	調査月日
品種名 株間	cm	枚	mm	(収穫開始日)
さちのか 15cm	11.9	7.4	12.0	平成22年11月26日
さちのか 18cm	11.0	7.8	12.3	平成22年11月24日
とちおとめ 15cm	10.8	8.1	13.3	平成22年11月26日
とちおとめ 18cm	10.4	7.9	14.2	平成22年12月1日

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: 個、g)

調査区名	3L	2L	L	M	S
品種名 株間	個数 収量	個数 収量	個数 収量	個数 収量	個数 収量
さちのか 15cm	1 39	13 355	65 1,167	64 744	109 906
さちのか 18cm	2 79	27 766	83 1,582	63 778	114 950
とちおとめ 15cm	1 41	15 416	69 1,220	56 672	120 1,013
とちおとめ 18cm	0 0	15 414	74 1,331	71 850	99 834

表2つづき

調査区名	小果・奇形果	合計	等級割合 (%: 個数ベース)					
品種名 株間	個数 収量	個数 収量	3L	2L	L	M	S	小果・奇形果
さちのか 15cm	82 444	334 3,655	0.3	3.9	19.5	19.2	32.6	24.6
さちのか 18cm	72 422	361 4,577	0.6	7.5	23.0	17.5	31.6	19.9
とちおとめ 15cm	61 330	322 3,692	0.3	4.7	21.4	17.4	37.3	18.9
とちおとめ 18cm	80 442	339 3,871	0.0	4.4	21.8	20.9	29.2	23.6

表2つづき

調査区名	平均果重	秀品率 (%)	株当たり換算収量 (g)	1棟当たり換算収量 (kg)	10a当たり換算収量 (t)
品種名 株間					
さちのか 15cm	10.9	75.4	365.5	387.4	2.94
さちのか 18cm	12.7	80.1	457.7	402.8	3.05
とちおとめ 15cm	11.5	81.1	369.2	391.4	2.96
とちおとめ 18cm	11.4	76.4	387.1	340.6	2.58

※秀品率は個数ベースによる

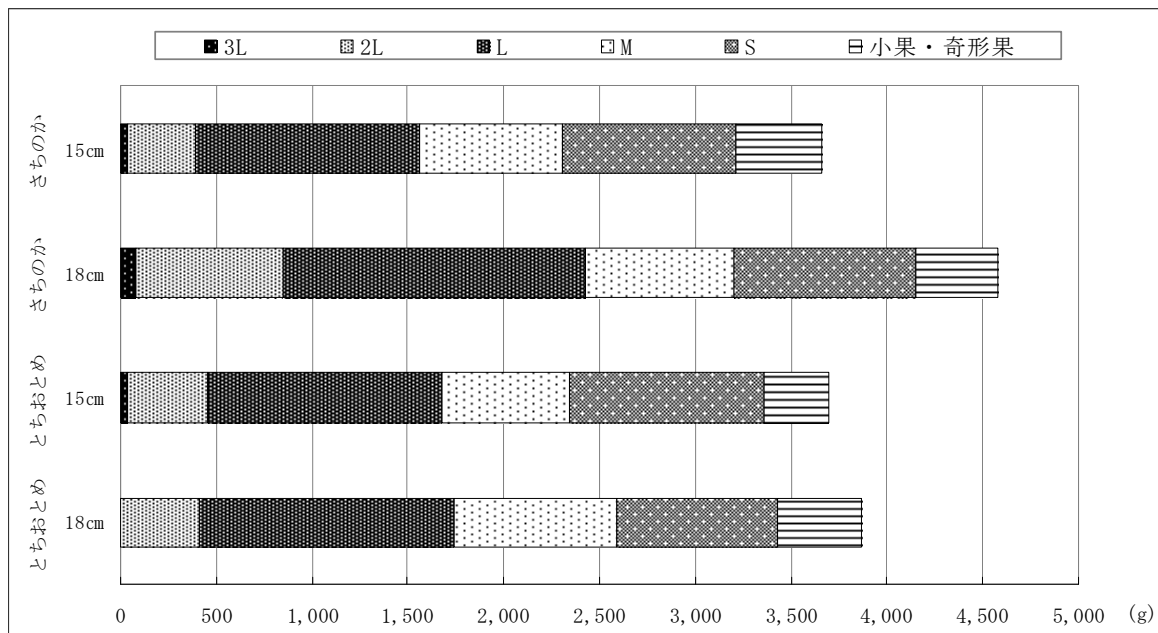


図1 調査区別収量 (10株当たり)

## 施設野菜の部 No.2

調査名：いちごの促成栽培（短日処理）調査（平成23年度）

- 1 目的 いちごの促成栽培（短日処理）において、株間の違いによる収量、品質への影響について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス7号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) ポット受期 平成22年6月24日～
  - 3) 短日処理期間 平成22年8月3日～9月23日（さちのか）  
平成22年8月3日～9月30日（とちおとめ）
  - 4) 短日処理日数 52日（さちのか）、59日（とちおとめ）
  - 5) 短日処理方法 短日処理 8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
  - 6) 育苗日数 92日（さちのか）、99日（とちおとめ）
  - 7) 定植年月日 平成22年9月24日（さちのか）、10月1日（とちおとめ）
  - 8) 栽植距離 うね幅110cm、株間15、18cm、2条植え
  - 9) 定植株数 848株/棟（株間15cm）、704株/棟（株間18cm）
  - 10) 施肥量(kg/a) N-P-K=3.52-0.06-5.2
  - 11) 使用資材(kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 200kg  
ハイフミンデルマ : 30kg、  
LPコート100日 (N40%) : 3.8kg  
けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 26kg  
畑のカルシウム (P0.4%-Ca28.5%) : 14kg  
大塚養液土耕5号、6号
- 12) 収穫期間 平成23年1月4日～平成23年6月17日
- 13) 薬剤散布 38回  
ラノーテープ剤を、うね毎に1本、作物の触れない株上に設置。
- 14) 保温・加温 平成22年11月15日～平成23年3月10日（12℃設定、内カーテン）  
平成23年3月11日～平成23年6月17日（8℃設定、内カーテン）
- (3) 調査区の構成 4区（1区10株、1区制）
- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| (1) さちのか 株間15cm | (3) とちおとめ 株間15cm |
| (2) さちのか 株間18cm | (4) とちおとめ 株間18cm |
- (4) 調査項目 収量

### 3 結果の概要

(1) 収量

10a 当たり換算収量は「さちのか」では「15cm」が約2.6t、「18cm」が約2.5tと大きな差は見られなかったが、「とちおとめ」では「15cm」が約3tであるのに対し、「18cm」では約2.4tと差が見られた。

株当たり換算収量については「さちのか」では「18cm」が「15cm」を上回り、「とちおとめ」では「15cm」が「18cm」を上回った。

表1 収量調査 (10株当たり)

(単位: 個、g)

調査区名	株間	3L		2L		L		M		S	
		個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
さちのか	15cm	0	0	16	426	57	985	53	660	78	622
さちのか	18cm	2	76	22	618	53	955	55	694	99	826
とちおとめ	15cm	0	0	8	219	73	1,321	65	794	103	858
とちおとめ	18cm	1	39	10	271	48	857	74	899	100	865

表1つづき

調査区名	株間	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:個数ベース)					小果・奇形果
		個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	
さちのか	15cm	70	393	274	3,086	0.0	5.8	20.8	19.3	28.5	25.5
さちのか	18cm	66	389	297	3,558	0.7	7.4	17.8	18.5	33.3	22.2
とちおとめ	15cm	75	423	324	3,615	0.0	2.5	22.5	20.1	31.8	23.1
とちおとめ	18cm	66	413	299	3,344	0.3	3.3	16.1	24.7	33.4	22.1

表1つづき

調査区名	株間	平均果重	株当たり 換算収量	棟当たり 換算収量 (kg)	10a当たり 換算収量 (t)
さちのか	15cm	11.3	308.6	261.7	2.64
さちのか	18cm	12.0	355.8	250.5	2.53
とちおとめ	15cm	11.2	361.5	306.6	3.10
とちおとめ	18cm	11.2	334.4	235.4	2.38

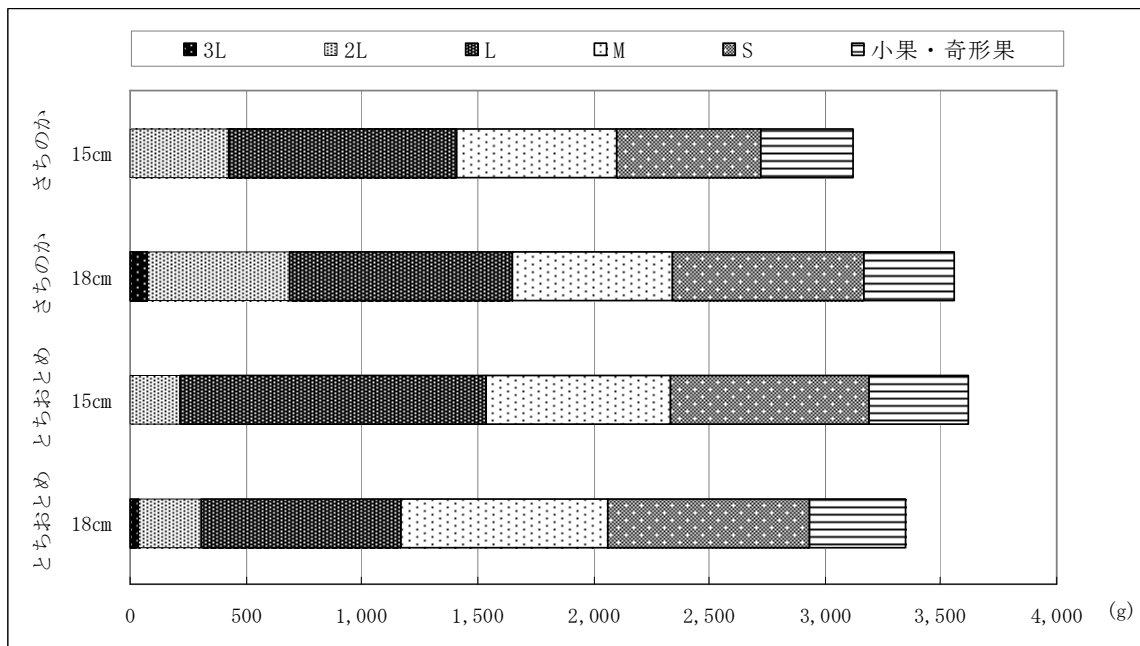


図1 調査区別収量 (10株当たり)

## 施設野菜の部 No.3

調査名：いちごの半促成栽培における品種比較調査（平成 23 年度～平成 24 年度）

1 目的 近年、当地域で栽培されている「麗紅」の収量・品質が低下し、それに替わる半促成栽培に適した品種が望まれていることから、品種比較し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 14 号 (99 m<sup>2</sup> : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) ポット受期 平成 22 年 6 月 24 日～
  - 3) 育苗日数 64 日
  - 4) 定植年月日 平成 22 年 8 月 27 日
  - 5) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 18 cm、2 条植え
  - 6) 定植株数 704 株/棟 (株間 18 cm)
  - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.1-0.38-6.3
  - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 200kg  
ハイフミンデルマ : 30kg、  
LP コート 100 日 (N40%) : 2kg  
有機アグレット 666 特号 (N6%-P6%-K6%) : 5kg  
けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 30kg  
畑のカルシウム (P0.4%-Ca28.5%) : 14kg  
大塚養液土耕 5 号、6 号
- 9) 収穫期間 平成 23 年 2 月 28 日～平成 23 年 6 月 17 日
- 10) 薬剤散布 38 回  
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
- 11) 保温 平成 22 年 12 月 13 日～平成 23 年 6 月 17 日 (内カーテン、トンネル)
- (3) 調査区の構成 3 区 (1 区 10 株、1 区制)  
(1) さちのか (2) 栃の峰 (3) 紅ほっぺ、
- (4) 調査項目 生育、収量

### 3 結果の概要

- (1) 生育  
草丈については、「さちのか」「栃の峰」は約 20cm 程度、「紅ほっぺ」は 34.1cm で最も高かった。
- (2) 収量  
10a 当たり換算収量は「紅ほっぺ」が約 2.7t で最も多く、次いで「栃の峰」「さちのか」の順であった。  
平均 1 果重は 15.4g と「栃の峰」が最も重く、次いで「紅ほっぺ」13.2g、「さちのか」11.1g の順であった。



表1 生育調査

調査区名	草丈 cm	展開葉数 枚	クラウンの太さ mm	調査月日 (収穫開始日)
さちのか	23.3	10.4	15.7	2月28日
栃の峰	19.8	11.1	16.4	
紅ほっぺ	34.1	11.6	17.1	

表2 収量調査 (10株当たり) (単位:個、g)

調査区名	3L		2L		L		M		S	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
さちのか	1	37	3	80	54	998	55	676	79	645
栃の峰	4	148	28	763	75	1,411	49	608	44	377
紅ほっぺ	6	226	21	548	82	1,516	45	562	75	631

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:個数ベース)					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小果・奇形果
さちのか	63	394	255	2,830	0.4	1.2	21.2	21.6	31.0	24.7
栃の峰	25	155	225	3,462	1.8	12.4	33.3	21.8	19.6	11.1
紅ほっぺ	61	341	290	3,824	2.1	7.2	28.3	15.5	25.9	21.0

表2つづき

調査区名	平均 果重	秀品率 (%)	株当たり 換算収量 (g)	1棟当たり 換算収量 (kg)	10a当たり 換算収量 (t)
さちのか	11.1	75.3	283.0	199.2	2.01
栃の峰	15.4	88.9	346.2	243.7	2.46
紅ほっぺ	13.2	79.0	382.4	269.2	2.72

※秀品率は個数ベースによる

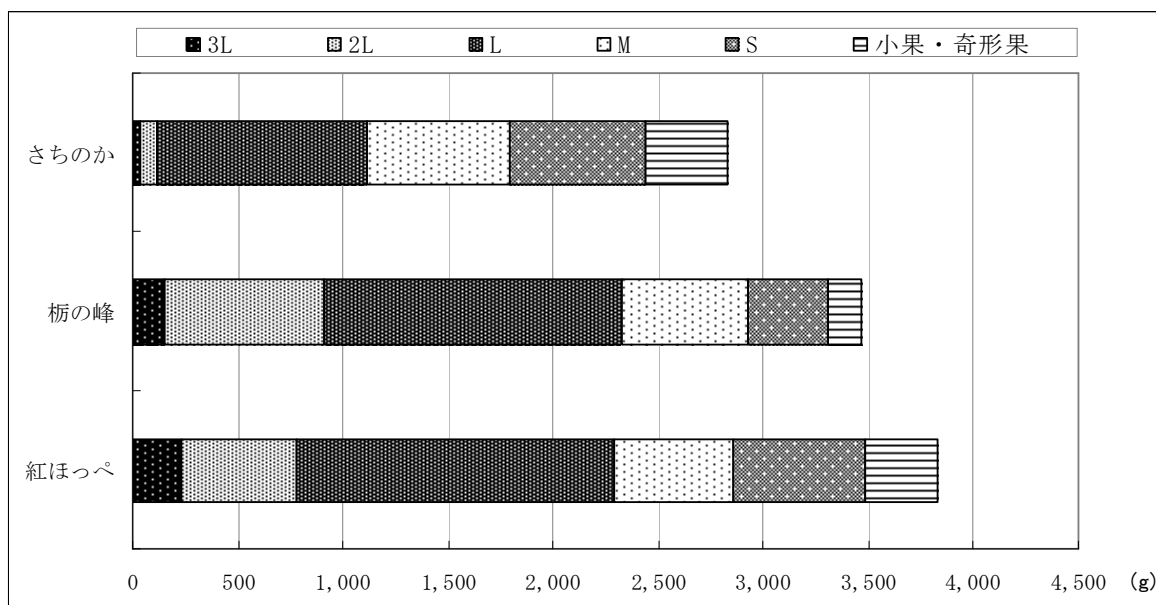


図1 調査区別収量 (10株当たり)

## 施設野菜の部 No.4

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性いちごについて品種比較し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15号 (99 m<sup>2</sup> : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) 定植年月日 平成23年4月15日 (新白鳥1号)  
平成23年4月19日 (すずあかね)  
平成23年4月21日 (サマーレビー)  
平成23年5月9日 (ペチカサンタ、信大交配8-9)
  - 3) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 25 cm、2条植え
  - 4) 定植株数 512株/棟
  - 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.0-0.13-0.75
  - 6) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 200kg  
ハイフミンデルマ : 30kg  
有機アグレット 816 特号 (N8%-P1%-K6%) : 12.5kg  
大塚養液土耕 6号
  - 7) 遮光・遮熱 (7～10月) 遮熱ネット (クールホワイト 遮光率 45～50%)  
光反射遮熱資材 (タイベック)
  - 8) 収穫期間 平成23年7月13日～平成23年12月9日
  - 9) 薬剤散布 20回  
ラノーテープ剤を畦毎1本、作物の触れない株上の位置に設置。
- (3) 調査区の構成 5区(1区10株、1区制)
- (1) サマーレビー
  - (2) すずあかね
  - (3) ペチカサンタ
  - (4) 信大交配8-9
  - (5) 新白鳥1号
- (4) 調査項目 収量、果実品質

### 3 結果の概要

- (1) 収量
- 10a 当たり換算収量は「ペチカサンタ」が最も多く、次いで「すずあかね」「サマーレビー」の順であった。
- 市場価値の高い24玉～30玉の個数が最も多かったのは「ペチカサンタ」で、次いで「すずあかね」であった。24玉～30玉の割合で見ると、最も高かったのは「すずあかね」で、次いで「ペチカサンタ」であった。
- 平均1果重については「すずあかね」が11.4gで最も重かった。
- 秀品率が最も高かったのは「すずあかね」で91.5%、次いで「ペチカサンタ」が84.9%であった。
- (2) 果実品質
- 硬度については「信大交配8-9」が0.804kgで最も硬く、次いで「すずあかね」が0.801kgであった。
- 酸度は「サマーレビー」が3.85%で最も高かった。
- 糖度(Brix%)は「信大交配8-9」が13.24と最も高く、次いで「サマーレビー」11.60、「新白鳥1号」11.58の順であった。

表1 収量調査 (10株当たり)

(単位: 個、g)

調査区名	15玉大		15玉小		20玉		24玉		30玉		35玉	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
サマルビ <sup>®</sup>	0	0	8	173	8	144	14	208	63	691	46	390
すずあかね	2	58	12	266	19	350	25	374	89	1,018	39	333
ペ <sup>®</sup> カサタ	1	31	8	175	8	149	30	450	139	1,540	116	968
信大交配8-9	0	0	1	22	3	53	14	205	51	571	44	373
新白鳥1号	4	106	2	44	10	185	14	213	53	595	51	438

表1つづき

調査区名	42玉		小果・奇形果		合計		平均果重	株当たり 換算収量 (g)	10a当たり 換算収量 (t)
	個数	収量	個数	収量	個数	収量			
サマルビ <sup>®</sup>	52	342	69	513	260	2,461	9.5	126.0	1.3
すずあかね	39	260	21	153	246	2,812	11.4	144.0	1.5
ペ <sup>®</sup> カサタ	98	646	71	376	471	4,335	9.2	222.0	2.2
信大交配8-9	67	439	81	399	261	2,062	7.9	105.6	1.1
新白鳥1号	50	330	41	189	225	2,100	9.3	107.5	1.1

表1つづき

調査区名	秀品率 (%)	等級割合 (%: 個数ベース)							
		15玉大	15玉小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小果・奇形果
サマルビ <sup>®</sup>	73.5	0.0	3.1	3.1	5.4	24.2	17.7	20.0	26.5
すずあかね	91.5	0.8	4.9	7.7	10.2	36.2	15.9	15.9	8.5
ペ <sup>®</sup> カサタ	84.9	0.2	1.7	1.7	6.4	29.5	24.6	20.8	15.1
信大交配8-9	69.0	0.0	0.4	1.1	5.4	19.5	16.9	25.7	31.0
新白鳥1号	81.8	1.8	0.9	4.4	6.2	23.6	22.7	22.2	18.2

表2 品質調査 (5果当たり)

調査区名	糖度 Brix%	酸度 %	硬度 kg	調査月日
サマルビ <sup>®</sup>	11.60	3.85	0.684	9月29日
すずあかね	8.98	2.95	0.801	
ペ <sup>®</sup> カサタ	7.96	3.45	0.624	
信大交配8-9	13.24	3.25	0.804	
新白鳥1号	11.58	3.70	0.620	

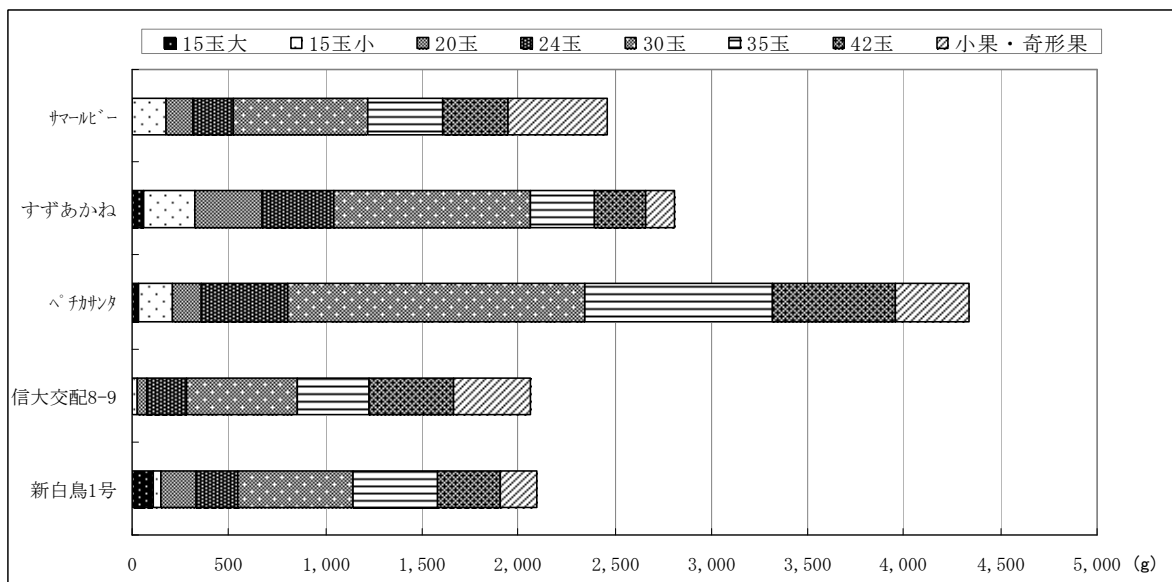


図1 調査区別収量 (10株当たり)

## 施設野菜の部 No.5

調査名：夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性品種の、摘芽、摘葉、摘花・摘果の違いによる収量や品質への影響を調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) 定植年月日 平成23年4月21日
  - 3) 栽植距離 うね幅110cm、株間25cm、2条植え
  - 4) 定植株数 512株/棟
  - 5) 施肥量(kg/a) N-P-K=3.0-0.13-0.75
  - 6) 使用資材(kg/a) バーク堆肥(N1%-P0.5%-K0.5%) : 200kg  
ハイフミンデルマ : 30kg  
有機アグレット816特号(N8%-P1%-K6%) : 12.5kg  
大塚養液土耕6号
- 7) 収穫期間 平成23年7月13日～12月9日
- 8) 薬剤散布 20回  
ラノータブ剤を畦毎1本、作物の触れない株上の位置に設置。
- 9) 遮光・遮熱 (7～10月設置) 遮熱ネット(クールホワイト 遮光率45～50%)  
光反射遮熱資材(タイベック)
- (3) 調査区の構成 3区(栽培管理別) 1区10株 1区制  
供試品種：サマールビー
- |     | 区 | 〈芽数〉 | 〈摘葉〉                   | 〈摘花(果)〉           |
|-----|---|------|------------------------|-------------------|
| (1) | 1 | 1芽   | 1～2枚/週                 | 頂花房5～6果<br>以降8～9果 |
| (2) | 2 | 2～3芽 | 1～2枚/週                 | 頂花房5～6果<br>以降8～9果 |
| (3) | 3 | 放任   | 8月中旬に一度に5～6枚<br>以降古葉のみ | 頂花房5～6果<br>以降放任   |
- (4) 調査項目 生育、収量

### 3 結果の概要

- (1) 生育  
草高は「調査区3(放任)」が最も高く24.9cm、次いで「調査区2(2～3芽)」が23.7cm、「調査区1(1芽)」が19.7cmであった。  
芽数は収穫開始日の7月13日の時点で「調査区3」では3.1芽となっていた。  
花房数は「調査区3」が3.8本と最も多く、次いで「調査区1」2.9本、「調査区2」2.6本であった。
- (2) 収量  
10a当たり換算収量は「調査区3(放任)」が最も多く2.2t、次いで「調査区2(2～3芽)」1.9t、「調査区1(1芽)」1.3tであった。  
秀品率は「調査区1」と「調査区2」がともに73.5%で差が見られなかったが、「調査区3」が65.8%と最も低かった。  
42玉や小果・奇形果の割合が最も少なかったのは「調査区1」で、次いで「調査区2」「調査区3」の順であった。

表1 生育調査

調査区名	草高 (cm)	芽数 (芽)	花房数 (本)	調査月日 (収穫開始日)
1	19.7	1.0	2.9	7月13日
2	23.7	2.0	2.6	7月13日
3	24.9	3.1	3.8	7月13日

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: 個、g)

調査区名	15玉大		15玉小		20玉		24玉		30玉		35玉	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
1	0	0	8	173	8	144	14	208	63	691	46	390
2	6	168	3	67	11	204	26	390	65	722	84	690
3	2	64	8	171	15	273	21	304	62	685	102	872

表2つづき

調査区名	42玉		小果・奇形果		合計		平均 果重	株当たり 換算収量 (g)	10a当たり 換算収量 (t)
	個数	収量	個数	収量	個数	収量			
1	52	342	69	513	260	2,461	9.5	126.0	1.3
2	102	686	107	693	404	3,620	9.0	185.3	1.9
3	121	797	172	1,103	503	4,269	8.5	218.6	2.2

表2つづき

調査区名	秀品率 (%)	等級割合 (%: 個数ベース)								
		15玉大	15玉小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小果・奇形果	
1	73.5	0.0	3.1	3.1	5.4	24.2	17.7	20.0	26.5	
2	73.5	1.5	0.7	2.7	6.4	16.1	20.8	25.2	26.5	
3	65.8	0.4	1.6	3.0	4.2	12.3	20.3	24.1	34.2	

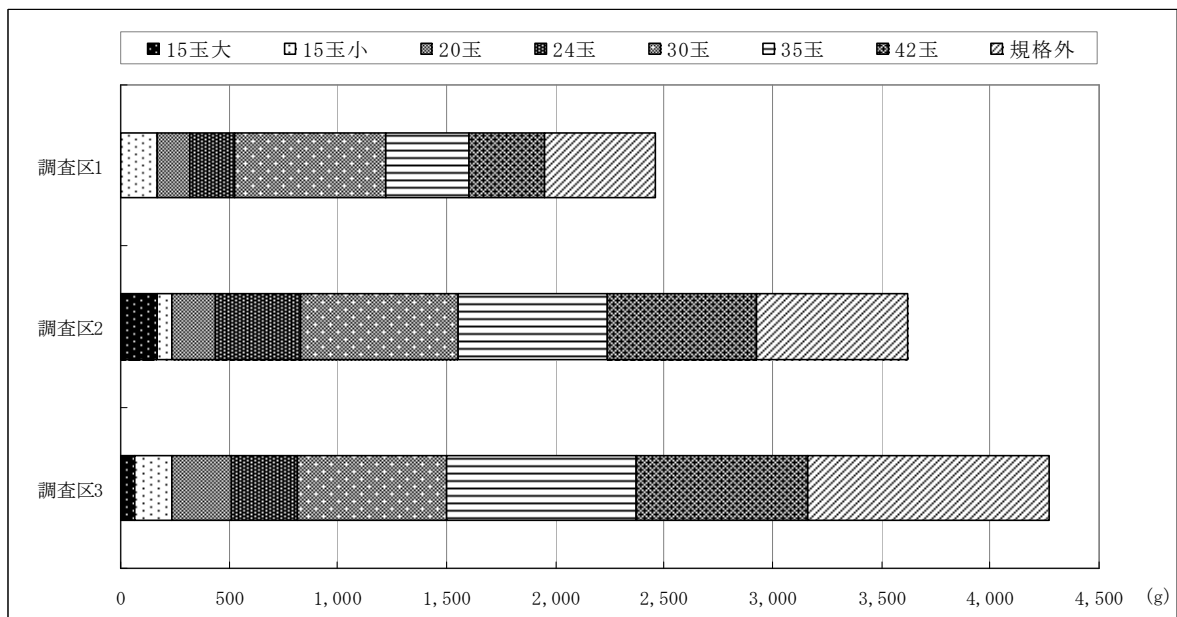


図1 調査区別収量 (10株当たり)

## 施設野菜の部 No.6

調査名：きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの半促成栽培について比較調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス6号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 (穂木) 平成23年2月22日
  - 3) は種月日 (台木) 平成23年2月24日
  - 4) 接木・移植月日 平成23年3月8日 (15cmポット)
  - 5) 仕立方法 1本仕立  
～7節 側枝除去  
8～9節 子づる1節、孫づる1節止め  
10節 子づる放任、孫づる1節止め  
11～22節 子づる2節、孫づる1節止め  
23～24節 子づる放任、孫づる1節止め  
25節 摘心
  - 6) 定植年月日 平成23年3月28日
  - 7) 育苗日数 35日
  - 8) 栽植距離 ベッド幅150cm、株間45cm、2条植え 144株/棟
  - 9) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.0-0.0-8.0
  - 10) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 300kg  
ハイフミンデルマ : 30kg  
けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 40kg  
大塚養液土耕5号 (～収穫前)、2号 (収穫開始～)
  - 11) 収穫期間 平成23年5月16日～平成23年8月1日
  - 12) 薬剤散布 10回
  - 13) 保温・加温 内カーテン・温風暖房機 (10℃設定) 定植後～収穫終了まで
- (3) 調査区の構成 6区 (1区5株、1区制)
- (1) エクセレント節成2号 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
  - (2) エクセレント節成353 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
  - (3) プロジェクトX (と) × ときわパワーZ2 (と)
  - (4) ズバリ163 (と) × ときわパワーZ2 (と)
  - (5) シルフィーパワー2号 (久) × 昇竜 (久)
  - (6) フリーダムハウス3号 (サ) × つやかEX (サ)
- ※ (埼) : 株式会社埼玉原種育成会 (と) : 株式会社ときわ研究所  
(久) : 株式会社久留米原種育成会 (サ) : 株式会社サカタのタネ
- (4) 調査項目 生育、収量

### 3 結果の概要

- (1) 生育  
収穫時調査において、草丈が最も高かったのは「シルフィーパワー2号」で約108cm、最も低かったのは「ズバリ163」の約89cmで、約19cmの差があった。  
葉数が最も多かったのは「シルフィーパワー2号」「プロジェクトX」で20.8枚、最も少なかったのは「エクセレント節成353」の18.8枚であった。
- (2) 収量  
最も本数が穫れた品種は「エクセレント節成2号」で374本であった。  
上物率が最も良かった品種は「フリーダムハウス3号」で66.4%であった。  
10a当たり換算収量は「プロジェクトX」が約11.4tと最も多く、次いで「エクセレント節成2号」「シルフィーパワー2号」が約11.2tであった。

表 1 生育調査 (10株当たり)

品種名 (穂木×台木)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	最大葉		調査月日
			縦径 (cm)	横径 (cm)	
エクセルト節成2号×ゆうゆう一輝黒	13.8	2.7	9.5	8.3	上段：3月28日 (定植時) 下段：5月16日 (収穫時)
	106.7	20.7	26.9	26.6	
エクセルト節成353×ゆうゆう一輝黒	13.7	2.6	8.9	8.0	
	96.9	18.8	26.0	25.9	
プロジェクトX×ときわパワーZ2	17.0	3.0	11.6	10.5	
	96.3	20.8	24.1	25.8	
ズバリ163×ときわパワーZ2	16.2	3.0	10.1	9.3	
	89.1	19.9	24.4	25.3	
シルフィーパワー2号×昇竜	15.2	2.9	10.4	9.6	
	107.9	20.8	26.7	26.6	
フリーダムハウス3号×つやかEX	14.9	2.3	9.9	9.4	
	105.2	19.8	27.3	26.3	

表 2 品種別収量調査 (5株当たり)

(単位：g、本)

品種名 (穂木×台木)	上物		下物		合計		平均1本重	上物率 (%)
	収量	本数	収量	本数	収量	本数		
エクセルト節成2号×ゆうゆう一輝黒	21,955	226	16,764	148	38,719	374	103.5	56.7
エクセルト節成353×ゆうゆう一輝黒	19,372	193	14,972	121	34,344	314	109.4	56.4
プロジェクトX×ときわパワーZ2	20,643	196	18,954	144	39,597	340	116.5	52.1
ズバリ163×ときわパワーZ2	15,857	148	21,443	172	37,300	320	116.6	42.5
シルフィーパワー2号×昇竜	19,482	201	19,452	166	38,934	367	106.1	50.0
フリーダムハウス3号×つやかEX	17,412	167	8,821	73	26,233	240	109.3	66.4

※上物率は収量ベースによる

表 2 つづき

品種名 (穂木×台木)	1棟当たり換	10a当たり換算
	算収量 (kg)	収量 (t)
エクセルト節成2号×ゆうゆう一輝黒	1,115.1	11.2
エクセルト節成353×ゆうゆう一輝黒	989.1	9.9
プロジェクトX×ときわパワーZ2	1,140.4	11.4
ズバリ163×ときわパワーZ2	1,074.2	10.7
シルフィーパワー2号×昇竜	1,121.3	11.2
フリーダムハウス3号×つやかEX	755.5	7.6

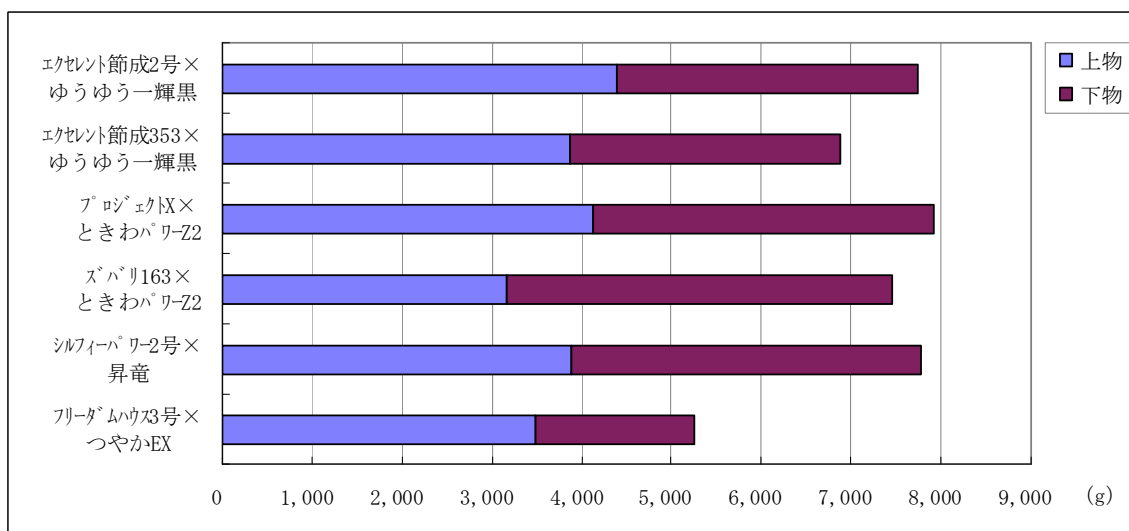


図 1 上物、下物別収量 (1株当たり)

## 施設野菜の部 No.7

調査名：冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（新規：平成22年度～平成24年度）

1 目的 冬期間の施設利用によるこまつな栽培について品種比較し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス7号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- |              |  |
|--------------|--|
| 1) 栽培方法      | 無加温・土耕栽培                                 |
| 2) は種月日      | 平成24年12月12日<br>(不織布べたがけ→12月21日発芽後からトンネル) |
| 3) 栽植距離      | ベッド幅120cm×株間5cm×条間20cm                   |
| 4) 施肥量(kg/a) | 無肥料(きゅうり栽培のあと作)                          |
| 5) 収穫期間      | 平成24年2月8日～20日                            |
| 6) 薬剤散布      | 無し                                       |
| 7) 保温        | 内カーテン                                    |
- (3) 調査区の構成 6区：1区1品種1m(20株)、3区制
- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| (1) なかまち(棚サカタのタネ) | (4) 神楽坂(日本農林社)  |
| (2) わかみ(棚サカタのタネ)  | (5) 楽天(タキイ種苗株)  |
| (3) 河北(棚渡辺採種場)    | (6) CM-8(雪印種苗株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

### 3 結果の概要

- (1) 生育  
収穫は草丈20cm～25cm程度を目処に実施した。生育の早さは「河北」、「わかみ」が早かった。  
葉色が濃い品種は「CM-8」、草姿が良い品種は「河北」、「わかみ」であった。  
欠株率については、「神楽坂」が0%、「わかみ」が10%で少なかった。「楽天」は欠株率が50%と多かった。
- (2) 収量  
a当たりの換算収量は「河北」が最も多く145.8kg。次いで、「わかみ」142.6kg、の順であった。  
1株重についても、「河北」が26.5gと最も重く、次いで「わかみ」が24.4gの順であった。
- (3) 糖度(Brix%)  
最も高かった品種は「河北」と「楽天」で4.9。次いで「なかまち」が4.8であった。



表1 収量等調査(1m:20株当たり)

品種名	生育日数(日)	草丈(cm)	調整収量(g)	1株重(g)	欠株率(%)	a当たり換算収量(kg)	糖度(brix%)
なかまち	59	15.8	220	13.8	20	71.3	4.8
	66	18.4	320	18.8	15	103.7	
わかみ	59	24.8	370	20.6	10	119.9	4.5
	66	25.7	440	24.4	10	142.6	
河北	59	26.1	380	21.1	10	123.1	4.9
	66	25.5	450	26.5	15	145.8	
神楽坂	59	23.2	360	18.0	0	116.6	4.7
	66	22.1	400	20.0	0	129.6	
楽天	59	23.5	340	18.9	10	110.2	4.9
	66	24.7	220	22.0	50	71.3	
CM-8	59	18.1	250	12.5	0	81.0	4.4
	66	19.8	270	19.3	30	87.5	

※上段2/8、下段2/15収穫時調査

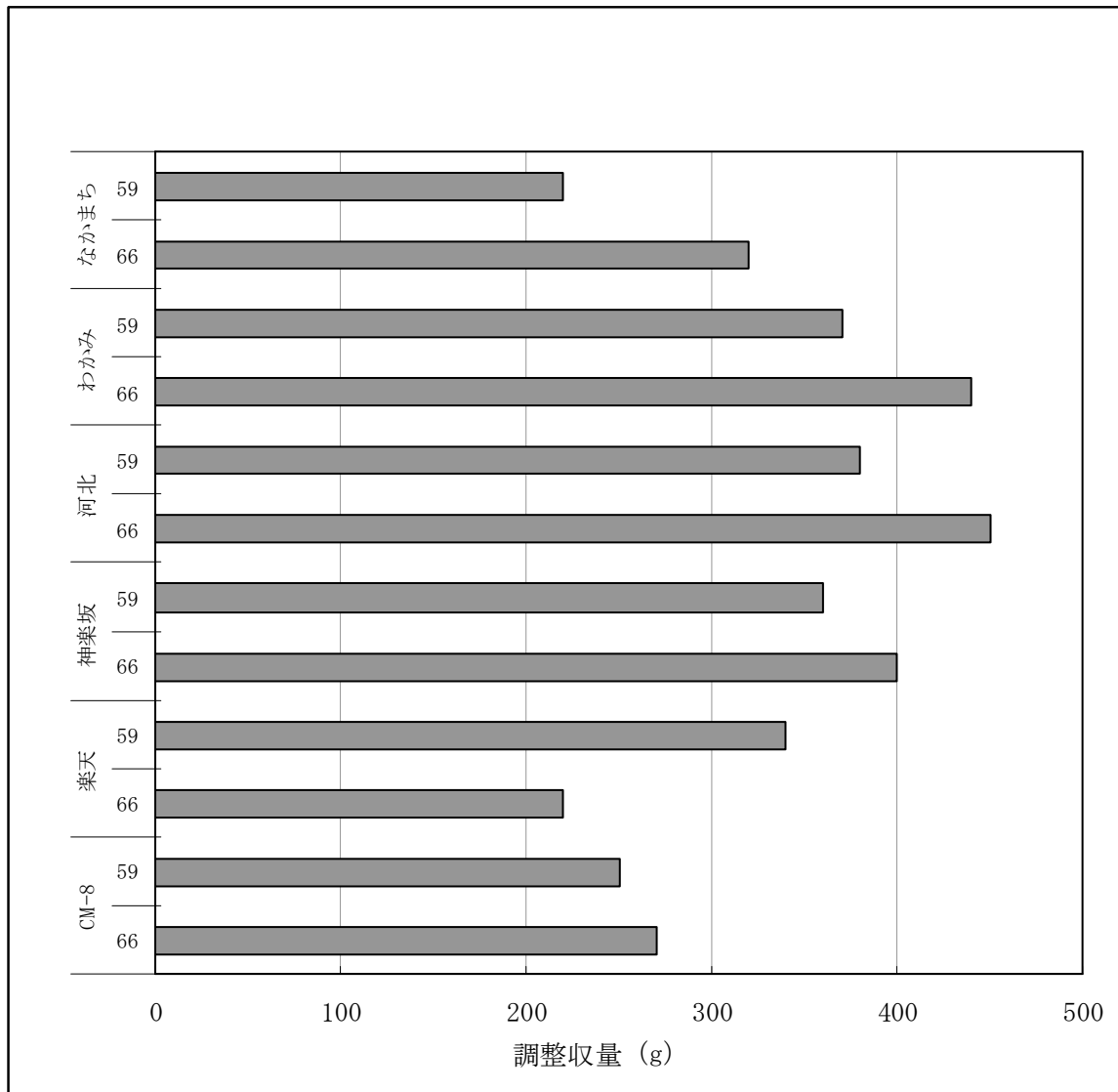


図1 品種別収量(1m:20株当たり)

## 施設野菜の部 No.8

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 8 号（165 m<sup>2</sup>：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成 22 年 12 月 20 日
  - 3) 移植月日 平成 23 年 1 月 14 日（15 cmポット）
  - 4) 定植月日 平成 23 年 2 月 22 日
  - 5) 育苗日数 64 日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N・P・K=4.0・3.88・6.97
  - 8) 使用資材(kg/a) バーク堆肥(N1%-P0.5%-K0.5%)：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成 23 年 5 月 9 日～7 月 29 日
  - 10) 薬剤散布 6 回
  - 11) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを 4～5 日おきに処理）  
倍率：50 倍（20℃未満）、100 倍（20℃以上）
  - 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定）定植後～
  - 13) 摘心 平成 23 年 7 月 22 日（8 段）
- (3) 調査区の構成 6 区（品種） 1 区 10 株 1 区制
- (1) CF 桃太郎はるか（タキイ種苗株）
  - (2) CF 桃太郎ファイト（タキイ種苗株）
  - (3) 朝日和 10（朝日工業株）
  - (4) みそら 64（みかど協和株）
  - (5) ハウス桃太郎（タキイ種苗株）
  - (6) 麗夏（株サカタのタネ）
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

収穫時の調査で最も草丈があった品種は「朝日和 10」の 165 cm、最も草丈がなかったものは「みそら 64」の 138.1 cmとなった。また収穫時の葉数は各品種で概ね 22 枚～25 枚であり、特に「みそら 64」は平均 24.3 枚で、草丈と合わせて節間が詰まった草姿となった。

#### (2) 収量

調査区 10 株当たりで最も収量が多かった品種は順に「朝日和 10」「みそら 64」「ハウス桃太郎」となり、このうち「朝日和 10」は商品化率も 93%で最も高かった。

平均 1 果重については、最も重かったものから順に「朝日和 10」「CF 桃太郎はるか」「ハウス桃太郎」となった。

#### (3) 糖度

最も高かった品種は「CF 桃太郎ファイト」で 6.1 となった。次いで「CF 桃太郎はるか」の 5.2、朝日和 10 の 5.1 の順となり、最も低い品種は「ハウス桃太郎」の 4.8 となった。

表1 生育調査 (10株当たり)

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
C F 桃太郎はるか		45.0	8.8	6.4	0.8	2.9
		155.3	23.4	-	1.2	36.6
CF桃太郎ファイト		42.0	7.8	6.3	0.7	2.6
		146.5	22.6	-	1.0	34.7
朝 日 和 10		50.8	9.8	7.9	0.7	3.1
		165.0	23.5	-	1.1	41.6
み そ ら 64		48.8	10.0	6.5	0.7	3.0
		138.1	24.3	-	1.1	39.1
ハ ウ ス 桃 太 郎		41.2	9.6	7.1	0.7	2.6
		154.0	24.8	-	1.2	41.6
麗 夏		39.8	7.7	6.5	0.8	2.6
		153.3	22.9	0.0	1.2	3.8

※上段 2/22 (定植時)、下段 5/9 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (10株当たり)

品種名	項目	上物		下物		合計		平均 1果重(g)	商品化率 (%)	1棟当たり 換算収量(t)	10a当たり 換算収量(t)	10a当たり 上物収量(t)
		収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)					
C F 桃太郎はるか		28,693	143	5,450	34	34,143	177	192.9	84%	1.1	6.6	5.5
CF桃太郎ファイト		28,819	150	2,655	19	31,474	169	186.2	92%	1.0	6.0	5.5
朝日和10		44,262	200	3,324	17	47,586	217	219.3	93%	1.5	9.1	8.5
みそら64		35,841	199	5,184	36	41,025	235	174.6	87%	1.3	7.9	6.9
ハウス桃太郎		29,363	151	6,042	36	35,405	187	189.3	83%	1.1	6.8	5.6
麗夏		25,827	137	8,955	50	34,782	187	186.0	74%	1.1	6.7	5.0

※上物とはA~B品の合計=商品化とした。

表3 糖度調査結果 (7月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
CF 桃太郎はるか	5.2
CF桃太郎ファイト	6.1
朝 日 和 10	5.1
み そ ら 6 4	4.9
ハ ウ ス 桃 太 郎	4.8
麗 夏	4.9

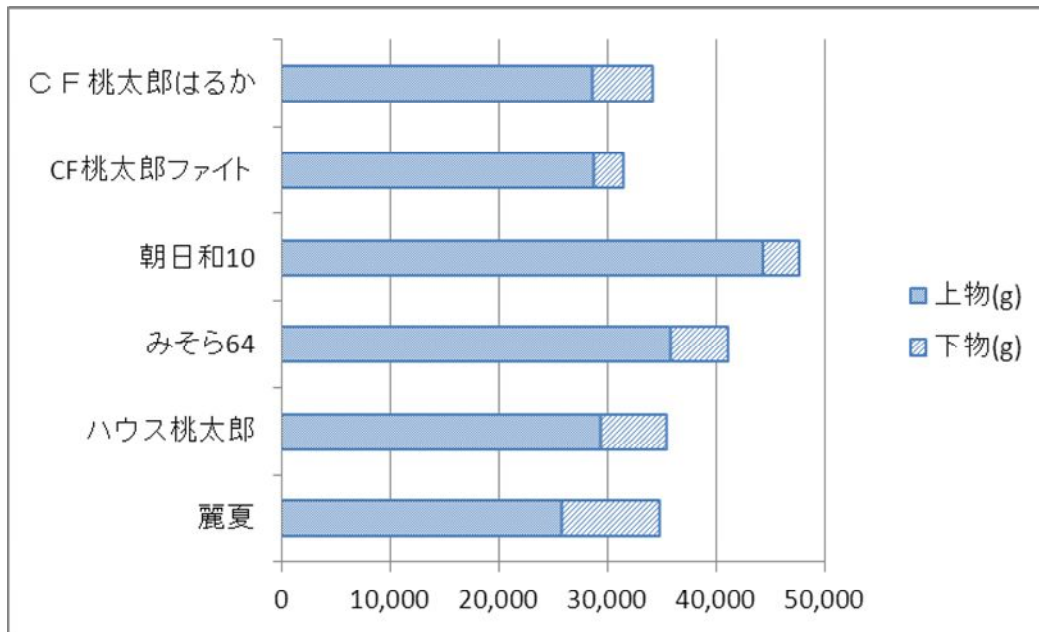


図1 上物、下物別収量（10株当たり）

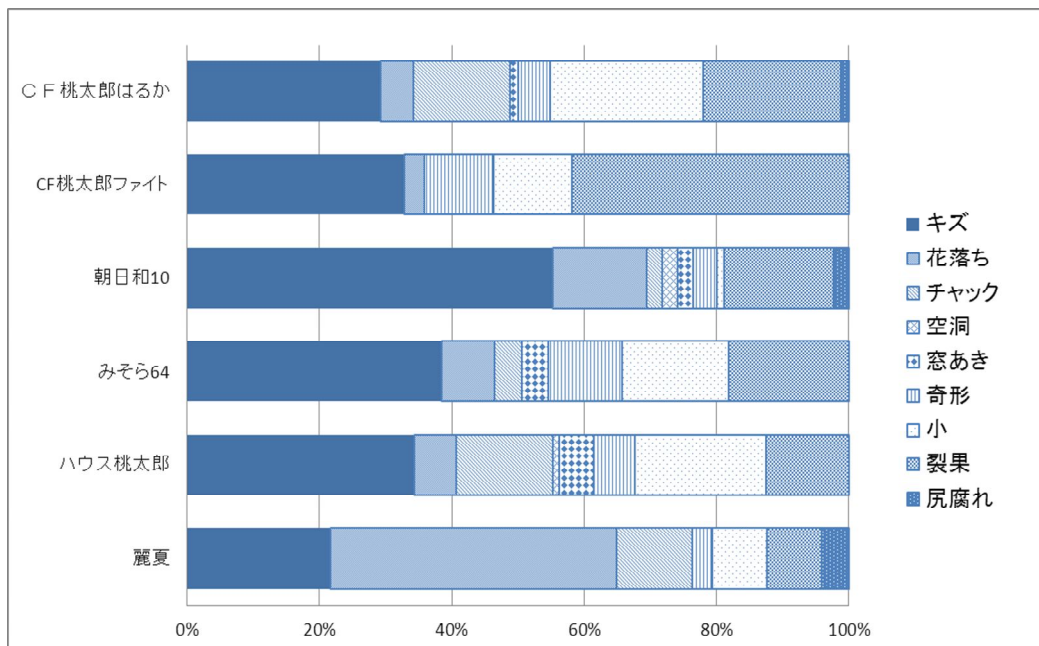


図2 下物の内訳（単位：％）

## 施設野菜の部 No.9

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 5 号 (165 m<sup>2</sup> : 約 50 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成 23 年 2 月 28 日
  - 3) 移植月日 平成 23 年 3 月 18 日 (12 cmポット)
  - 4) 定植月日 平成 23 年 4 月 21 日
  - 5) 育苗日数 52 日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
  - 7) 施肥量 (kg/a) N・P・K = 3.27-2.67-4.55
  - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 200kg、ハイプロ N : 37.6 L、大塚養液土耕 5 号 (～収穫前)、2 号 (収穫開始～)
  - 9) 収穫期間 平成 23 年 6 月 17 日～11 月 11 日
  - 10) 薬剤散布 6 回
  - 11) 着果方法 ホルモン処理 (トマトトーンを 4～5 日おきに処理) 倍率 : 50 倍 (20℃未満)、100 倍 (20℃以上) 内カーテン、温風暖房機 (12℃設定 : ～6 月 14 日)
  - 12) 保温・加温
  - 13) 摘心 平成 23 年 10 月 12 日 (21 段)
- (3) 調査区の構成 8 区 1 区 10 株 1 区制
- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| (1) 麗夏 (㈱サカタのタネ)    | (5) 桃太郎グランデ (タキイ種苗㈱) |
| (2) 朝日和もえか (朝日工業㈱)  | (6) 桃太郎サニー (タキイ種苗㈱)  |
| (3) みそら 64 (みかど協和㈱) | (7) 桃太郎 8 (タキイ種苗㈱)   |
| (4) 桃太郎ギフト (タキイ種苗㈱) | (8) AMS-007 (朝日工業㈱)  |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

収穫時の草丈については各品種それぞれ約 150 cm～180 cm の範囲内でばらつきが見られ、葉数については 23 枚～26 枚となった。

#### (2) 収量

10a 当たり換算収量について、最も多かったものは「麗夏」で 12.4t、次いで「みそら 64」11.1 t、「AMS-007」10.9 t の順であった。

平均 1 果重については、「桃太郎サニー」で最も重く 178.3 g、次いで「みそら 64」175.2 g、「桃太郎ギフト」169.2 g となった。

商品化率については、「麗夏」が 85%と最も高かったが、その他の品種についても「桃太郎ギフト」70%を除き、77%～83%程度であった。

これらの結果から、夏秋栽培用品種としては、収量については「麗夏」が有望と思われる。

#### (3) 糖度

最も高かった品種は「桃太郎ギフト」で 6.9、次いで「桃太郎 8」6.6、「桃太郎グランデ」6.1 であった。

低い品種では、「麗夏」「AMS-007」がともに 5.3 となった。

表1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
麗	夏	33.5	7.1	6.8	0.7	2.4
		177.6	24.1	-	1.2	52.6
朝日和もえか		35.3	8.3	6.7	0.7	2.2
		163.6	26.0	-	1.1	41.7
みそら64		29.0	7.3	6.1	0.7	2.0
		156.1	26.0	-	1.2	45.5
桃太郎ギフト		33.8	7.4	6.8	0.7	1.9
		154.5	23.2	-	1.2	43.9
桃太郎グランデ		35.2	7.8	6.9	0.7	2.2
		168.0	25.0	-	1.2	43.7
桃太郎サニー		32.0	7.6	6.5	0.7	2.1
		149.9	22.9	-	1.3	44.0
桃太郎8		31.8	7.6	6.8	0.7	2.0
		165.6	23.3	-	1.1	51.0
AMS-007		34.9	7.6	7.2	0.6	2.1
		174.8	24.2	-	1.1	48.3

※上段 4/21 (定植時)、下段 6/23 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (10株当たり)

品種名	上物		下物		合計		平均 1果重(g)	商品化率 (%)	1棟当たり 換算収量(t)	10a当たり 換算収量(t)	10a当たり 上物収量(t)
	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)					
麗夏	55,025	315	9,373	72	64,398	387	166.4	85%	2.1	12.4	10.6
朝日和もえか	42,056	276	11,049	105	53,105	381	139.4	79%	1.7	10.2	8.1
みそら64	45,202	245	12,789	86	57,991	331	175.2	78%	1.9	11.1	8.7
桃太郎ギフト	33,084	186	14,473	95	47,557	281	169.2	70%	1.5	9.1	6.4
桃太郎グランデ	35,892	205	10,803	92	46,695	297	157.2	77%	1.5	9.0	6.9
桃太郎サニー	38,724	206	11,545	76	50,269	282	178.3	77%	1.6	9.7	7.4
桃太郎8	40,269	237	10,835	77	51,104	314	162.8	79%	1.6	9.8	7.7
AMS-007	46,742	269	9,835	97	56,577	366	154.6	83%	1.8	10.9	9.0

※上物とはA~B品の合計=商品化(重量ベース)とした。

表3 糖度調査結果 (7月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
麗夏	5.3
朝日和もえか	5.6
みそら64	6.0
桃太郎ギフト	6.9
桃太郎グランデ	6.1
桃太郎サニー	5.7
桃太郎8	6.6
AMS-007	5.3

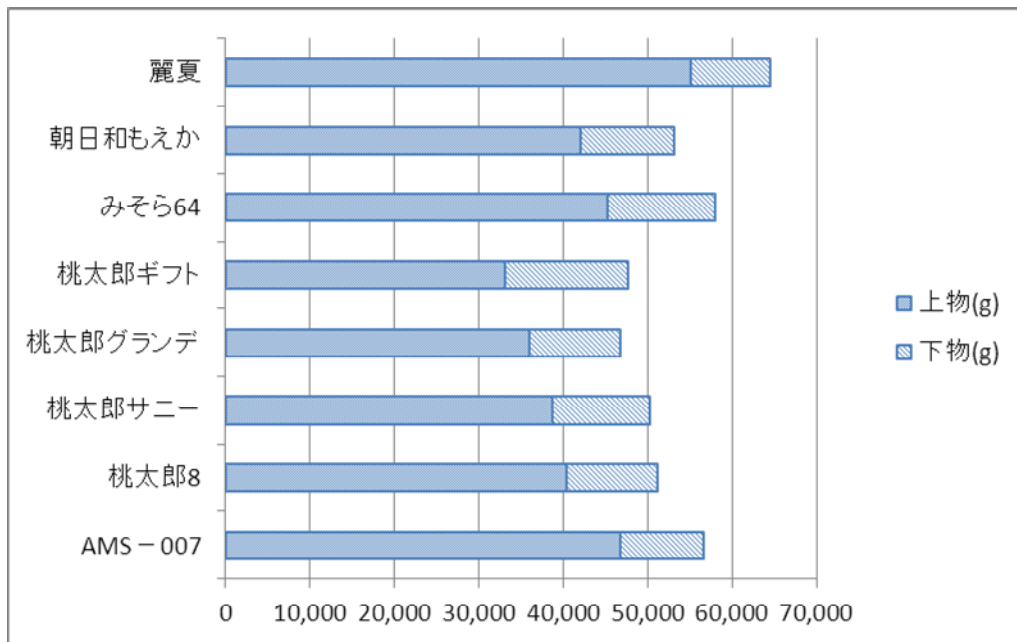


図1 上物、下物別収量（10株当たり）

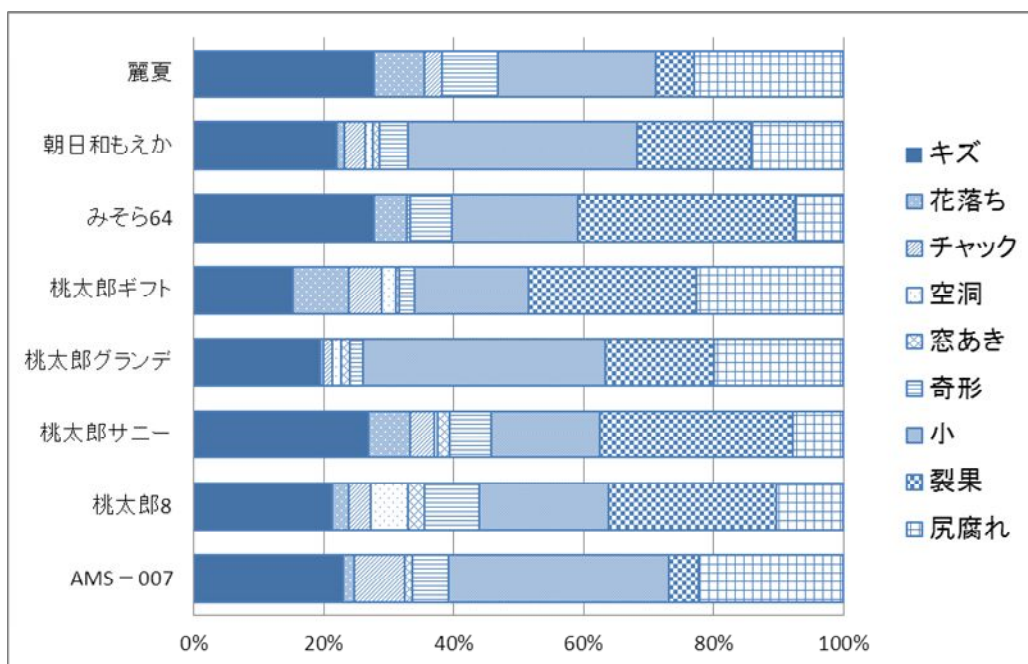


図2 下物の内訳（単位：％）

## 施設野菜の部 No.10

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号（165 m<sup>2</sup>：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成22年12月20日
  - 3) 移植月日 平成23年1月14日（15 cmポット）
  - 4) 定植月日 平成23年2月18日
  - 5) 育苗日数 60日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅120 cm、株間40 cm、2条植え 320株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N・P・K=2.3・2.91・3.94
  - 8) 使用資材(kg/a) バーク堆肥(N1%-P0.5%-K0.5%)：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成23年5月6日～7月27日
  - 10) 薬剤散布 6回
  - 11) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを4～5日おきに処理）  
倍率：50倍（20℃未満）、100倍（20℃以上）  
内カーテン、温風暖房機（12℃設定）定植後～
  - 12) 保温・加温
  - 13) 摘心 平成23年7月22日（8段）
- (3) 調査区の構成 6区（品種） 1区10株 1区制
- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| (1) キャロル10(株サカタのタネ)  | (4) キャロルクイーン((株)サカタのタネ) |
| (2) SC7-040(株サカタのタネ) | (5) サンチェリーピュア(トキタ種苗株)   |
| (3) ラブリー藍(みかど協和株)    | (6) CF千果(タキイ種苗株)        |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

収穫時の草丈が最も高かった品種は「キャロル10」で191.4 cm、低かった品種は「ラブリー藍」で160.1 cmであった。

葉数については、最も草丈が低かった「ラブリー藍」で25.8枚であったが、その他の品種については約27～29枚程度であり、「キャロル10」では27.4枚で、やや他の品種と比べて節間が長い草姿となった。

#### (2) 収量

10a当たり換算収量は「SC7-040」が最も高く4.9 t、次いで「サンチェリーピュア」4.8 t、「キャロルクイーン」4.5 tとなった。

重量上物率については、「ラブリー藍」で93%、次いで「サンチェリーピュア」92%であったが、他の品種でも約90%程度で安定していた。

以上より、「SC7-040」が良い成績であった。

#### (3) 糖度

最も高かった品種は「SC7-040」で9.3。最も低かったものは「サンチェリーピュア」で6.7となった。



表1 生育調査

項目 品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
キャロル10	47.8 191.4	9 27.4	6.7 -	0.6 1.1	2.3 37.3
SC7-040	52.6 189.1	8.8 27.8	5.8 -	0.7 1.2	2.6 37.2
ラブリー藍	42.9 160.1	8.7 25.8	6.8 -	0.7 1.1	2.4 31.5
キャロルクイーン	48.5 178.3	9.8 29.4	7.2 -	0.7 1.1	2.5 32.7
サンチェリーピュア	55.7 179	10.7 29.1	7.5 -	0.7 1.1	2.5 29.1
CF千果	46.4 171.6	9.1 27.2	6.1 -	0.8 1.1	2.5 35.6

※上段 2/18 (定植時)、下段 5/6 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L		L		M		S		2S	
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数
キャロル10	105	5	551	33	2,448	198	5,262	594	1,322	214
SC7-040	81	4	2,306	148	5,531	441	3,603	393	697	114
ラブリー藍	21	1	2,857	175	5,446	418	1,530	156	123	20
キャロルクイーン	67	3	957	57	4,852	393	5,127	562	331	52
サンチェリーピュア	94	4	1,225	74	5,930	477	4,789	499	149	24
CF千果	22	1	1,604	98	5,813	466	2,933	310	235	39

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上物率	10a換算収量 (t)	上物個数に 占めるLM率	10a当たり 上物収量(t)
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数					
キャロル10	9,688	1,044	1,153	143	10,841	1,187	9.1	89%	3.9	22%	3.5
SC7-040	12,218	1,100	1,284	124	13,502	1,224	11.0	90%	4.9	54%	4.4
ラブリー藍	9,977	770	741	57	10,718	827	13.0	93%	3.9	77%	3.6
キャロルクイーン	11,334	1,067	1,263	121	12,597	1,188	10.6	90%	4.5	42%	4.1
サンチェリーピュア	12,187	1,078	1,030	89	13,217	1,167	11.3	92%	4.8	51%	4.4
CF千果	10,607	914	1,478	140	12,085	1,054	11.5	88%	4.4	62%	3.8

※上物とは2L~2Sの合計

表3 糖度調査 (7月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
キャロル10	7.8
SC7-040	9.3
ラブリー藍	7.1
キャロルクイーン	7.3
サンチェリーピュア	6.7
CF千果	7.0

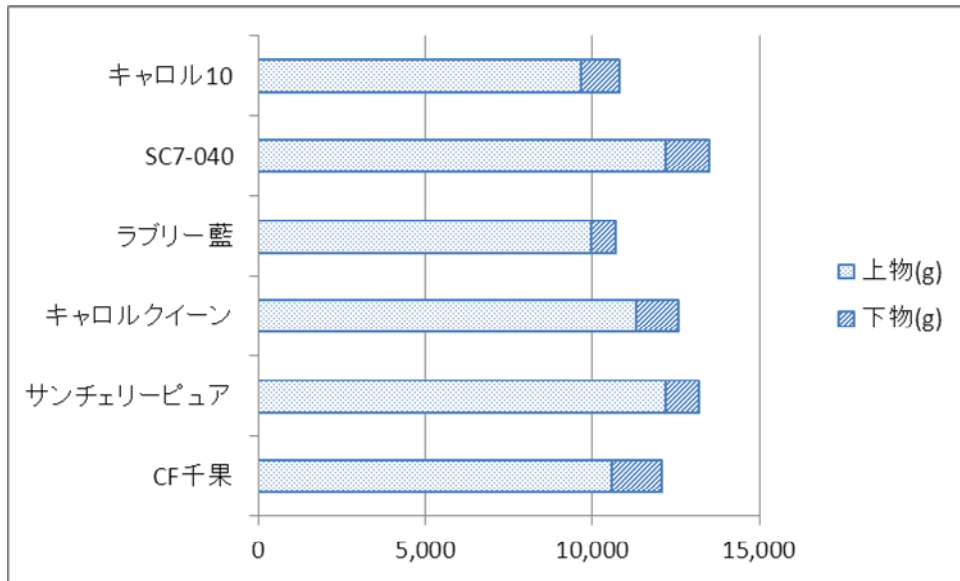


図1 上物、下物別収量（5株当たり）

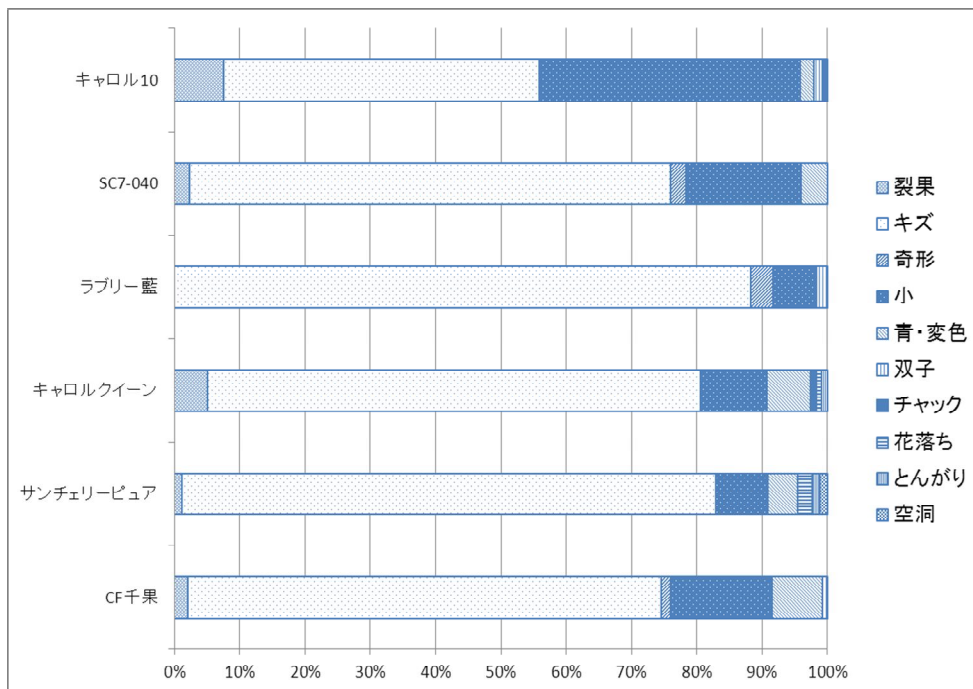


図2 下物の内訳（単位：%）

## 施設野菜の部 No.11

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成19年度～平成24年度）

1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m<sup>2</sup>：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成23年2月28日
  - 3) 移植月日 平成23年3月18日（12cmポット）
  - 4) 定植月日 平成23年4月21日
  - 5) 育苗日数 52日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N・P・K=3.27-2.67-4.55
  - 8) 使用資材(kg/a) バーク堆肥(N1%-P0.5%-K0.5%)：200kg、ハイプロN：37.6L、大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成23年6月15日～11月11日
  - 10) 薬剤散布 9回
  - 11) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを4～5日おきに処理）  
倍率：50倍（20℃未満）、100倍（20℃以上）
  - 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定：～6月14日）
  - 13) 摘心 平成23年10月12日（21段）
- (3) 調査区の構成 7区（品種） 1区10株 1区制
- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| (1) キャロル10(㈱サカタのタネ)  | (4) キャロルクイーン(㈱サカタのタネ) |
| (2) SC7-040(㈱サカタのタネ) | (5) サンチェリーピュア(トキタ種苗㈱) |
| (3) ラブリー藍(みかど協和㈱)    | (6) CF千果(タキイ種苗㈱)      |
|                      | (7) N-30(㈱吉田種苗)       |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

収穫時の草丈が最も高かったのは「キャロル10」で285.2cm。最も低かった品種は「CF千果」の231.4cmで、他の品種は「ラブリー藍」の269.5cmを除いて250cm前後であった。葉数については、「キャロル10」が27.3枚、「キャロルクイーン」が26.5枚であり、その他の品種は概ね30枚前後であった。

#### (2) 収量

10a当たり換算収量について、「キャロルクイーン」が最も多く6.2t、次いで「サンチェリーピュア」「SC7-040」が共に5.9tであった。また、上物率は「ラブリー藍」「キャロルクイーン」が共に92%で最も高かった。

#### (3) 糖度

最も高かった品種は「SC7-040」で8.6、次いで「N-30」の8.1の順であった。

表1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
キャロル10		62.8	10.7	6.1	0.7	3.0
		285.2	27.3	-	1.0	47.8
SC7-040		58.8	10.1	5.6	0.8	2.9
		251.8	30.4	-	1.0	44.0
ラブリー藍		58.8	10.4	6.2	0.7	2.8
		269.5	30.7	-	1.0	47.2
キャロルクイーン		61.5	11.2	7.5	0.7	3.0
		254.2	26.5	-	1.0	51.2
サンチェリーピュア		64.4	11.8	7	0.7	2.6
		249.3	28.9	-	1.0	44.9
CF千果		60	10.2	5.7	0.7	3.0
		231.4	30.7	-	1.0	44.1
N-30		53.6	10.4	6.2	0.7	3.1
		251.3	30.9	-	1.0	41.6

※上段 4/21 (定植時)、下段 6/23 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L		L		M		S		2S	
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数
キャロル10	22	1	698	43	3,092	249	7,806	905	1,801	296
SC7-040	43	2	2,369	144	6,018	480	5,367	591	1,003	164
ラブリー藍	0	0	2,760	166	6,678	530	4,444	472	440	70
キャロルクイーン	296	13	2,588	151	5,341	422	6,265	692	1,346	196
サンチェリーピュア	0	0	2,140	129	7,859	633	4,237	442	181	30
CF千果	0	0	2,207	137	6,505	508	4,441	475	312	50
N-30	44	2	771	46	2,251	184	4,567	523	1,651	266

表2 続き

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上物率	10a換算収量 (t)	上物個数に 占める比率	10a当たり 上物収量(t)
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数					
キャロル10	13,419	1,494	1,520	216	14,939	1,710	8.7	90%	5.4	20%	4.8
SC7-040	14,800	1,381	1,648	210	16,448	1,591	10.3	90%	5.9	45%	5.3
ラブリー藍	14,322	1,238	1,181	124	15,503	1,362	11.4	92%	5.6	56%	5.2
キャロルクイーン	15,836	1,474	1,307	150	17,143	1,624	10.6	92%	6.2	39%	5.7
サンチェリーピュア	14,417	1,234	1,902	170	16,319	1,404	11.6	88%	5.9	62%	5.2
CF千果	13,465	1,170	1,588	163	15,053	1,333	11.3	89%	5.4	55%	4.8
N-30	9,284	1,021	2,294	425	11,578	1,446	8.0	80%	4.2	23%	3.3

※上物とは2L-2Sの合計

表3 糖度調査 (7月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
キャロル10	6.7
SC7-040	8.6
ラブリー藍	6.9
キャロルクイーン	7.0
サンチェリーピュア	7.2
CF千果	6.7
N-30	8.1

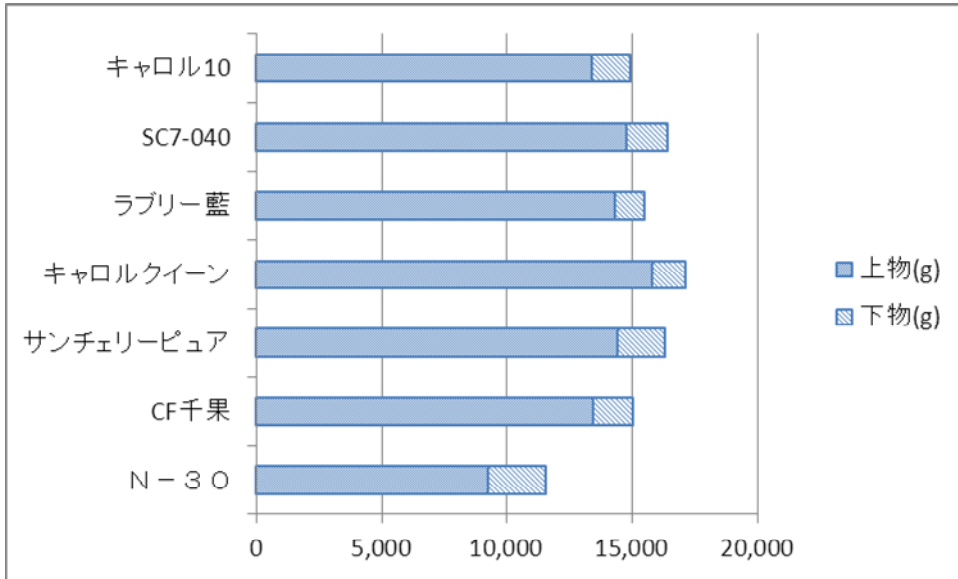


図1 上物、下物別収量 (5株当たり)

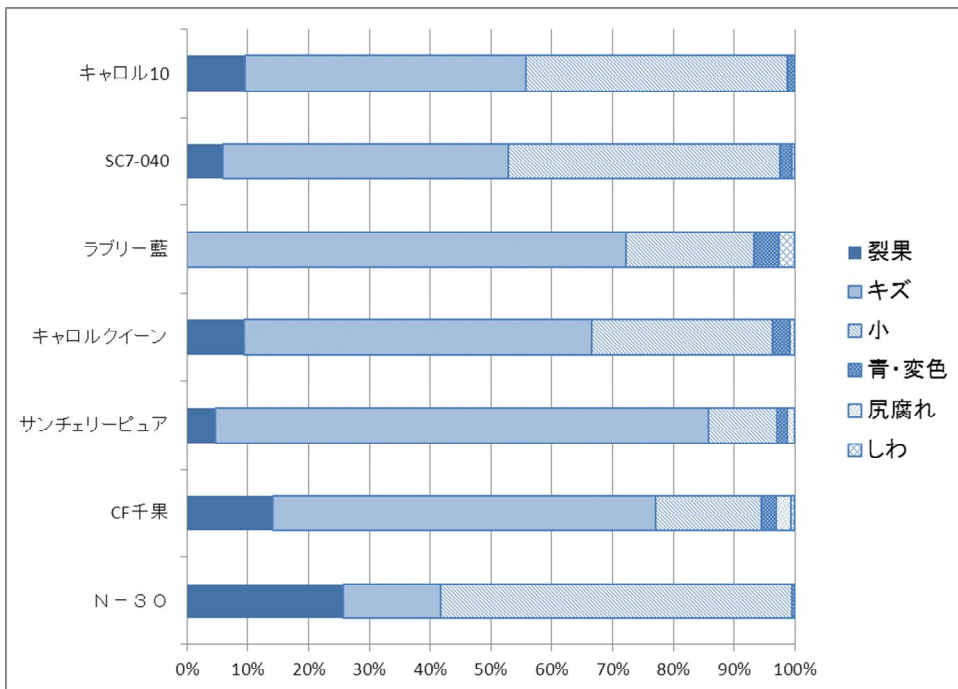


図2 下物の内訳 (単位: 個)

## 施設野菜の部 No.12

調査名：ミニトマトの作型比較調査（新規 平成 23 年度～平成 25 年度）

- 1 目的 当地域におけるミニトマトの主な作型（①夏秋：5月中旬定植、②半促成+抑制、③長期）について比較調査をすることで、今後の単収増を図る上での参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 3号（約 132 m<sup>2</sup>：約 40 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培  
(半促成) (夏秋) (抑制) (長期)
- 2) は種月日 平成 23 年 2 月 1 日、4 月 14 日、7 月 15 日、2 月 1 日
- 3) 定植月日 平成 23 年 3 月 25 日、5 月 16 日、8 月 3 日、3 月 25 日
- 4) 育苗日数 半促成：52 日 夏秋：32 日 抑制：19 日 長期：52 日
- 5) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
- 6) 施肥量(kg/a) N・P・K=4.0・3.6・7.0
- 7) 使用資材(kg/a) バーク堆肥(N1%-P0.5%-K0.5%)：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
- 8) 収穫期間 半促成：平成 23 年 5 月 27 日～8 月 1 日  
夏秋：平成 23 年 7 月 27 日～11 月 21 日  
抑制：平成 23 年 10 月 3 日～11 月 21 日  
長期：平成 23 年 5 月 30 日～11 月 21 日
- 10) 薬剤散布 9 回
- 11) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを 4～5 日おきに処理）  
倍率：50 倍（20℃未満）、100 倍（20℃以上）
- 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定）
- 13) 摘心 平成 23 年 7 月 22 日（半促成：10 段）  
平成 23 年 10 月 12 日（夏秋：14 段、抑制：4 段、長期：17 段）
- (3) 調査区の構成 3 区（品種：キャロル 10 株サカタのタネ）  
(1) ①夏秋型  
(2) ②半促成+抑制型  
(3) ③長期型
- (4) 調査項目 収量、糖度

### 3 結果の概要

#### (1) 収量

10a 当たり収量については、「夏秋型」が 3.4 t、「長期型」が 6.4 t、「半促成+抑制型」が 4.6 t となり、「長期型」が最も収量が多い結果となったが、平均 1 果重については「長期型」が 8.8 g であり最も低い結果であった。

上物個数に占める LM 率については、「夏秋型」が 51% となり、「半促成+抑制型」、「長期型」を上回った。また、重量上物率についても、「夏秋型」が 91% で他の作型を上回った。

#### (2) 糖度

半促成型では 8.3、長期型では 8.4 で、両区でほぼ同じ結果であった。

表1 収量調査 (5株当たり合計)

品種名	2L		L		M		S		2S	
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数
キャロル10(半促成型)	0	0	1,074	66	2,534	206	4,396	492	938	157
キャロル10(抑制型)	0	0	394	25	1,310	105	778	86	49	8
キャロル10(夏秋型)	24	1	1,543	96	3,944	309	2,531	283	620	101
キャロル10(長期型)	91	4	1,857	112	3,666	302	7,743	884	1,957	325
キャロル10(半促成型+抑制型)	0	0	1,468	91	3,844	311	5,174	578	987	165

表1 続き

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上物率	10a換算収量 (t)	上物個数に 占めるLM率
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数				
キャロル10(半促成型)	8,942	921	1,239	167	10,181	1,088	9.4	88%	3.7	30%
キャロル10(抑制型)	2,531	224	94	12	2,625	236	11.1	96%	0.9	58%
キャロル10(夏秋型)	8,662	790	817	120	9,479	910	10.4	91%	3.4	51%
キャロル10(長期型)	15,314	1,627	2,473	394	17,787	2,021	8.8	86%	6.4	25%
キャロル10(半促成型+抑制型)	11,473	1,145	1,333	179	12,806	1,324	9.7	90%	4.6	35%

※上物とは2L~2Sの合計

表2 糖度調査 (7月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
キャロル10(半促成型)	8.3
キャロル10(長期型)	8.4

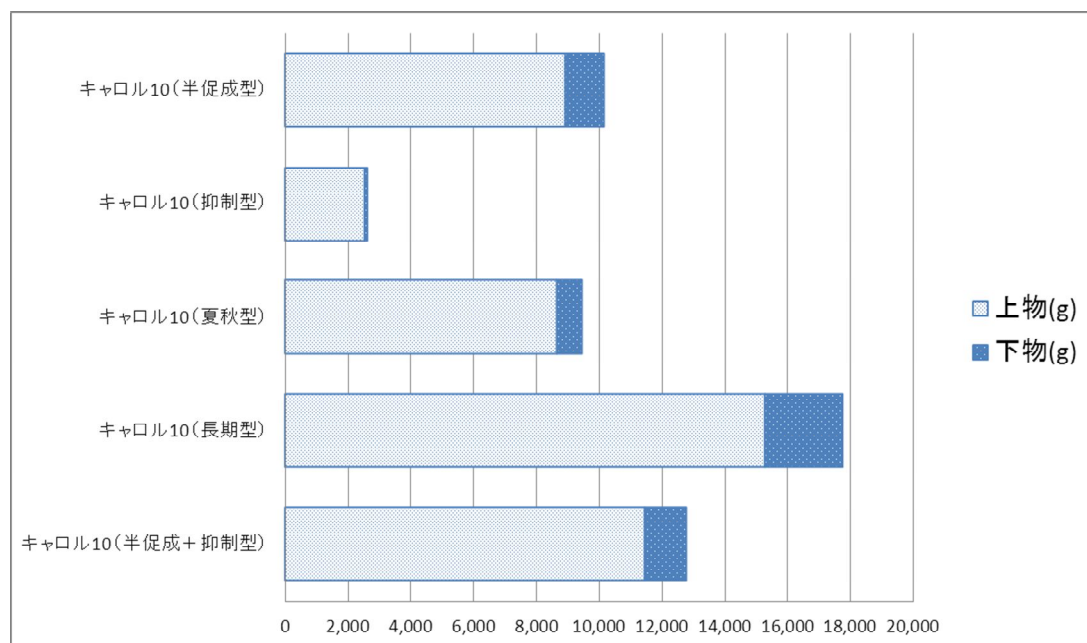


図1 上物、下物別収量 (5株当たり)

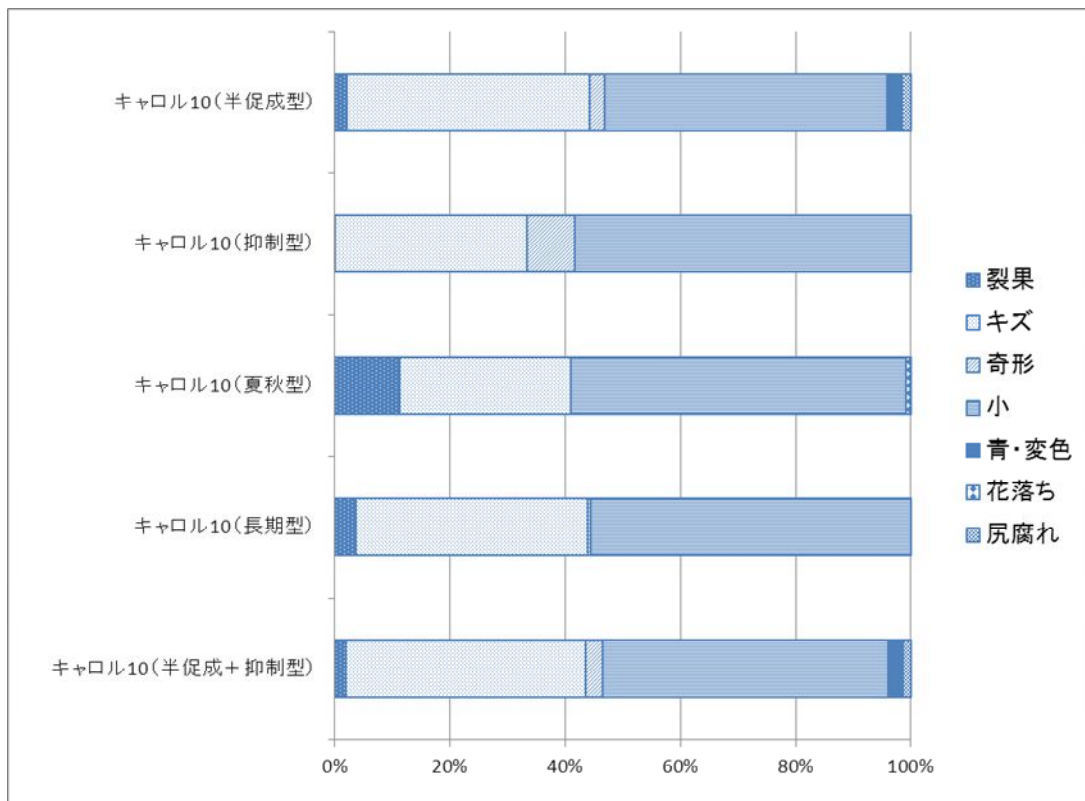


図2 下物の内訳 (単位：%)



## 2-3 調査成績（露地野菜）

### 露地野菜の部 No.1

調査名：ねぎの品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 ねぎの周年栽培を実施し、当地域における周年出荷の可能性及びねぎの適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303（264穴）2粒播き
- 2) は種及び定植月日
- |   | 〈は種〉       | 〈定植〉       |
|---|------------|------------|
| ① | 平成22年12月2日 | 平成23年3月30日 |
| ② | 平成23年4月6日  | 平成23年5月20日 |
| ③ | 平成23年5月9日  | 平成23年6月14日 |
- 3) 栽植距離 うね幅100cm、株間5cm
- 4) 植付本数 40,000本/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=18-18-18kg/10a
- 6) 使用資材 堆肥：2t/10a  
（基肥）ハイパーCDU555：40kg/10a  
（追肥）ハイパーCDU555：80kg/10a/2回
- 7) 収穫月日 ①平成23年7月28日  
②平成23年9月27日  
③平成23年10月28日
- 8) 薬剤散布 ①平成23年5月20日～7月22日（6回）  
②平成23年6月16日～9月16日（11回）  
③平成23年6月28日～10月5日（11回）
- (3) 調査区の構成
- |      |   |
|------|---|
| 区制   | 9区(1区2.5m、1区制)  |
| 供試品種 | K-904(パ)、K-924(パ)、夏扇 <sup>パ</sup> ラー(サ)、<br>みちのく701(パ)、夏扇2号(サ)、夏扇4号(サ)、<br>Y0-810(吉)、夏秋白扇5号(吉)、おいらせ111(パ) |
- ※ Y0-810については、12月2日、4月6日は種のみ調査  
※ パ：(株)パセリー菜、サ：(株)サカタのタネ  
吉：吉田種苗(株)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
- 4/2 定植(8/10 収穫)は「おいらせ111」、5/19 定植(9/24 収穫)は「夏扇パワー」、6/18 定植(11/4 収穫)は「夏秋白扇5号」が有望と思われる。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、4月、5月の低温及び4月から6月まで日照不足だったため、春先の生育は遅れ気味で推移した。また6月、7月に高温、乾燥が続き、その中での最終培土となったため7月28日収穫のねぎで外葉に焼けた症状が発生した。9月下旬に発生した台風15号の影響により10月28日収穫のねぎで曲がりや折れが発生した。
- 2) 病害虫については、萎凋病が散見された。その他、アザミウマ、ネギコガが確認された。
- 3) 収量調査の結果から、作型別で有望と思われる品種は次のとおりであった。
- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 〈3/30 定植(7/28 収穫)〉  | ・・・「K-924」 |
| 〈5/20 定植(9/27 収穫)〉  | ・・・「夏扇4号」  |
| 〈6/14 定植(10/28 収穫)〉 | ・・・「K-904」 |

- 4) 品質については、次のとおりであった。
- 〈3/30 定植( 7/28 収穫)〉「夏扇パワー」は首締まりがやや悪かった。「夏扇2号」は細物が多く2L,L率が低かった。また分岐部近くが焼けた症状が多く発生した。
- 〈5/20 定植( 9/27 収穫)〉「夏扇2号」はボケが少ないが細物が多く2L,L率が低かった。「Y0-810」は収穫遅れによる胴割れが発生し、「夏秋白扇5号」は葉が折れやすい傾向があった。
- 〈6/14 定植(10/28 収穫)〉「K-904」は病気の発生が少なかった。「K-924」は曲がりが多く発生した。「夏扇2号」は病気の発生が少なかった。また葉は短いが他の品種に比べ折れやすい傾向があった。「夏扇4号」は葉の折れが他の品種に比べ多い傾向があった。「おいらせ111」は病気の発生が少なかった。また揃いが良く、ボケが少なかったが、曲がりが多く発生した。

(3) 次年度以降の計画  
品種の検討

表1 収量調査

は種 月日	定植 月日	調査 月日	品種	調整後 1本重(g)	全長 (cm)	分枝点 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L率 (%)	A品率 (%)	総収量 (kg/10a)	出荷数 (箱/10a)
12/2	3/30	7/28	K-904	131.2	103.6	40.3	32.9	18.4	88.0	95.0	3,935	653
			K-924	126.6	104.7	38.9	30.3	19.5	88.0	94.0	3,798	686
			夏扇パワー	144.1	101.8	38.8	30.7	19.2	85.0	96.0	4,324	651
			みちのく701	128.6	101.6	38.7	30.2	19.2	86.0	96.0	3,858	660
			夏扇2号	109.3	94.8	38.1	30.0	17.9	66.0	93.0	3,280	620
			夏扇4号	134.9	103.1	39.6	30.8	18.6	79.0	94.0	4,047	638
			Y0-810	126.8	105.7	38.8	29.9	19.1	84.0	95.0	3,805	666
			夏秋白扇5号	133.0	101.6	39.4	29.8	19.2	86.0	95.0	3,989	670
			おいらせ111	133.2	100.0	38.8	30.1	18.8	82.0	97.0	3,995	653
4/6	5/20	9/27	K-904	156.1	101.7	42.6	31.9	20.5	97.0	98.0	4,682	761
			K-924	143.9	108.3	44.7	31.0	20.3	95.0	97.0	4,317	731
			夏扇パワー	175.2	101.3	44.4	34.9	20.9	98.0	91.0	5,256	760
			みちのく701	164.3	102.5	44.6	33.1	20.5	95.0	95.0	4,928	751
			夏扇2号	143.0	94.3	42.4	35.6	19.1	75.0	91.0	4,289	671
			夏扇4号	168.6	100.2	41.6	30.4	21.2	98.0	95.0	5,057	826
			Y0-810	158.7	107.9	43.2	30.5	20.2	94.0	92.0	4,761	713
			夏秋白扇5号	162.6	101.1	44.5	34.4	20.4	98.0	90.0	4,879	756
			おいらせ111	167.3	100.9	43.7	32.7	20.9	92.0	96.0	5,018	800
5/9	6/14	10/28	K-924	175.1	106.2	44.2	37.1	20.6	92.0	81.0	5,253	766
			K-924	144.8	115.7	45.4	35.7	20.2	88.0	78.0	4,345	746
			夏扇パワー	166.9	105.2	43.4	34.8	20.4	89.0	91.0	5,006	758
			みちのく701	169.5	105.8	43.0	34.0	20.3	91.0	94.0	5,084	750
			夏扇2号	143.1	96.2	39.9	32.5	19.9	91.0	83.0	4,294	721
			夏扇4号	150.1	103.4	41.7	30.6	20.2	87.0	80.0	4,503	728
			夏秋白扇5号	158.0	104.1	41.7	32.6	19.8	88.0	82.0	4,741	710
			おいらせ111	167.2	104.4	43.7	36.7	20.5	97.0	79.0	5,016	758

※ 収量：40,000本/10a×75%(出荷率)×調整後1本重

表2 規格別割合 (%)

収穫日	品種	2L	L	M	S
7/28	K-904	2	86	12	
	K-924	12	76	12	
	夏扇パワー	3	82	15	
	みちのく701	5	81	14	
	夏扇2号	3	63	34	
	夏扇4号	2	77	21	
	Y0-810	8	76	16	
	夏秋白扇5号	8	78	14	
おいらせ111	5	77	18		

収穫日	品種	2L	L	M	S
9/27	K-904	30	67	3	
	K-924	22	73	5	
	夏扇パワー	29	69	2	
	みちのく701	28	67	5	
	夏扇2号	14	61	25	
	夏扇4号	49	49	2	
	Y0-810	17	77	6	
	夏秋白扇5号	28	70	2	
おいらせ111	44	48	8		

収穫日	品種	2L	L	M	S
10/28	K-924	34	58	8	
	K-924	30	58	12	
	夏扇パワー	33	56	11	
	みちのく701	32	59	7	2
	夏扇2号	21	70	9	
	夏扇4号	25	62	13	
	夏秋白扇5号	19	69	12	
	おいらせ111	29	68	3	

表3 出荷数量 (箱/10a)

収穫日	品種	2L	L	M	S
7/28	K-904	21	611	64	
	K-924	128	540	64	
	夏扇パワー	32	583	80	
	みちのく701	53	576	74	
	夏扇2号	32	448	181	
	夏扇4号	21	547	112	
	Y0-810	85	540	85	
	夏秋白扇5号	85	554	74	
おいらせ111	53	547	96		

収穫日	品種	2L	L	M	S
9/27	K-904	320	476	16	
	K-924	234	519	26	
	夏扇パワー	309	490	10	
	みちのく701	298	476	26	
	夏扇2号	149	433	133	
	夏扇4号	522	348	10	
	Y0-810	181	547	32	
	夏秋白扇5号	298	497	10	
おいらせ111	469	341	42		

収穫日	品種	2L	L	M	S
10/28	K-924	352	398	58	
	K-924	266	440	69	
	夏扇パワー	224	497	48	
	みちのく701	320	412	64	
	夏扇2号	362	412	42	
	夏扇4号	341	419	37	2
	夏秋白扇5号	202	490	64	
	おいらせ111	309	483	16	

## 露地野菜の部 No.2

調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：平成23年度～平成24年度）

1 目的 露地栽培において、品種比較調査をし、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) は種及び定植月日
- |   | 〈は種〉       | 〈定植〉       |
|---|------------|------------|
| ① | 平成23年2月17日 | 平成23年5月2日  |
| ② | 平成23年3月8日  | 平成23年5月17日 |
- 3) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
- 4) 定植株数 1,300株/10a
- 5) 施肥量(kg/10a) N-P-K=44.4-33.6-44.4
- 6) 使用資材(kg/10a) 堆肥：2t  
(基肥) 野菜エコブレンド：300kg(10-10-10)  
(追肥) くみあい燐硝安加里S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
- 7) 収穫期間 平成23年6月13日～10月24日
- 8) 薬剤散布 平成23年6月8日～9月16日(10回)
- (3) 調査区の構成
- | 調査区  | 7区(1区5株、1区制)           |
|------|------------------------|
| 供試品種 | かがやき (株南国育種研究農場)       |
|      | かがやきK (株南国育種研究農場)      |
|      | スーパーかがやき (株南国育種研究農場)   |
|      | 武蔵 (株南国育種研究農場)         |
|      | さらら ((財)日本園芸生産研究所)     |
|      | みおぎ ((財)日本園芸生産研究所)     |
|      | みおぎグリーン ((財)日本園芸生産研究所) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果  
作型では、4月下旬定植が収量が高い傾向がある。品種については、「スーパーかがやき」が有望と思われる。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、春先の低温及び夏場の猛暑の影響は確認されなかった。発芽揃いは各品種とも良く、特に「さらら」、「みおぎグリーン」は、は種後7日間でほぼ発芽した。草姿については、「武蔵」が他の品種に比べ優っていた。
  - 2) 病害虫については、タバコガ、アブラムシによる果実への被害が確認された。
  - 3) 総収量については、平年を上回る結果となった。作型別では「かがやき」以外は2月中旬は種で高い傾向があり、品種別では2月中旬は種で「みおぎ」、3月上旬は種で「かがやき」が高い結果となった。
  - 4) 品質については、5月、10月上旬の低温の影響により6月、10月にとんがり果や黒変果などの奇形果が多く発生した。また6月、7月の乾燥により、ひび割れ果が発生した。「武蔵」については尻腐れ果の発生が他の品種に比べ多かった。上物率は、「さらら」が高い結果となった。
  - 5) 果実の形状については、「かがやき」と比較すると「武蔵」は縦に長く、果肉が厚い傾向があった。「さらら」は収穫後半になっても果色が濃く、収穫期間を通して果肉が軟らかい傾向があった。  
以上の結果、本年度の試験では3月8日は種の「かがやき」が有望と思われる。
- (3) 次年度以降の計画  
品種の検討

表1 生育調査

【定植時】

単位：cm

月日	品種	草丈	分枝点長	枝幅	葉の大きさ		葉数	茎の太さ
					縦径	横径		
5月2日 ※は種：2月17日	かがやき	25.4	22.2	40.2	19.9	6.6	15.3	0.66
	かがやきK	22.3	19.9	37.5	18.8	6.5	14.8	0.67
	スーパーかがやき	19.5	16.5	32.9	16.9	5.4	14.2	0.68
	武蔵	23.3	20.1	44.1	23.0	7.9	16.0	0.71
	さらら	25.0	21.6	37.3	18.2	6.0	15.8	0.65
	みおぎ	21.5	17.9	39.3	19.5	6.0	15.7	0.70
	みおぎグリーン	23.2	19.7	40.6	20.7	6.0	15.4	0.74

【収穫開始時】

単位：cm

月日	品種	草丈	分枝点長	枝幅	葉の大きさ		葉数 全部	茎の太さ
					縦径	横径		
6月13日 ※は種：2月17日	かがやき	52.1	24.4	51.5	25.9	8.3	19.4	1.12
	かがやきK	48.6	23.0	49.7	25.7	8.6	18.8	1.10
	スーパーかがやき	44.5	17.8	46.4	23.6	7.3	17.0	1.09
	武蔵	50.0	22.1	58.8	28.7	9.9	18.7	1.19
	さらら	55.6	22.2	50.3	25.7	7.5	18.7	1.20
	みおぎ	48.6	20.0	52.8	25.6	8.0	18.3	1.26
	みおぎグリーン	48.8	20.4	54.7	27.8	8.0	18.5	1.19

表2 収量調査

年度	は種 月日	定植 月日	収穫 開始日	品種	A品 (g)	A品 個数	B品 (g)	B品 個数	収量 (g)	個数 (ヶ)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	総収量 (t/10a)	A品の10a換 算収量(t)
23	2/17	5/2	6/13	かがやき	5,962	185	1,628	52	7,591	237	78.1	32	9.9	7.7
				かがやきK	6,244	202	1,242	39	7,487	241	83.7	31	9.7	8.1
				スーパーかがやき	6,101	181	1,910	60	8,011	240	75.2	33	10.4	7.8
				武蔵	6,388	196	1,176	35	7,564	231	84.8	33	9.8	8.3
				さらら	6,492	208	1,008	35	7,499	243	85.6	31	9.7	8.3
				みおぎ	6,630	220	2,432	78	9,061	298	74.0	30	11.8	8.7
				みおぎグリーン	6,275	203	1,662	54	7,937	257	79.1	31	10.3	8.2
	3/8	5/17	6/20	かがやき	6,722	213	1,282	40	8,004	253	84.1	32	10.4	8.8
				かがやきK	5,958	189	1,362	43	7,320	232	81.6	32	9.5	7.8
				スーパーかがやき	6,212	186	1,382	44	7,595	229	81.0	33	9.9	8.0
				武蔵	6,416	196	1,012	30	7,427	227	86.6	33	9.7	8.4
				さらら	6,250	185	656	21	6,906	207	89.7	33	9.0	8.1
				みおぎ	5,126	172	1,696	55	6,822	227	75.9	30	8.9	6.7
				みおぎグリーン	6,297	204	1,264	40	7,562	244	83.5	31	9.8	8.2
前年	2月中旬			かがやき	5,962	185	1,628	52	7,591	237	78.1	32	9.9	7.7
	3月上旬			かがやき	6,492	208	1,008	35	7,499	243	85.6	31	9.7	8.3
平年	2月中旬			かがやき	5,075	162	2,305	85	7,380	247	65.7	30	9.6	6.3
	3月上旬			かがやき	4,137	135	1,880	75	6,017	210	64.4	29	7.8	5.0

※連続5株を調査した1株当たりの平均

※平年値は、平成18～22年の平均値。

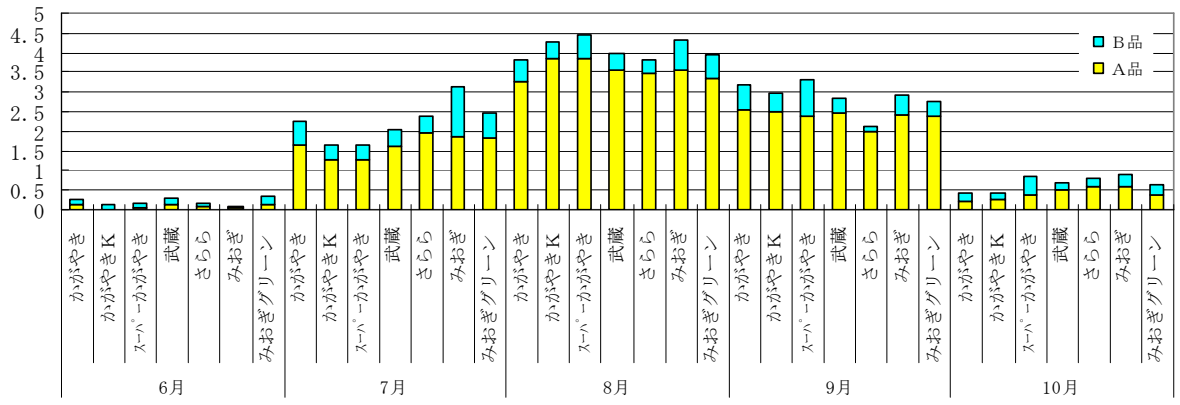


図1 月別収量(は種 2/17 定植 5/2)

単位: t/10a

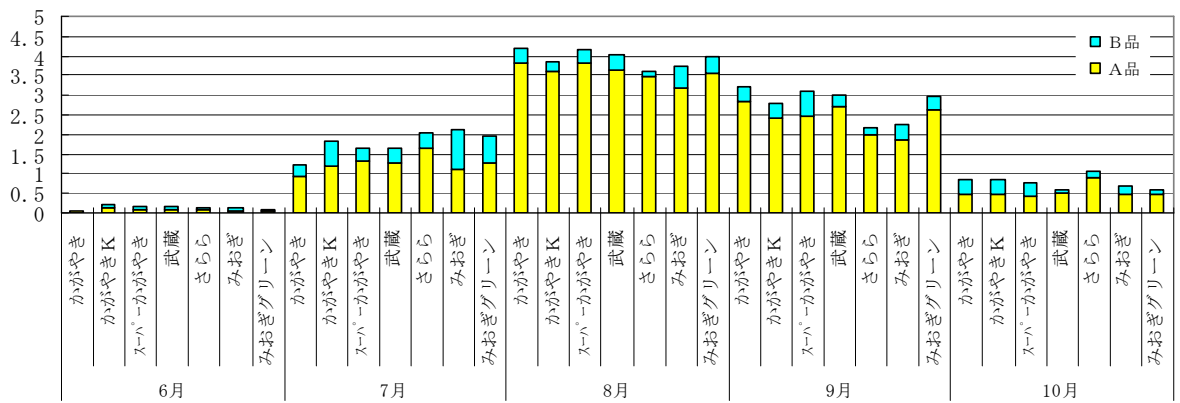


図2 月別収量(は種 3/8 定植 5/17)

単位: t/10a



8月1日収穫時の写真

## 露地野菜の部 No.3

調査名：ピーマンの肥効調整型肥料における施肥効果の調査（新規：平成23年度）

1 目的 基肥用肥料の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
  - 2) は種月日 平成23年3月8日
  - 3) 定植月日 平成23年5月17日
  - 4) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
  - 5) 定植株数 1,300株/10a
  - 6) 施肥量(kg/10a) 堆肥：2t/10a
- ①新野菜エコブレンド（仮称）  
（基肥）新野菜エコブレンド：230kg/10a（13-5-8）  
（追肥）くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a（16-4-16）  
【合計】44.3-15.1-32.8kg/10a
- ②豊作太郎  
（基肥）豊作太郎：250kg/10a（12-12-10）  
（追肥）くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a（16-4-16）  
【合計】44.4-33.6-39.4kg/10a
- ③豊作太郎2号（仮称）  
（基肥）豊作太郎：250kg/10a（12-12-10）  
（追肥）くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a（16-4-16）  
【合計】44.4-33.6-39.4kg/10a  
※肥料の溶出が豊作太郎より遅く、豊作太郎3号より早い
- ④豊作太郎3号（仮称）  
（基肥）豊作太郎3号：250kg/10a（12-10-10）  
（追肥）くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a（16-4-16）  
【合計】44.4-28.6-39.4kg/10a
- ⑤野菜エコブレンド  
（基肥）野菜エコブレンド：300kg/10a（10-10-10）  
（追肥）くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a（16-4-16）  
【合計】44.4-33.6-44.4kg/10a
- 7) 収穫期間 平成23年6月20日～10月24日
- 8) 薬剤散布 平成23年6月8日～9月16日（10回）
- (3) 調査区の構成 調査区 5区（1区5株、・1区制）  
供試品種 かがやき（椛南国育種研究農場）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、春先の低温及び夏場の猛暑の影響は確認されなかった。草姿については、肥料による違いは無かった。
  - 2) 病害虫については、タバコガ、アブラムシによる果実への被害が確認された。
  - 3) 総収量については、「野菜エコブレンド」が最も高い結果となり、A品の総収量についても「野菜エコブレンド」が最も高い結果となった。  
ただし、「野菜エコブレンド」については、6、7月の収量が他の区に比べ少なく肥料の溶出が遅いと思われた。
  - 4) 品質については、肥料の違いによる差は判然としなかった。  
以上の結果、本年度の試験では「野菜エコブレンド」が良い結果となった。
- (2) 次年度以降の計画  
本年度で完了

表1 収量調査

品種	上物 (g)	上物 個数	下物 (g)	下物 個数	収量/株 (g)	個数/株 (ヶ)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	総収量 (t)	A品の10a換算 収量(t)
新野菜エコブレンド	5,479	179	1,554	49	7,033	228	78.4	31	9.1	7.17
豊作太郎	5,397	169	1,228	39	6,625	208	81.2	32	8.6	7.00
豊作太郎2号	5,527	175	1,354	43	6,881	217	80.4	32	8.9	7.19
豊作太郎3号	5,740	182	1,286	39	7,026	221	82.2	32	9.1	7.51
野菜エコブレンド	6,722	213	1,282	40	8,004	253	84.1	32	10.4	8.75

※連続5株を調査した1株当たりの平均

表2 月別総収量

単位：kg

肥料名	6月			7月			8月			9月			10月		
	A品	B品	合計	A品	B品	合計	A品	B品	合計	A品	B品	合計	A品	B品	合計
新野菜エコブレンド	30	40	70	1,307	787	2,093	3,149	506	3,654	2,331	551	2,882	306	137	443
豊作太郎	94	48	142	881	578	1,459	3,387	352	3,739	2,388	428	2,815	266	191	457
豊作太郎2号	30	9	39	1,051	663	1,714	3,371	330	3,701	2,537	530	3,067	197	227	424
豊作太郎3号	18	0	18	1,332	646	1,978	3,248	238	3,486	2,588	486	3,074	276	302	578
野菜エコブレンド	22	9	32	934	305	1,239	3,821	366	4,187	2,854	350	3,204	452	375	828

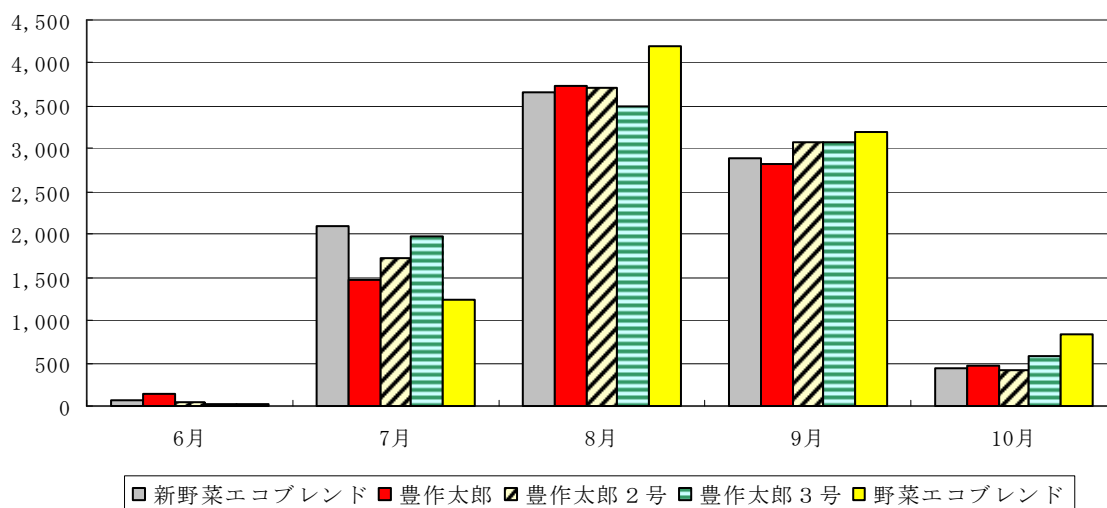


図1 月別収量



## 露地野菜の部 No.4

調査名：ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 追肥時期の遅れによる秀品率低下の解消、追肥作業の省力化を図るため、追肥省略型肥料における品質・収量について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場 前作：にんにく）
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 平成23年5月18日
  - 2) 栽植距離 うね幅120cm、株間21cm、
  - 3) 植付本数 3,968本/10a
  - 4) 施肥量  
①慣行区  
（基肥）太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）  
（追肥）くみあい燐鞘安加里S440：60kg/2回/10a（14-4-20）  
1回目：7/15 2回目：7/27  
【合計】18-16.8-21.6kg/10a  
②秋のごたえ7  
（基肥）秋のごたえ7：300kg/10a（10-12-7）  
【合計】30-36-21kg/10a  
③ハイパーCDU555中期  
（基肥）ハイパーCDU555中期：120kg/10a（15-15-15）  
（追肥）くみあい燐鞘安加里S440：30kg/10a（14-4-20）；7/27  
【合計】22.2-19.2-24kg/10a  
④スーパーロング424-S70  
（基肥）スーパーロング424-S70：130kg/10a（14-12-14）  
（追肥）くみあい燐鞘安加里S440：30kg/10a（14-4-20）；7/27  
【合計】22.4-16.8-24.2kg/10a  
⑤ハイパーCDU555長期  
（基肥）ハイパーCDU555長期：150kg/10a（15-15-15）  
【合計】22.5-22.5-22.5kg/10a
- 5) 収穫月日 平成23年12月5日
- 6) 薬剤散布 平成23年6月28日～9月15日(8回)
- (3) 調査区の構成 調査区 5区(1区21m、1区制)  
供試品種 園試系6（1年子91g～120g：芽付き）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 前年度の結果  
「ハイパーCDU長期区」が良い結果となった。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、萌芽揃期は6月15日(前年6/18)、親蔓のネット頂到達日は7月4日(前年7/8)であった。茎葉は7月以降旺盛となり、過繁茂となった。
  - 2) 病害虫については、病気の発生は少なかったが、ヤマノイモコガ、コガネムシ類による食害が散見された。また萌芽期にアブラムシが確認された。
  - 3) 総収量については、「スーパーロング区」が最も高い結果となり、上物収量については、「秋のごたえ7区」が最も高い結果となった。
  - 4) 規格については、昨年と比べ全ての区で4L、3Lの割合が高くなった。2L、L率の高い区は「秋のごたえ7区」であった。
  - 5) 品質については、全ての区で胴部のくびれ、曲がり、縦割れ、尻部にリングが発生した。特に「スーパーロング区」ではくびれ、曲がりが多く発生し、「慣行区」でも曲がりが多く発生した。また「ハイパーCDU中期区」では尻部にリングが多く発生した。  
ただし、生育ステージや肥料の溶解時期については気象条件に影響されることを考慮し、使用する必要があると思われる。
- (3) 次年度以降の計画  
継続

表1 収量調査

年度	調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (cm)	A品率 (%)	2L, L率 (%)	多本 下がり (%)	総収量 (kg/10a)	A品の 10a換算 収量(t)
本年	慣行	73.3	1291.4	56.0	1017.9	6.2	33.3	38.9	31.1	4,039	1,346
	秋のごたえ7	73.3	1376.5	54.6	974.8	5.8	41.6	46.1	39.0	3,868	1,608
	ハイパーCDU中期	70.5	1218.5	53.2	1003.4	5.9	30.0	34.0	29.0	3,981	1,194
	スーパーロング	72.3	1216.1	55.0	1060.9	6.2	30.0	34.0	20.0	4,210	1,263
	ハイパーCDU長期	71.6	1219.9	54.3	1042.8	6.1	36.8	35.6	25.3	4,138	1,522
前年	慣行	76.1	794.8	56.4	798.2	5.0	77.8	53.3	12.5	3,193	2,483
	秋のごたえ7	79.5	931.0	61.4	909.8	5.1	70.7	68.3	2.5	3,639	2,574
	ハイパーCDU中期	79.8	924.7	58.5	896.0	5.2	66.7	37.8	12.5	3,584	2,389
	スーパーロング	79.2	993.9	61.2	966.3	5.5	50.0	39.1	12.5	3,865	1,933
	ハイパーCDU長期	71.2	813.8	55.6	794.2	5.0	87.0	46.7	15.0	3,177	2,763

表2 規格別割合 (%)

調査区名	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外
慣行	28.9	24.4	17.8	21.1	4.4	2.2	1.1	0.0
秋のごたえ7	25.8	18.0	23.6	22.5	7.9	0.0	1.1	1.1
ハイパーCDU中期	27.0	29.0	14.0	20.0	6.0	4.0	0.0	0.0
スーパーロング	39.0	18.0	17.0	17.0	7.0	1.0	1.0	0.0
ハイパーCDU長期	32.2	24.1	17.2	18.4	4.6	3.4	0.0	0.0

表3 品質割合 (%)

調査区名	A	B	C	A平	B平	D	規格外
慣行	33.3	38.9	8.9	5.6	2.2	10.0	1.1
秋のごたえ7	41.6	30.3	18.0	1.1	2.2	6.7	0.0
ハイパーCDU中期	30.0	37.0	20.0	2.0	2.0	9.0	0.0
スーパーロング	30.0	44.0	10.0	4.0	4.0	7.0	1.0
ハイパーCDU長期	36.8	27.6	23.0	2.3	4.6	5.7	0.0



【慣行】



【秋のごたえ7】



【ハイパーCDU中期】



【スーパーロング】



【ハイパーCDU長期】

## 露地野菜の部 No.5

調査名：ながいもの品種比較調査（新規：平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 当地方で栽培されているながいもの品種・系統について比較調査をし、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場 前作：にんにく）
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 平成23年5月18日
- 2) 栽植距離 ①うね幅120cm、株間15cm（5,555本/10a）  
②うね幅120cm、株間21cm（3,968本/10a）  
③うね幅120cm、株間24cm（3,472本/10a）
- 3) 施肥量  
（基肥）太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）  
（追肥）1回目(8/1)：くみあい 麟硝安加里 S440：30kg/10a(14-4-20)  
2回目(8/15)：くみあい 麟硝安加里 S440：30kg/10a(14-4-20)  
【合計】18-16.8-21.6kg/10a
- 4) 収穫月日 平成23年12月5日
- 5) 薬剤散布 平成23年6月28日～9月15日(8回)
- (3) 調査区の構成 調査区 12区（1区4.5～7.2m、1区制）  
供試品種 遠藤系、庄司系、園試系6、あおもり短八（切いも 100g）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果  
「あおもり短八」の株間21cmが良い結果となったが、年度によりバラツキがある。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、萌芽揃期は品種による違いは無く6月24日であった。
- 2) 病害虫については、病気の発生は少なかったが、ヤマノイモコガ、コガネムシ類による食害が散見された。また萌芽期にアブラムシが確認された。
- 3) 総収量については、「園試系6」が高い傾向にあった。また全ての品種で株間が狭くなるに順い収量が高くなる傾向があった。A品の10a換算収量については「園試系6」の株間15区が最も高い結果となった。全ての品種で株間15cm区の2L、L率の割合が高くなった。
- 4) 品質については、全ての品種でA品率が低い結果となった。「園試系6」は平いもの割合が高く、「あおもり短八」はコブ及び尻部のリングが他の品種に比べ多く発生した。また「あおもり短八」では平いもの発生は無かった。  
糖度、粘度、乾物率を調べた結果、数値に違いは無く判然としなかった。
- (3) 次年度以降の計画  
本年度で完了

表1 収量調査

年度	品種	株間 (cm)	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)	A品率 (%)	2L,L率 (%)	多本 下がり (%)	総収量 (kg/10a)	A品の10a 換算収量 (kg)
23	遠藤系	15	73.9	1,098.6	53.9	1,053.3	58.8	10.0	43.3	6.7	5,852	585
		21	74.7	1,269.8	53.8	1,228.2	64.6	16.7	13.4	6.7	4,874	812
		24	77.8	1,422.9	56.0	1,327.0	69.4	14.3	3.6	10.0	4,449	636
	庄司系	15	74.5	1,146.3	54.2	1,110.8	61.9	3.3	46.7	10.0	6,171	206
		21	80.4	1,399.5	59.5	1,318.1	87.6	6.7	16.7	6.7	5,231	349
		24	81.0	1,525.1	60.1	1,900.7	66.4	3.3	6.6	16.7	6,600	220
	園試系6	15	71.6	1,303.1	53.8	1,271.0	65.5	41.4	20.6	6.7	7,061	2,922
		21	73.4	1,390.7	54.8	1,345.0	65.4	25.0	10.7	6.7	5,337	1,334
		24	75.1	1,490.4	56.8	1,440.4	65.8	14.3	10.7	13.3	5,001	714
	あおもり短八	15	61.8	1,135.4	45.0	1,081.6	56.8	3.3	50.0	23.3	6,009	200
		21	63.4	1,254.4	46.3	1,201.9	58.4	6.7	26.7	26.7	4,769	318
		24	67.2	1,269.9	49.9	1,198.3	59.2	3.6	14.2	13.3	4,161	149
22	遠藤系	15	75.4	790.3	59.3	765.1	43.6	50.0	52.9	15.0	4,081	2,040
		21	79.8	878.9	60.9	866.1	48.1	61.1	52.8	12.5	3,464	2,117
		24	84.9	1022.8	63.2	995.9	54.6	81.3	46.9	12.5	3,319	2,697
	庄司系	15	64.3	538.1	43.0	513.2	45.5	87.1	29.0	0.0	2,737	2,384
		21	80.8	1157.9	63.8	1137.3	56.6	60.6	27.3	10.0	4,549	2,757
		24	78.9	1007.6	59.0	973.5	52.6	67.6	20.6	13.3	3,245	2,195
	園試系6	15	79.8	1199.3	65.4	1175.5	58.4	52.4	26.2	5.0	6,269	3,284
		21	85.3	1598.0	70.2	1574.6	67.9	43.9	9.8	2.5	6,299	2,765
		24	85.0	1625.0	70.3	1607.1	62.5	38.1	14.3	7.5	5,357	2,041
	あおもり短八	15	72.6	1035.0	58.1	1011.3	54.7	62.5	6.3	2.5	5,393	3,371
		21	85.3	1466.0	68.9	1442.0	62.6	66.7	6.7	0.0	5,768	3,845
		24	79.3	1338.0	63.6	1309.0	61.3	30.0	10.0	12.5	4,363	1,309
21	園試系6	15	66.2	1024.3	46.8	998.9	—	50.0	40.0	0.0	5,327	2,663
		21	66.3	1042.8	47.1	1007.5	—	25.0	50.0	0.0	4,030	1,008
		24	69.4	1152.8	50.7	1114.0	—	55.0	20.0	0.0	3,713	2,042

※ マルチ：無 ネット：角目

表2 成分分析

品種名	糖度(Brix)	粘度(Pa・S)	乾物率(%)
遠藤系	4.4	3.8	15.8
庄司系	4.4	3.7	15.2
園試系6	4.7	3.8	16.1
あおもり短八	4.5	3.3	14.8

※粘度、糖度は電動スライサーですりおろし、測定。

乾物重は、ドライオープンで60℃・72時間処理後測定。

表3 規格別割合(%)

品種	株間	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外
遠藤系	15	33.3	20.0	23.3	20.0	0.0	0.0	3.3	0.0
	20	50.0	33.3	6.7	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0
	24	71.4	21.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
庄司系	15	40.0	10.0	36.7	10.0	3.3	0.0	0.0	0.0
	20	73.3	10.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	76.7	10.0	3.3	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0
園試系6	15	62.1	17.2	17.2	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	20	75.0	14.3	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	78.6	10.7	3.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
あおもり短八	15	33.3	13.3	40.0	10.0	3.3	0.0	0.0	0.0
	20	56.7	16.7	16.7	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	50.0	32.1	7.1	7.1	0.0	0.0	3.6	0.0

表4 品質割合 (%)

品種	株間	A	B	C	A平	B平	D	規格外
遠藤系	15	10.0	40.0	43.3	0.0	0.0	0.0	6.7
	21	16.7	36.7	30.0	0.0	6.7	10.0	0.0
	24	14.3	28.6	10.7	10.7	17.9	14.3	3.6
庄司系	15	3.3	53.3	30.0	6.7	3.3	3.3	0.0
	21	6.7	50.0	26.7	0.0	3.3	13.3	0.0
	24	3.3	40.0	23.3	13.3	3.3	13.3	3.3
園試系6	15	41.4	24.1	20.7	3.4	3.4	6.9	0.0
	21	25.0	17.9	21.4	10.7	7.1	17.9	0.0
	24	14.3	21.4	21.4	17.9	10.7	14.3	0.0
あおもり短八	15	3.3	13.3	43.3	0.0	0.0	40.0	0.0
	21	6.7	30.0	40.0	0.0	0.0	23.3	0.0
	24	3.6	28.6	39.3	0.0	0.0	28.6	0.0



【遠藤系 株間 15 cm】



【遠藤系 株間 21 cm】



【遠藤系 株間 24 cm】



【庄司系 株間 15 cm】





【庄司系 株間 21 cm】



【庄司系 株間 24 cm】



【園試系 6 株間 15 cm】



【園試系 6 株間 21 cm】



【園試系 6 株間 24 cm】



【あおり短八 株間 15 cm】



【あおり短八 株間 21 cm】



【あおり短八 株間 24 cm】



## 露地野菜の部 No.6

調査名：にんにくの栽植距離別収量調査（新規：平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 当地域におけるにんにく栽培において株間及び種子重量別収量について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培（コーターコンビ・グリーン）
  - 2) 定植年月日 平成22年10月13日
  - 3) 栽植距離 ①うね幅150cm、株間13cm、条間25cm、4条植え  
②うね幅150cm、株間15cm、条間25cm、4条植え  
③うね幅150cm、株間17cm、条間25cm、4条植え
  - 4) 植付本数 ①20,512片/10a  
②17,777片/10a  
③15,686片/10a
  - 5) 施肥量(kg/10a) N-P-K=25-25-18
  - 6) 使用資材(kg/10a) 堆肥：2t、サイトニンエースZ：90kg/10a  
(基肥) 熟畑大玉にんにく：180kg/10a (14-14-10)
  - 7) 収穫月日 平成23年6月30日
  - 8) 薬剤散布 平成23年3月31日～6月24日(8回)
- (3) 調査区の構成
- |      |  |
|------|--|
| 調査区  | 9区 (1区4.88～6.38㎡、1区制)                  |
| 供試品種 | エム・ジー・エス (バイオ由来)                       |
| 種子重量 | 小(8.0g～12.0g) 中(12.1g～16.0g) 大(16.1g～) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育状況については、4月、5月の低温、4月から6月までの日照不足及び6月上旬が少雨傾向で推移したため、生育が遅れ小玉傾向となった。  
りん片分化期は5月2日であった。  
2) 芽率は、種子重量が大きくなるに従い高くなった。欠株率は、種子重量が中で低くなる傾向があったが判然としなかった。
  - 2) 病害虫については、春腐病が一部で確認されたが発生量は少なかった。
  - 3) 総収量については、平年を下回る結果となった。「株間13cm、種子重量 中」が最も高く、次いで「株間15cm、種子重量 大」となった。A品の10a換算収量についても同様の結果となった。
  - 4) A品率については、「株間15cm、種子重量 小」と「株間17cm、種子重量 大」が高い結果となった。株間別では「株間15cm区」で高い傾向があり、種子重量別では「種子重量 大」で株間が大きくなるとA品率が高くなる傾向があった他は判然としない結果となった。  
以上の結果から、株間別では「株間15cm区」が良い傾向があった。また種いもの大きさ別の違いについては判然としない結果となった。
- (3) 次年度以降の計画  
継続

表1 2芽率及び欠株率

単位：%

株間	17cm			15cm			13cm			
	種子重量	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2芽率(%)	2.0	4.3	5.5	1.7	3.9	6.4	1.1	3.2	10.4	
欠株率(%)	3.0	0.7	6.4	1.7	0.7	3.9	1.1	3.7	3.5	

表2 生育調査 [りん片分化期：5月2日]

種子重	草丈(cm)	生葉数(枚)
小	38.8	6
中	42.4	6.2
大	41	5.75

表3 収量調査

年度	株間	種子重種類	球径(cm)	球重(g)	片数	A品率(%)	2L,L率(%)	総収量(kg/10a)	A品の10a換算収量(kg)
	13	小	6.3	70.0	5.9	73.0	60.0	1,434.8	1,047.4
		中	6.6	84.5	6.4	80.0	62.2	1,732.4	1,386.0
		大	6.6	79.0	6.6	75.0	77.0	1,621.1	1,215.8
23	15	小	6.5	77.3	6.0	88.0	68.0	1,373.5	1,208.6
		中	6.7	83.6	6.5	81.0	80.0	1,485.8	1,203.5
		大	6.9	93.8	7.2	83.0	87.0	1,668.2	1,384.6
	17	小	6.5	78.9	5.9	82.0	83.3	1,238.1	1,015.3
		中	6.8	86.9	6.5	75.0	85.5	1,363.0	1,022.2
		大	6.9	90.1	6.6	88.0	88.0	1,413.0	1,243.5
前年	17	小	6.6	79.0	6.6	73.0	77.0	1,239.7	905.0
		中	6.9	93.8	7.2	85.0	87.0	1,472.0	1,251.2
		大	6.9	90.1	6.6	73.0	88.0	1,413.0	1,031.5
平年	17	小	6.7	107.2	4.5	—	85.1	1,567.6	—
		中	7.3	134.0	6.2	—	95.7	1,957.1	—
		大	7.3	139.2	6.3	—	95.6	2,033.6	—

※ 平年値は、平成18～22年の平均値。  
 ※ 調査については、乾燥完了後に実施

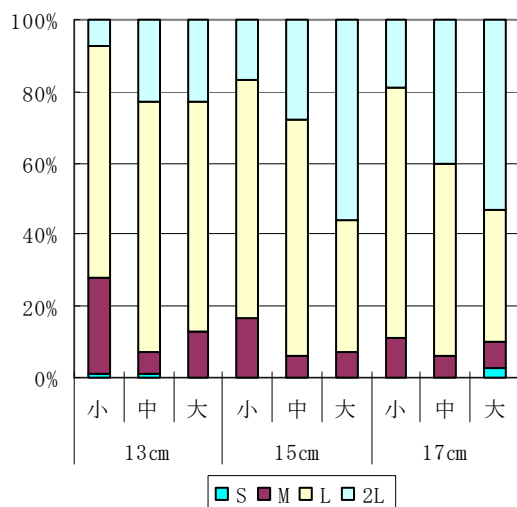


図1 規格別割合

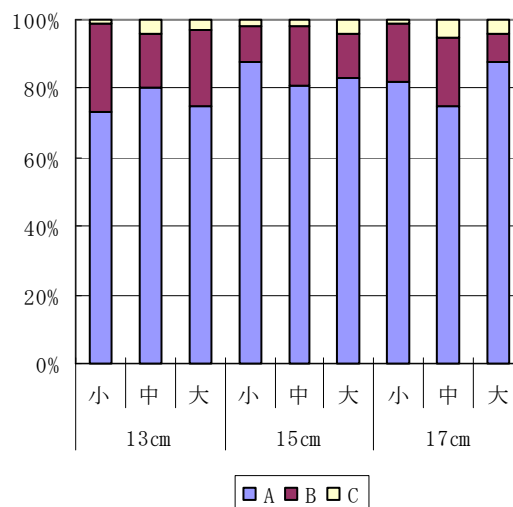


図2 品質割合

## 2 - 4 調査成績（花き）

### 花きの部 No.1

調査名：エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（平成 22 年度～平成 23 年度）

- 1 目的 当地域におけるエラータム系品種の特性を把握するため、据え置き栽培について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 9 号 (99 m<sup>2</sup>)
- (2) 耕種概要  
 1) 栽培方法 土耕栽培  
 2) は種年月日 平成 22 年 2 月 22 日  
 3) 定植年月日 平成 22 年 4 月 19 日  
 4) 栽植距離 ベッド幅 80 cm、株間 20 cm、条間 20cm、4 条植え  
 5) 定植株数 1,080 本/棟  
 6) 施肥量(kg/a) N・P・K=1.0-0.4-7.6  
 7) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：100、トリオ有機 S048：10、珪酸加里:34、ハイクト 40：8(定植時)  
 20cm×4 目フラワーネット、ケイントップ(有機質資材)：20  
 内カーテンによる保温
- 8) 遮光期間 平成 23 年 6 月 8 日～9 月 28 日  
 ※メガクール(遮光フィルム)をハウス内に展開
- 9) 収穫期間 一番花：平成 23 年 5 月 6 日～6 月 24 日  
 二番花：平成 23 年 7 月 14 日～10 月 31 日
- 10) 農薬散布 8 回（平成 23 年 4 月 28 日～10 月 13 日）

### (3) 調査区の構成

- 1) 調査区 5 区 (1 品種 1 区制 10 株)  
 2) 供試品種 5 品種

No.	品種名	花色	会社名
1	ブルースピアー	青	青森県
2	マジックフォンテンブルーインプ	水色	(株)ミヨシ
3	パシフィックジャイアントブルーバード	青	福花園種苗(株)
4	オーロラブルーインプ	青	タキイ種苗(株)
5	なつぞらスピアー	青	青森県

※全て種子系 ※No. 5 は旧名青フラ Del 交 4 号

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

病虫害については灰色かび病、ヨトウムシ及びオオタバコガの食害が散見された。越冬の生存率(表 1)は「ブルースピアー」が 95.9%で最も高かった。

採花のピーク(表 3)は 5～6 月(一番花)ならびに 7～8 月(二番花)に見られた。

採花本数及び商品化率(表 2)は、一番花では「ブルースピアー」が採花本数 28 本、商品化率 96.4%で最も良かった。他の品種は採花本数が 10～15 本程度、商品化率が「オーロラブルーインプ」を除き 40～60%程度で、花飛びが規格外の主な原因となった。また、二番花では採花本数が「オーロラブルーインプ」で 25 本と最も多かった。花飛びが発生せず、商品化率は「パシフィックジャイアントブルーバード」が 100%で最も高かった。5～10 月では「ブルースピアー」が採花本数 48 本で最も多かった。

#### (2) 開花 (表 3)

一番花は、採花開始は「オーロラブルーインプ」が 5 月 6 日で最も早かった。盛期開始は「パシフィックジャイアントブルーバード」「オーロラブルーインプ」が 5 月 11 日で最も早かった。

二番花は、「マジックフォンテンブルーインプ」「オーロラブルーインプ」で採花開始が 7 月 14 日、盛期開始が 7 月 26 日で最も早かった。

採花開始及び盛期終了は、一番花、二番花とも「ブルースピアー」が最も遅かった。

### (3) 切花品質

切花長(表 4、5)は、一番花は全ての品種で 1m を超え、「ブルースピアー」が 147.6cm で最も長かった。二番花は「なつぞらスピアー」が 101.3cm で最も長かった。花穂長が切花長に占める割合(表 6)は「オーロラブルーインプ」の一番花で約 60%と最も大きかったが、他の調査区は 35~45%程度となった。

小花の間隔は 1~2cm 程度となった。

以上の結果、据置栽培については越冬の生存率や商品化率から「ブルースピアー」が有望と思われる。

表 1 越冬後の生存率

品 種 名	生存率 (%)
ブルースピアー	95.9
マジックフォンテンブルーインプ	69.1
パシフィックジャイアントブルーハート	61.4
オーロラブルーインプ	91.2
なつぞらスピアー	92.3

表 2 月別採花本数及び商品化率 (10株当たり)

品 種 名	項 目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	5~6月計	7~10月計	5~10月計
		本数 (%)	本数 (%)	本数 (%)	本数 (%)	本数 (%)	本数 (%)	(一番花) 本数 (%)	(二番花) 本数 (%)	本数 (%)
ブルースピアー	全体	13	15		14	4	2	28	20	48
	商品化	13 (100.0)	14 (93.3)		14 (100.0)	4 (100.0)	1 (50.0)	27 (96.4)	19 (95.0)	46 (95.8)
	規格外 花飛び									
	60cm未満		1 (6.7)				1 (50.0)	1 (3.6)	1 (5.0)	2 (4.2)
マジックフォンテン ブルーインプ	全体	11	2	8	8	2		13	18	31
	商品化	7 (63.6)	1 (50.0)	8 (100.0)	8 (100.0)			8 (61.5)	16 (88.9)	24 (77.4)
	規格外 花飛び	4 (36.4)						4 (30.8)		4 (12.9)
	60cm未満		1 (50.0)			2 (100.0)		1 (7.7)	2 (11.1)	3 (9.7)
パシフィックジャイアント ブルーハート	全体	10		2	5	4		10	11	21
	商品化	4 (40.0)		2 (100.0)	5 (100.0)	4 (100.0)		4 (40.0)	11 (100.0)	15 (71.4)
	規格外 花飛び	6 (60.0)						6 (60.0)		6 (28.6)
	60cm未満									
オーロラ ブルーインプ	全体	14		9	10	2	4	14	25	39
	商品化	14 (100.0)		9 (100.0)	10 (100.0)	2 (100.0)	3 (75.0)	14 (100.0)	24 (96.0)	38 (97.4)
	規格外 花飛び									
	60cm未満						1 (25.0)	1 (4.0)	1 (2.6)	
なつぞら スピアー	全体	12	3		13	4	3	15	20	35
	商品化	8 (66.7)			13 (100.0)	4 (100.0)	2 (66.7)	8 (53.3)	19 (95.0)	27 (77.1)
	規格外 花飛び	4 (33.3)	3 (100.0)					7 (46.7)		7 (20.0)
	60cm未満						1 (33.3)	1 (5.0)	1 (2.9)	

表3 一番花及び二番花における開花期

品 種 名	一番花		二番花	
	採花日	盛期	採花日	盛期
ブルースピアー	5/19～6/14	5/24～6/ 8	8/ 7～10/12	8/ 7～8/23
マジックフォンテンブルーインプ	5/11～6/ 2	5/19～5/24	7/14～ 9/12	7/26～8/ 2
パシフィックジャイアントブルーハート	5/11～5/24	5/11	7/26～ 9/29	8/9
オーロラブルーインプ	5/ 6～5/19	5/11	7/14～10/31	7/26～8/ 2
なつぞらスピアー	5/11～6/17	5/19～6/ 2	8/ 2～10/18	8/ 9～8/12

表4 一番花における切花調査

品 種 名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	節数 (節)	小花数 (個)	側枝数 (本)
ブルースピアー	147.6	71.8	66.5	8.3	52.5	22.8	39.5	0.5
マジックフォンテンブルーインプ	122.9	130.6	112.9	13.0	47.0	24.6	40.0	1.8
パシフィックジャイアントブルーハート	110.9	91.1	72.4	12.2	41.5	25.7	43.6	0.7
オーロラブルーインプ	131.0	131.4	103.6	13.4	80.4	18.9	40.4	1.6
なつぞらスピアー	136.3	80.7	72.9	9.3	55.1	22.3	39.7	0.4

表5 二番花における切花調査

品 種 名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	節数 (節)	小花数 (個)	側枝数 (本)
ブルースピアー	85.1	33.3	26.1	4.4	33.9	11.3	20.4	0.5
マジックフォンテンブルーインプ	83.3	40.2	30.7	5.4	26.6	14.3	27.1	1.6
パシフィックジャイアントブルーハート	91.5	36.1	28.7	4.6	39.2	10.8	25.8	0.8
オーロラブルーインプ	98.6	53.6	39.0	5.6	45.7	12.6	25.3	1.5
なつぞらスピアー	101.3	42.9	33.4	5.2	46.2	12.1	29.5	0.8

表6 花穂長が切花長に占める割合及び花穂長における小花の間隔

品 種 名	一番花		二番花	
	花穂長/切花長 (%)	小花の間隔 (花穂長/個:cm)	花穂長/切花長 (%)	小花の間隔 (花穂長/個:cm)
ブルースピアー	35.6	1.3	39.8	1.7
マジックフォンテンブルーインプ	38.2	1.2	31.9	1.0
パシフィックジャイアントブルーハート	37.4	1.0	42.8	1.5
オーロラブルーインプ	61.4	2.0	46.3	1.8
なつぞらスピアー	40.4	1.4	45.6	1.6

## 花きの部 No.2

調査名：秋菊の栽培調査（11月出荷）（平成20年度～平成23年度）

- 1 目的 当地域における白輪菊の特性を把握するため、開花時期および切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 8号 (99 m<sup>2</sup> : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
  - 2) 採穂期間 平成23年7月22日～8月1日
  - 3) 定植年月日 平成23年8月15日
  - 4) 暗期中断期間 平成23年8月26日～10月17日 (22時～2時)  
平成23年10月26日～10月28日 (22時～2時)  
平成23年11月2日～11月4日 (22時～2時)
  - 5) 栽植距離 ベッド幅 45 cm、株間 15 cm、条間 15cm、  
1マス3本の2条植え (中1条抜き)
  - 6) 定植株数 3,600本/棟
  - 7) 仕立て法 無摘心
  - 8) 加温期間 平成23年10月4日～10月17日 (13℃)、  
平成23年10月18日～平成23年11月14日 (15℃)  
平成23年11月15日～平成24年1月10日 (13℃)
  - 9) ビーナイン処理 平成23年11月1日、11月15日、11月22日 ※1,000倍希釈
  - 10) 施肥量 (kg/a) N・P・K=1.0-0.4-4.4
  - 11) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥 (N1%-P0.5%-K0.5%) : 200、トリオ有機 048 (N10%-P4%-K8%) : 10、けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B-1%-Ca7~12%  
-Fe2~5%) : 18、ハイクド 40 (Mg40%) : 8、15cm×3目フラワーネット、オキシベロン液剤、ビーナイン水和剤 80、ケイントップ : 60、内カーテン、バイオテックライト (蛍光灯)
  - 12) 収穫期間 平成23年12月22日～平成24年1月10日
  - 13) 薬剤散布 15回
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区 (1品種1区制 30株)
  - 2) 供試品種 3品種
- | No. | 品種・系統名   | 備考      |
|-----|----------|---------|
| 1   | 神馬2号・長崎2 | 長崎県農試選抜 |
| 2   | 新神2      | 鹿児島県育成  |
| 3   | 神馬       |         |
- (4) 調査項目 生育、開花、切花

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

挿し穂の活着については、3品種とも約7日間を要した。  
消灯時の草丈は、「神馬2号・長崎2」が68.2cm、「新神2」が64.6cm、「神馬」が66.1cmで「神馬2号・長崎2」が最も長かった。  
脇芽の数については、「神馬」と比較して「新神2」「神馬2号・長崎2」は違いはほとんど見られなかった。  
また、病害虫については、オオタバコガ、アブラムシ、白さび病が見られた。

#### (2) 開花

発蕾期は、「神馬2号・長崎2」「新神2」が11月14日頃、「神馬」が11月22日頃であった。  
採花は、「神馬2号・長崎2」が12月22日に始まり盛期は12月22日であった。「新神2」は12月26日に始まり盛期は12月28日～31日であった。「神馬」は12月31日に始まり盛期は1月5日であった。

(3) 切花品質

「神馬」が一部の株で上位葉が小さくなり、うらごけが認められた。これは電照終了時の夜温が神馬にとって低温であったために、うらごけ防止のために再電照を行ったものの効果が弱かったためと思われる。

露芯花については全ての品種で発生した。

切花長は全ての品種で 100cm を超えた。

節数については、「新神 2」「神馬」が約 60 節、次いで「神馬 2 号・長崎 2」が 53.8 節となった。

良品率については、「神馬 2 号・長崎 2」が 96.7% と最も高かった。

以上から、「神馬 2 号・長崎 2」が開花が早く、切花品質が最も優れていた。

表 1 生育調査（草丈・節数）

品 種 名	9/6	9/16	9/26	10/6	10/17 (消灯時)
神馬 2 号・長崎 2 (草丈・cm)	13.3	21.3	35.3	49.7	68.2
(節数・節)	11.0	17.2	20.5	28.2	40.2
新神 2 (草丈・cm)	12.5	17.8	28.9	46.2	64.6
(節数・節)	10.9	17.6	21.4	27.3	42.5
神馬 (草丈・cm)	12.8	21.5	33.5	48.2	66.1
(節数・節)	10.2	17.3	22.0	28.9	41.6

表 2 切花調査

品 種 名	採花期	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	花首長 (cm)	茎径 (mm)
神馬 2 号・長崎 2	12/22~12/27	113.0	103.6	83.7	53.8	2.9	7.1
新神 2	12/26~ 1/ 5	105.3	92.1	80.4	60.6	2.5	7.1
神馬	12/31~ 1/10	112.8	92.1	78.0	59.8	2.1	6.9

表 3 良品率調査

品 種 名	良品率 (%)
神馬 2 号・長崎 2	96.7
新神 2	93.3
神馬	90.0

※良品率：草丈 90cm、調整重 60g 以上の割合

## 花きの部 No.3

調査名：ラークスパーの栽培調査(6月出荷) (平成23年度～平成25年度)

- 1 目的 当地域におけるラークスパーの6月出荷栽培の特性を把握するため、開花時期及び切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 8号 (99 m<sup>2</sup>)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
  - 2) 播種年月日 平成23年2月22日
  - 3) 定植年月日 平成23年3月28日
  - 4) 栽植距離 ベッド幅80cm、株間20cm、条間20cm、4条植え
  - 5) 定植株数 1,080株/棟
  - 6) 仕立て法 草丈15cmの高さで摘心
  - 7) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.0-0.4-8.0
  - 8) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、トリオ有機048：10、珪酸加里：36、黒マルチ、20cm×4目フラワーネット
- 9) 収穫期間 平成23年6月21日～平成23年7月8日、
- 10) 農薬散布 3回

### (3) 調査区の構成

- 1) 調査区 5区 (1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 5品種

No.	品種名	早晚生	花色	会社名
1	シドニーライトブルー	早生	淡藤	(株)ミヨシ
2	ミヨシのピンク	中早生	桃	(株)ミヨシ
3	ミヨシのライラック	中生	藤	(株)ミヨシ
4	カンヌローズストライプ	早生	濃桃・桃絞	タキイ種苗(株)
5	カンヌクリスタルピンク	早生	桃	タキイ種苗(株)

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

抽台開始(表1)は「シドニーライトブルー」「カンヌクリスタルピンク」が4月25日で最も早かった。摘心は抽台から摘心までの期間は11～15日を要した。

草丈(表1)は、6月下旬には130～150cm程度となった。「ミヨシのライラック」「ミヨシのピンク」は株によってばらつきが強い傾向が見られた。

摘心後の側枝数(表2)は、主茎で7～約10本、株元(地際)で5～10本程度となった。

側枝の採花本数(表2)は、「カンヌローズストライプ」が12.7本で最も多かった。

側枝の採花率は(表2)は、「カンヌクリスタルピンク」が88.8%で最も良かった。

側枝の採花本数ならびに採花率を主茎と株元で比較すると、「カンヌクリスタルピンク」の採花本数を除き、株元の側枝の方が良い傾向となった。

採花できない側枝は枯死し灰色かび病が見られたことから、栽植距離に対し側枝本数が多すぎたと思われる。

#### (2) 開花 (表3)

採花開始は概ね6月21日、盛期は6月27日～30日となり、品種間で大きな差はなかった。

#### (3) 切花品質 (表4,5)

切花長(表4)は全ての品種で100cmを超えた。花穂長は「シドニーライトブルー」「カンヌローズストライプ」が36cm前後となった。小花数は「カンヌクリスタルピンク」を除き20個前後となった。

花穂長が切花長に占める割合(表5)は「シドニーライトブルー」「カンヌローズストライプ」が30%を超えた。小花の間隔(表5)は1.3～1.9cm前後で比較的狭かった。

側枝の切花品質は、株元の側枝の方が切花長、花穂長、小花数が多い傾向にあり、「カンヌクリスタルピンク」は大きな差がみられなかった。

以上から、採花本数からは「カンヌローズストライプ」が優れていると思われる。また、切花長や花穂長からは「シドニーライトブルー」「カンヌローズストライプ」



が優れていると思われた。

側枝の採花率や切花品質を主茎と株元で比較した場合、株元の側枝の方が優れる傾向にあったが、「カンヌクリスタルピンク」は差が小さかったことから、栽植距離や側枝の本数が比較的適していたものと思われた。

次年度は播種時期を早め、摘心位置ならびに仕立本数について調査を実施したい。

表1 草丈

(単位:cm、下線:抽台開始、太ゴシック:摘心)

品 種 名	調査日											
	4/11	4/18	4/25	4/28	5/2	5/6	5/10	5/17	5/31	6/7	6/14	6/21
シドニーライトブルー	4.4	5.0	<u>7.6</u>	11.4	13.8	17.4	<b>20.6</b>	18.3	48.1	81.9	105.5	130.7
ミヨシのライラック	5.7	6.0	6.1	6.3	<u>7.9</u>	12.2	15.3	<b>21.6</b>	51.3	86.4	108.5	143.9
ミヨシのピンク	5.3	5.4	5.5	<u>6.3</u>	11.4	14.6	<b>19.3</b>	18.3	55.5	94.9	121.6	141.6
カンヌローズストライプ	4.3	4.4	4.6	<u>7.5</u>	11.6	14.7	<b>20.0</b>	22.1	64.3	108.2	127.3	148.4
カンヌクリスタルピンク	4.5	4.9	<u>9.7</u>	12.6	16.2	<b>19.8</b>	15.8	20.0	68.1	105.6	127.4	145.4

表2 採花時期における側枝数及び採花本数並びに採花率

品 種 名	部位	側枝数	採花本数	採花率
		(個)	(本)	(本/個:%)
シドニーライトブルー	全体	14.4	9.8	(68.1)
	茎	7.0	4.1	(58.6)
	株元	7.4	5.7	(77.0)
ミヨシのライラック	全体	17.1	9.8	(57.3)
	茎	9.3	4.2	(45.2)
	株元	7.8	5.6	(71.8)
ミヨシのピンク	全体	17.1	10.0	(58.5)
	茎	9.9	4.0	(40.4)
	株元	7.2	6.0	(83.3)
カンヌローズストライプ	全体	18.1	12.7	(70.2)
	茎	7.9	4.7	(59.5)
	株元	10.2	8.0	(78.4)
カンヌクリスタルピンク	全体	11.6	10.3	(88.8)
	茎	7.0	5.8	(82.9)
	株元	4.6	4.5	(97.8)

表3 採花時期及び採花本数

(単位:10株当たり、括弧内:%/計)

品 種 名	部位	調査日							計
		6/21	6/23	6/27	6/30	7/4	7/6	7/8	
シドニーライトブルー	全体		23	51	20	4			98
	(%)		(23.5)	(52.0)	(20.4)	(4.1)			
	茎		8	26	6	1			41
ミヨシのライラック	株元		15	25	14	3			57
	全体	7	5	41	36	4	5		98
	(%)	(7.2)	(5.1)	(41.8)	(36.7)	(4.1)	(5.1)		
ミヨシのピンク	茎	3	2	17	14	3	3		42
	株元	4	3	24	22	1	2		56
	全体	1	4	20	60	10	4	1	100
カンヌローズストライプ	(%)	(1.0)	(4.0)	(20.0)	(60.0)	(10.0)	(4.0)	(1.0)	
	茎	1	4	19	32	2	1	1	60
	全体	2	33	44	39	5	4		127
カンヌクリスタルピンク	(%)	(1.6)	(26.0)	(34.6)	(30.7)	(3.9)	(3.2)		
	茎	4	13	21	5	4			47
	株元	2	29	31	18				80
カンヌクリスタルピンク	全体	3	28	50	17	5			103
	(%)	(2.9)	(27.2)	(48.5)	(16.5)	(4.9)			
	茎	3	21	25	5	4			58
カンヌクリスタルピンク	株元		7	25	12	1			45

表4 切花調査

品 種 名	部 位	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	節数 (節)	小花数 (個)	側枝数 (本)
シドニーライトブルー	全体	111.9	24.4	29.7	5.4	36.8	13.0	21.9	3.0
	茎	102.3	17.6	15.3	5.0	35.9	10.0	20.4	2.6
	株元	118.0	28.9	22.5	5.6	37.3	15.0	22.9	3.3
ミヨシのライラック	全体	125.6	30.6	20.9	6.3	29.7	15.8	22.6	4.4
	茎	111.0	19.5	13.9	4.9	25.7	12.5	21.0	4.0
	株元	136.9	38.6	26.3	7.1	32.4	18.2	23.6	4.7
ミヨシのピンク	全体	116.6	32.5	23.1	6.1	29.8	14.9	20.3	3.6
	茎	98.5	20.3	14.9	5.3	24.9	12.5	18.6	3.3
	株元	128.5	40.9	28.6	6.5	33.0	16.5	21.4	3.9
カンヌローズストライプ	全体	117.1	27.8	21.9	5.3	36.4	11.3	19.0	3.0
	茎	98.1	16.7	13.2	4.4	31.6	8.3	18.3	2.7
	株元	127.8	34.5	27.2	5.8	39.1	12.9	19.5	3.3
カンヌクリスタルピンク	全体	131.7	32.9	24.8	6.0	27.9	14.1	14.9	4.2
	茎	128.6	33.7	25.4	5.9	27.8	13.9	14.5	4.3
	株元	134.2	30.4	23.1	5.9	27.8	14.3	15.3	4.1

表5 花穂長が切花長に占める割合及び花穂長における小花の間隔

品 種 名	部 位	花穂長/切花長 (%)	小花の間隔 (花穂長/個:cm)
シドニーライトブルー	全体	32.9	1.7
	茎	35.1	1.8
	株元	31.6	1.6
ミヨシのライラック	全体	23.6	1.3
	茎	23.2	1.2
	株元	23.7	1.4
ミヨシのピンク	全体	25.6	1.5
	茎	25.3	1.3
	株元	25.7	1.5
カンヌローズストライプ	全体	31.1	1.9
	茎	32.2	1.7
	株元	30.6	2.0
カンヌクリスタルピンク	全体	21.2	1.9
	茎	21.6	1.9
	株元	20.7	1.8

## 花きの部 NO. 4

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(8月出荷) (平成7年度～平成26年度)

1 目的 8月出し栽培におけるトルコギキョウの品種について比較調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス5号 (132 m<sup>2</sup>)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) 播種年月日 平成23年2月15日
  - 3) 定植年月日 平成23年4月4日
  - 4) 栽植距離 ベッド幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え(中3条抜き)
  - 5) 定植株数 5,120本/棟
  - 6) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.9-0.5-6.5
  - 7) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、大塚養液土耕2号：6.1、ネニソイル：11.4、珪酸加里：25  
白黒ダブルマルチ、10cm×11目フラワーネット  
内カーテンによる保温
- 8) 収穫期間 平成23年8月5日～8月17日
- 9) 薬剤散布 5回

### (3) 調査区の構成

- 1) 調査区 21区 (1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 21品種

No.	品種名	早晚性	色	花形	花径	会社名
1	シャルライトアブリコット	早生	淡杏	一重・フリジ	中大	(株)ミヨシ
2	シャルダークブルー	早生	紫	一重・フリジ	中大	(株)ミヨシ
3	プレシア	中早生	白	八重	中大	カネコ種苗(株)
4	アンリ	中早生	淡杏	八重	中大	カネコ種苗(株)
5	シルビア	中早生	濃桃	八重	中	カネコ種苗(株)
6	エグゼホワイ	中早生	白	八重	大	カネコ種苗(株)
7	マエストロ	中早生	白	八重	中	住化農業資材(株)
8	エンゲージホワイ	中早～中生	白	八重	中大	住化農業資材(株)
9	ファルダマンゴー	中生	淡杏	一重・フリジ	大	タケイ種苗(株)
10	ファルダチェリー	中生	濃サモン	一重・フリジ	大	タケイ種苗(株)
11	天てまり	中生	白	八重	大	タケイ種苗(株)
12	ピオッジア	中生	覆輪紫紺	八重	大	福花園種苗(株)
13	ロマンスグリーンネオ	中生	緑	八重	中大	(株)ミヨシ
14	サフィピンク2	中生	桃	八重	大	カネコ種苗(株)
15	サフィブルー	中生	紫	八重	大	カネコ種苗(株)
16	モナーブルーフラッシュ	中生	紫紺	八重	大	(株)ムカシト
17	ルシーダパープル	中生	紫	一重	中	(株)ムカシト
18	海ほのか	中生	覆輪紫	八重	中大	住化農業資材(株)
19	パティホワイ	中生	白	八重	中	住化農業資材(株)
20	トレーシー	中生	紫	一重	中	福花園種苗(株)
21	バルカンホワイ	中生	白	一重	中小	タケイ種苗(株)

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

### 3 結果の概要

#### (1) 生育

草丈は「トレーシー」で昨年に比べ長くなった。

また、病害虫については、開花期前後にアザミウマ類が、発蕾期以降にオオタバコガが散見された。

#### (2) 開花

播種が2月中旬となり、旧盆の直前から盆明けの採花となった。最も早かったのは「エグゼホワイ」「ルシーダパープル」で8月5日～11日、最も遅かったのは「ロマンスグリーンネオ」で8月17日であった。

(3) 切花品質

草丈は「トレーシー」「エンゲージホワイト」「ファルダチェリー」「バルカンホワイト」が 80cm 以上となった。

開花数及び花蕾数の合計は全ての品種で 6 個以上となった。「エンゲージホワイト」では花蕾が 14.2 個となり、特に多くなった。

上物率は「トレーシー」「バルカンホワイト」で 90%以上となった。

「ファルダマンゴー」「ファルダチェリー」は茎が他品種に比べ硬かった。

表 1 調査結果一覧

品種名	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝 数(本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)	上物率 (%)	商品化率 (%)	採花期	
シャルロットアブリコット	67.0	42.4	32.2	9.6	31.6	4.8	1.3	4.0	4.3	0	100	8/11~8/15	
シャルロットブルー	68.6	52.3	40.2	9.8	33.2	5.5	1.6	4.1	5.2	0	100	8/9~8/11	
プレシア	66.1	51.0	39.0	8.4	28.1	5.4	1.5	4.0	5.5	0	100	8/11~8/15	
アンリ	72.0	50.0	42.9	10.1	37.3	5.7	2.4	4.1	6.7	0	100	8/11	
シルビア	67.1	44.1	36.3	9.1	29.2	5.0	1.2	3.6	4.6	0	100	8/11	
エグゼホワイト	72.8	56.3	47.4	10.8	30.2	5.4	1.5	4.1	6.9	0	100	8/5~8/11	
マエストロ	69.9	47.8	40.1	9.6	34.5	4.9	1.7	4.2	4.0	0	100	8/15	
エンゲージ初付	80.8	106.5	84.7	10.2	44.1	7.0	3.7	6.1	14.2	50	100	8/11	
ファルダマンゴー	73.0	64.8	50.2	10.8	38.4	6.2	1.9	3.9	7.3	0	100	8/11~8/15	
ファルダチェリー	80.2	77.2	61.2	10.7	44.0	6.3	1.7	4.4	7.8	60	100	8/11~8/15	
天てまり	72.0	68.0	54.7	9.8	35.7	6.0	2.2	4.4	8.1	0	100	8/9~8/15	
ピオッジア	72.4	55.5	45.5	10.0	35.2	5.7	1.2	4.8	6.7	0	100	8/11~8/15	
ロマンタグリーン袖	64.8	43.9	36.5	9.2	31.6	5.2	1.4	4.2	4.1	0	100	8/17	
サフィナピンク2	76.3	63.2	50.7	8.9	30.2	5.9	1.4	4.1	6.1	10	100	8/11	
サフィナブルー	73.4	65.3	54.0	9.4	31.6	5.8	1.4	4.0	4.9	0	100	8/15	
ローザブルーフラッシュ	73.3	54.2	45.9	10.1	32.8	5.7	1.4	4.7	6.1	0	100	8/15	
ローザパール	69.5	43.4	35.7	9.0	31.5	5.0	3.0	4.8	7.8	0	100	8/5~8/11	
海ほのか	72.8	67.0	52.3	11.3	38	5.8	2.4	4.1	9.2	0	100	8/11	
パティオホワイト	69.2	48.9	40.2	10.4	36.6	5.3	1.3	4.0	6.2	0	100	8/11~8/15	
トレーシー	本年	91.9	97.7	83.1	10.4	50.5	6.9	2.7	4.3	9.8	100	100	8/9~8/11
	昨年	85.9	76.9	61.5	9.2	46.9	7.0	2.8	4.9	6.4	100	100	8/17
バルカン初付	本年	83.3	78.2	63.0	11.6	43.1	6.4	2.6	4.3	9.0	90	100	8/9~8/11
	昨年	85.3	67.9	60.3	11.3	46.1	6.2	2.8	4.5	7.6	100	100	8/27~9/3

※上物率：切り花長 80 cm、調整重 45 g 以上で、開花数+花蕾数 6 個以上のもの

※商品化率：切り花長 50 cm 以上のもの

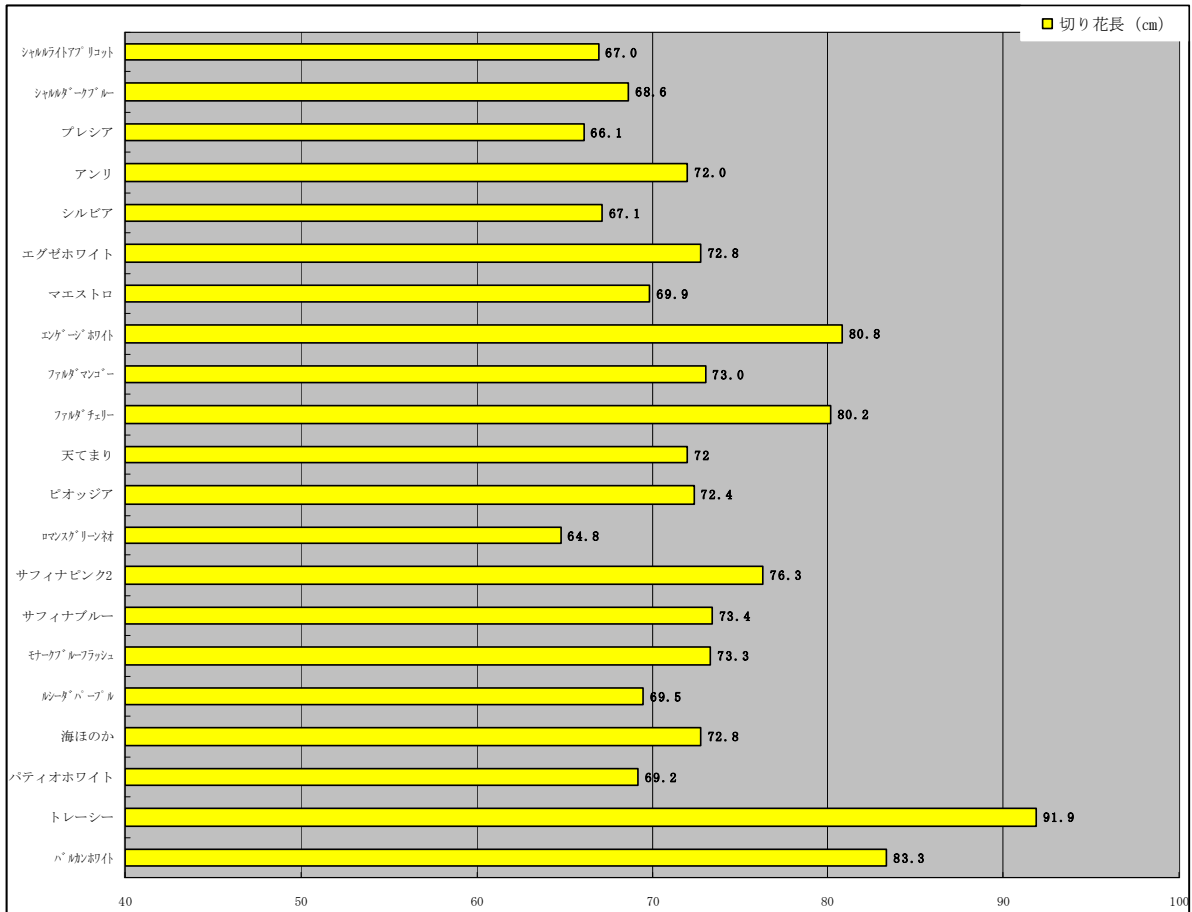


図1 切り花長の比較

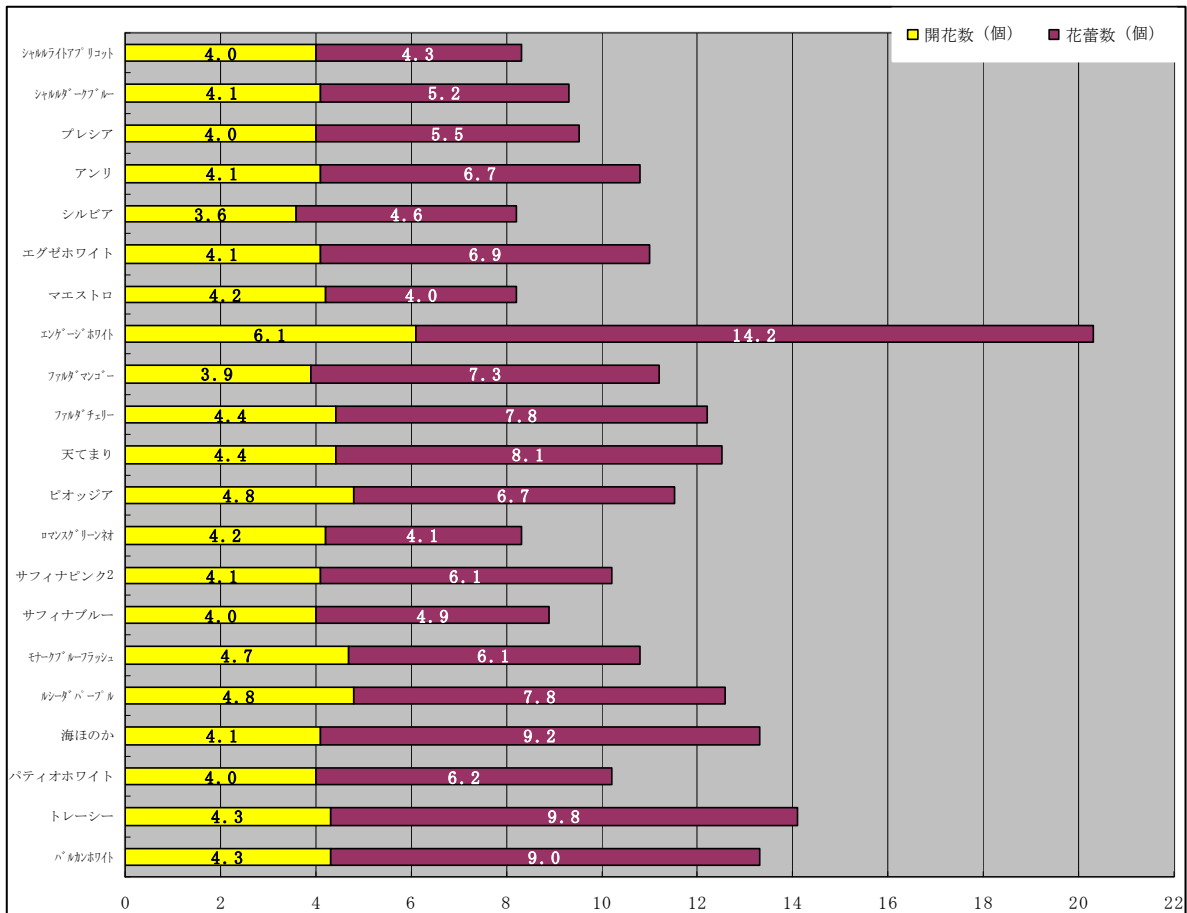


図2 開花数+花蕾数の比較

## 2-5 土壌分析

### 1 目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点

に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

### 2 分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	52	37	53	39	39	18	37	24	45	34	13	32	423
サンプル数(件)	139	133	197	220	111	40	200	114	104	66	36	63	1,423
分析数	943	581	877	1497	488	255	813	669	873	559	303	483	8,341

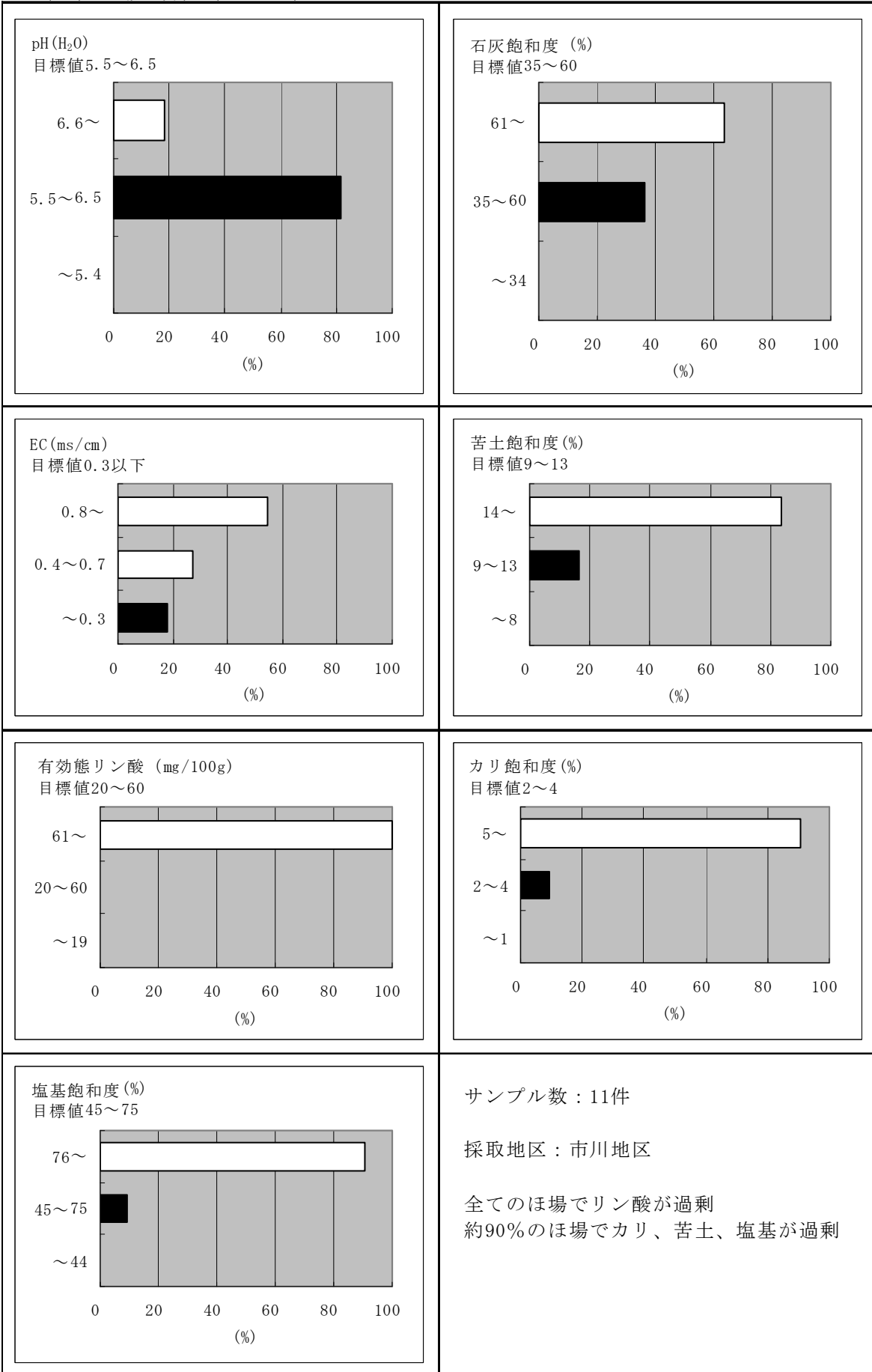
### 3 定点観測地点の概要

地区名	地点数		対象作物	
市川地区	12	11	いちご 花き	施設 施設
下長地区	3	2	花き ミニトマト	施設 施設
上長地区	2	1	ながいも 食用菊	露地 露地
豊崎地区	3	1	にんにく ピーマン ながいも	露地 露地 露地
館地区	7		ミニトマト	施設
是川地区	7	2	ねぎ ながいも きゅうり	露地 露地 施設
南郷地区	6	1	トマト	施設
		1	きゅうり	施設
		2	そば	露地
		2	農園	露地

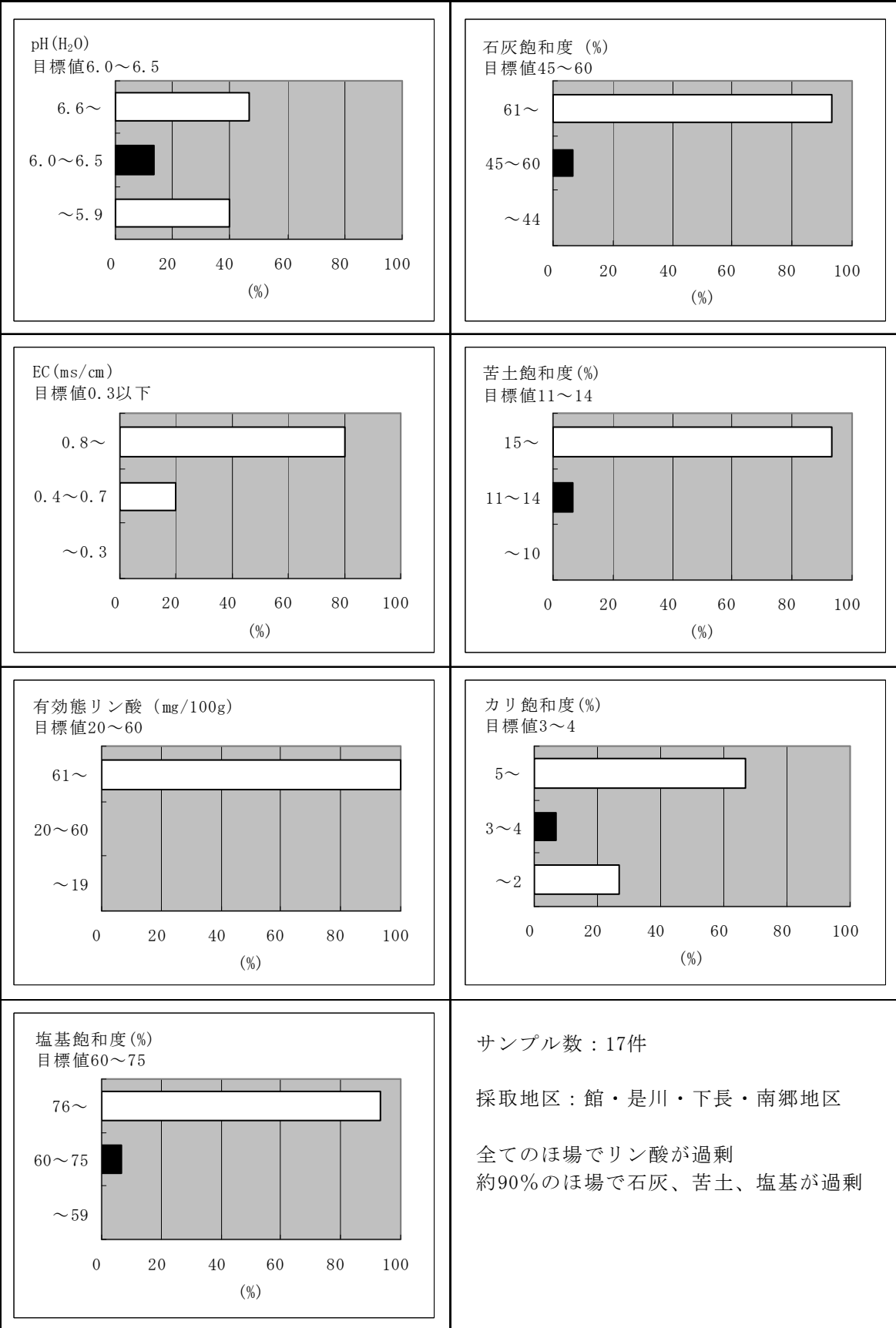
### 4 分析項目

- (1) pH (H<sub>2</sub>O・KC1) (2) EC (電気伝導度) (3) 有効態リン酸  
 (4) リン酸吸収係数 (5) CEC (塩基置換容量) (6) 置換性カルシウム  
 (7) 置換性マグネシウム (8) 置換性カリウム (9) 水分

5 分析結果（定点観測）  
 (1) 施設野菜（いちご）

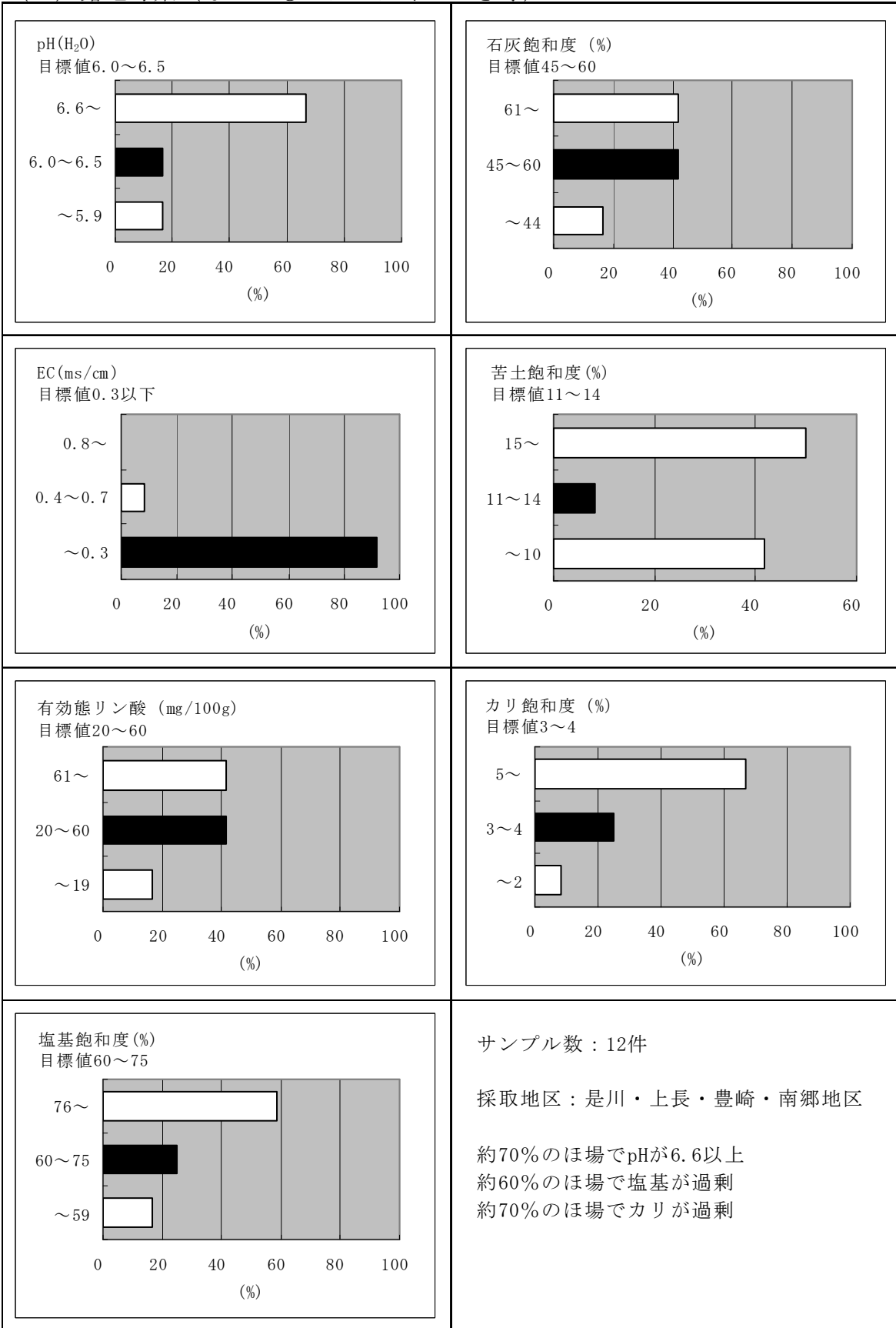


(2) 施設野菜 (トマト・ミニトマト・きゅうり) ・花き





(3) 露地野菜 (ながいも・にんにく・ねぎ等)



## 2 - 6 植物組織培養

### 1 優良種苗の増殖実績

- (1) にんにく・・・(1品種 培養中)
- (2) いちご・・・(4品種、培養中)
- (3) デルフィニウム・・・(2品種、随時順化中)

### 2 優良種苗の配布実績

デルフィニウム (品種名 フォルカフリーデン、ボールクラウド)  
・・・市内花き生産者、約 600 株 (72 穴セル苗) 配布済

## 2 - 7 市民農園設置事業

目 的	自然環境の中で市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上ならびに農業に対する理解を深めてもらうために実施した。
期 間	平成 23 年 4 月 17 日から平成 23 年 11 月 20 日まで
面積及び区画	33 m <sup>2</sup> : 238 区画 99 m <sup>2</sup> : 26 区画
対 象	八戸市民 (1 世帯 1 区画)
使 用 料	33 m <sup>2</sup> : 2,500 円 99 m <sup>2</sup> : 7,500 円
主 要 施 設	休憩所 (1 ヶ所) トイレ (2 基) 電話 (1 台) 農業用水道 (6 ヶ所) 駐車場 (1 ヶ所 1,000 m <sup>2</sup> )

### 市民農園での主な作付け作物

#### 【春】

じゃがいも、まめ類、だいこん、にんじん、ねぎ

#### 【秋】

だいこん、にんじん、ねぎ、はくさい、まめ類

## 2 - 8 農業体験学習

目的	小学生等の食育教育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食物に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。				
実績	団体名	人数	内容	時期	
	イメルダ幼稚園	23	さつまいも植付け体験	5月23日	
	イメルダ幼稚園	21	さつまいも、大根収穫体験	10月31日	
	八戸短期大学附属幼稚園	121	さつまいも植付け体験	5月27日	
	八戸短期大学附属幼稚園	117	さつまいも、大根収穫体験	10月28日	
	八戸幼稚園	27	さつまいも植付け体験	5月24日	
	八戸幼稚園	30	さつまいも、大根収穫体験	10月27日	
	白銀台保育園	58	さつまいも植付け体験	5月25日	
	白銀台保育園	58	大根は種及び草取り	8月31日	
	白銀台保育園	58	さつまいも、大根収穫体験	10月20日	
	種差小学校	52	農業体験出前講座	5月26日	
	根城小学校特別支援学級	13	さつまいも、大根収穫体験	10月27日	
	下長小学校2年生	44	さつまいも植付け体験	5月19日	
	下長小学校2年生	44	さつまいも、大根収穫体験	10月27日	
	吹上小学校3学年	80	だいこん収穫、施設見学	10月28日	
	中居林小学校3年生	58	さつまいも、大根収穫及び施設見学	11月10日	
	白銀南中学校	112	さつまいも植付け体験	6月1日	
	白銀南中学校	118	さつまいも、大根収穫体験	11月8日	
	鷗盟大学1学年	18	じゃがいも植付け	4月22日	
	鷗盟大学1学年	16	じゃがいも芽かき、追肥、土寄せ	6月10日	
	鷗盟大学1学年	20	じゃがいも収穫	8月5日	
	鷗盟大学1学年	20	大根は種	8月26日	
	岩館ファミリー農園	35	野菜栽培指導相談	4月10日	
	岩館ファミリー農園	40	野菜栽培指導相談	8月21日	
	合計 1,183				

## 2 - 9 農業講座開催実績

平成 23 年度八戸市農業講座の概要（実績）

月 日	時 間	演 題	講 師	受講者数
1 月 24 日 (火)	13 時 00 分 ～14 時 30 分	今年の八戸の天候について	(株)吉田産業 海洋気象事業部 所長 気象予報士 田嶋研逸	94 名
	14 時 45 分 ～16 時 15 分	トマト・ミニトマトの栽培と 高温期対策について	(株)サカタのタネ 東日本支店仙台営業所 久保田維明	87 名
1 月 25 日 (水)	13 時 00 分 ～14 時 30 分	立ち上がろう！八戸 ～八戸農業の復興は土づく りから～	東京農業大学 生産環境化学研究室 教授 後藤逸男	80 名
	14 時 45 分 ～16 時 15 分	トルコギキョウと切り花品 目について	(株)ムラカミシード 北日本営業所 所長 中山由明	40 名
1 月 26 日 (木)	13 時 00 分 ～14 時 30 分	野菜の動向と新品種・新技術 について	カネコ種苗(株) 盛岡支店 課長 寺澤美作穂	76 名
	14 時 45 分 ～16 時 15 分	課題研究発表 ①植物のアレロパシー効果 を活用した雑草防除の可 能性 ②夏秋いちごの栽培に関す る研究 ③天然酵母を用いたパン作 り ④消えゆく柿に光を ⑤花のチカラ ～震災復興支 援プロジェクト～	青森県立名久井農業高等 学校	44 名
合 計				421 名

## 2 - 10 家庭菜園講習会開催実績

目的 野菜づくりに必要な基本的な知識や技術の習得と地場野菜への関心を深めてもらうため実施した。

日時	場所	名称	人数
平成23年5月15日	農業経営振興センター	夏・秋の野菜づくり	49
平成23年8月23日	江陽公民館	家庭菜園講習会	46
平成24年3月4日	農業経営振興センター	春・夏の野菜づくり	101
合計			196

## 2 - 11 施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

### ◆研修室等利用実績

施設名	月	計
多目的研修室	135㎡ (100名)	回数 26
小会議室		人数 1,131
調理実習室	56㎡(20名)	回数 3
研修室	35㎡(15名)	人数 80
計		回数 29 人数 1,211

◆来場者数 1,564 名

※施設見学及び指導相談並びに土壌分析依頼・相談の件数

◆指導相談件数 142 件

※小会議室については、多目的研修室と連結しているため含んだ数値。

# 業務計画

## 【平成 24 年度】

場 長	上 村	智 貞
副参事	石 丸	隆 典
(経営支援グループリーダー)		
主 幹	久 保	昌 広
(生産振興グループリーダー)		
主 査	島 川	正 範
主 査	水 野	悠 恵
技 査	福 田	武 紀
技 査	菊 谷	佳 夫
主 事	下 沢	佳 子
主 事	田 茂	竜 児
主 事	新 井	絢 子
主 事	中 野	正 寿
技 師	幸 田	洋 平
技 師	中 里	一 希
技 師	奥 山	成 美

### 第3 業務計画

#### 3-1 調査計画（施設野菜）

##### 施設野菜の部 計画No.1

##### 項 目：栽培技術調査

調査名：いちごのクラウン温度制御に関する調査（新規：平成24年度～平成26年度）

- 1 目的 クラウン温度の違いによって超促成作型のいちごの収量、品質にどのような影響が見られるかを調査し、栽培上の資料とする。

##### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号（132 m<sup>2</sup>：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) ポット受期 平成23年6月27日～
  - 3) 夜冷処理期間 平成23年8月8日～9月12日
  - 4) 夜冷処理日数 36日
  - 5) 夜冷処理方法 短日処理 8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）  
夜冷処理 13～15℃（16時30分～翌8時30分）
  - 6) 育苗日数 81日
  - 7) 定植年月日 平成23年9月13日
  - 8) 栽植距離 うね幅110cm、株間15cm、2条植え 1,060株/棟
  - 9) 施肥量（kg/a） N-P-K=1.5-1.98-5.14
  - 10) 使用資材（kg/a） LPコート100日（N40%）：3.75kg  
パワーリン（P30%-Mg3%）：6.6kg  
けい酸加里（K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7～12%-Fe2～5%）：25.7kg  
ハイクド40（Mg40%）：7.5kg  
大塚養液土耕5号、6号
  - 11) 収穫期間 平成23年12月14日～平成24年6月下旬
  - 12) 保温・加温 保温：内カーテン、加温：平成23年10月3日～（12℃設定）
  - 13) 電熱線敷設 平成23年11月29日～（20℃設定）
- (3) 調査区の構成 2区：1区10株 1区制  
供試品種：さちのか  
(1) 慣行区 (2) 電熱線区
- (4) 調査項目 生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.2

### 項 目：品種比較調査

調査名：いちごの半促成栽培における品種比較調査（平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 近年、当地域で栽培されている「麗紅」の収量・品質が低下し、それに替わる半促成栽培に適した品種が望まれていることから、品種比較し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス6号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) ポット受期 平成23年6月27日～
  - 3) 育苗日数 64日
  - 4) 定植年月日 平成23年8月30日
  - 5) 栽植距離 うね幅110cm、株間15cm、2条植え
  - 6) 定植株数 848株/棟 (株間15cm)
  - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.3-0.3-6.3
  - 8) 使用資材 (kg/a) LPコート100日 (N40%) : 5kg  
有機アグレット666特号 (N6%-P6%-K6%) : 5kg  
けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 30kg  
大塚養液土耕5号、6号
- 9) 収穫期間 平成24年3月16日～平成24年6月下旬
- 10) 保 温 内カーテン、トンネル：平成23年12月15日～
- (3) 調査区の構成 4区 (品種) : 1区10株 1区制  
(1)さちのか (2)栴の峰 (3)紅ほっぺ (4)麗紅
- (4) 調査項目 生育、収量





## 施設野菜の部 計画No.4

### 項 目：栽培技術調査

調査名：夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性品種について、摘芽、摘葉、摘花・摘果等栽培管理を適宜行うことにより、単価の最も高い24～30玉規格を中心とした収量や、品質等へどのような影響が見られるかを調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス15号 (99 m<sup>2</sup>：約30坪)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 養液土耕栽培  
2) 定植年月日 平成24年3月29日  
3) 栽植距離 うね幅110cm、株間25cm、2条植え  
4) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.8-0.02-3.76  
LPコート100日(N40%)：1.6kg  
有機アグレット816特号(N8%-P1%-K6%)：2.0kg  
けい酸加里(K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：18.2kg  
ハイクド40(Mg40%)：5.6kg  
マルチサポート1号(Mg15%-Mn0.5%-B0.2%)：6.4kg  
大塚養液土耕6号

5) 収穫期間 平成24年6月中旬～12月上旬

(3) 調査区の構成 3区(栽培管理別)：1区10株 1区制

供試品種：サマールビー

区	〈芽数〉	〈摘葉〉	〈摘花(果)〉
(1) 1	1芽	1～2枚/週	頂花房5～6果 以降8～9果
(2) 2	2～3芽	1～2枚/週	頂花房5～6果 以降8～9果
(3) 3	放任	8月中旬に一度に5～6枚 以降古葉のみ	頂花房5～6果 以降放任

(4) 調査項目 生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.5

### 項 目：品種比較調査

調査名：きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの半促成栽培について比較調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調 査 場 所      パイプハウス 7 号 (99 m<sup>2</sup> : 約 30 坪)
- (2) 耕 種 概 要
  - 1) 栽 培 方 法      養液土耕栽培
  - 2) は種月日(穂木)    平成 24 年 3 月 6 日
  - 3) は種月日(台木)    平成 24 年 3 月 8 日
  - 4) 接木・移植月日    平成 24 年 3 月 15 日 (12 cmポット)
  - 5) 定 植 年 月 日      平成 24 年 4 月 12 日
  - 6) 栽 植 距 離      ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
  - 7) 施 肥 量 (kg/a)    N-P-K=土壌分析結果による
  - 8) 使用資材 (kg/a)    珪酸加里プレミアム 34 40kg、ハイフミンハイブリッド G 30kg  
大塚養液土耕 5 号 (~収穫前)、2 号 (収穫開始~)
  - 9) 収 穫 期 間      平成 24 年 5 月中旬~7 月下旬
  - 10) 保 温 ・ 加 温    保温：内カーテン、加温：定植後~12℃設定
- (3) 調 査 区 の 構 成    6 区 (品種) : 1 区 5 株 1 区制
- (4) 調 査 項 目      生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.6

### 項 目：品種比較調査

調査名：きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの抑制栽培について品種比較し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調 査 場 所      パイプハウス 6 号 (99 m<sup>2</sup> : 約 30 坪)
- (2) 耕 種 概 要
  - 1) 栽 培 方 法      養液土耕栽培
  - 2) は種月日(穂木)    平成 24 年 7 月中旬
  - 3) は種月日(台木)    平成 24 年 7 月中旬
  - 4) 接木・移植月日    平成 24 年 7 月下旬 (12 cmポット)
  - 5) 定 植 年 月 日      平成 24 年 8 月上旬
  - 6) 栽 植 距 離      ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
  - 7) 施 肥 量 (kg/a)    N-P-K=土壌分析結果による
  - 8) 使用資材 (kg/a)    大塚養液土耕 5 号 (~収穫前)、2 号 (収穫開始~)
  - 9) 収 穫 期 間      平成 24 年 9 月上旬~11 月上旬
- (3) 調 査 区 の 構 成    4 区 (品種) : 1 区 5 株 1 区制
- (4) 調 査 項 目      生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.7

### 項 目：栽培技術調査

調査名：きゅうりのつる下げ栽培に関する調査（平成 23 年度～平成 25 年度）

1 目的 仕立て方の違いによる抑制きゅうりの収量、品質について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス 6 号（抑制）（99 m<sup>2</sup>：約 30 坪）
- (2) 耕 種 概 要
  - 1) 栽 培 方 法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日(穂木) 平成 24 年 7 月中旬
  - 3) は種月日(台木) 平成 24 年 7 月中旬
  - 4) 接木・移植月日 平成 24 年 7 月下旬（12 cmポット）
  - 5) 定植年月日 平成 24 年 8 月上旬
  - 6) 栽 植 距 離 慣 行 区：ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え（1 本仕立）  
144 株/棟  
つる下げ区：ベッド幅 150 cm、株間 90 cm、1 条植え（4 本仕立）  
36 株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 8) 使用資材(kg/a) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
  - 9) 収 穫 期 間 平成 24 年 9 月上旬～11 月上旬
- (3) 調 査 区 の 構 成 2 区：1 区 5 株 1 区制  
供試品種：マジカル(埼) × ゆうゆう一輝黒(埼)  
※ (埼)：(株)埼玉原種育成会  
(1)慣 行 区：1 本仕立て（株間 45 cm 2 条植え）  
(2)つる下げ区：4 本仕立て（株間 90 cm 1 条植え）
- (4) 調 査 項 目 生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.8

### 項 目：品種比較調査

調査名：冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 冬期間の施設利用によるこまつなの品種等について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス 6 号（99 m<sup>2</sup>：約 30 坪）
- (2) 耕 種 概 要
  - 1) 栽 培 方 法 土耕栽培、無加温（不織布べたがけ）
  - 2) は 種 月 日 平成 24 年 11 月下旬
  - 3) 栽 植 距 離 ベッド幅 120 cm、株間 5 cm、条間 20 cm
  - 4) 施肥量(kg/a) N-P-K=無施肥（きゅうり後作）
  - 5) 収 穫 期 間 平成 25 年 2 月上旬～3 月上旬
- (3) 調 査 区 の 構 成 6 区（品種）：1 区 1m（20 株）×2 区制
- (4) 調 査 項 目 生育、収量

## 施設野菜の部 計画No.9

### 項目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号（165㎡：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成23年12月22日
  - 3) 移植月日 平成24年1月17日（12cmポット）
  - 4) 定植月日 平成24年2月22日
  - 5) 育苗日数 62日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 8) 使用資材(kg/a) ハイフミンハイブリッドG：18kg、パワーリン（P30%）：10.0kg、珪酸加里プレミアム34（K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%）：20.7kg、ハイクド40（Mg40%）：4.6kg  
大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成24年5月中旬～7月下旬
  - 10) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定）定植後（～6月中旬）
- (3) 調査区の構成 6区（品種） 1区10株 1区制
- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| (1) CF桃太郎はるか（タキイ種苗株） | (4) 麗夏（㈱サカタのタネ）   |
| (2) CFハウス桃太郎（タキイ種苗株） | (5) 朝日和10（朝日工業株）  |
| (3) りんか409（㈱サカタのタネ）  | (6) みそら64（みかど協和株） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.10

### 項目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165㎡：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成24年2月28日
  - 3) 移植月日 平成24年3月21日（12cmポット）
  - 4) 定植月日 平成24年4月23日
  - 5) 育苗日数 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
  - 6) 栽植距離 N-P-K=土壌分析結果による
  - 7) 施肥量(kg/a) ハイフミンハイブリッドG：18kg、珪酸加里プレミアム34：(K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：8.7kg、マルチサポート1号（Mg15%-B0.2%-Mn0.5%）16.0kg、ハイクド40（Mg40%）：6kg  
大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成24年6月上旬～10月下旬
- (3) 調査区の構成 7区 1区10株 1区制
- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| (1) 麗夏（㈱サカタのタネ）     | (5) りんか409（㈱サカタのタネ） |
| (2) みそら64（みかど協和株）   | (6) もえか007（朝日工業株）   |
| (3) 桃太郎8（タキイ種苗株）    | (7) 朝日和もえか（朝日工業株）   |
| (4) 桃太郎グランデ（タキイ種苗株） |                     |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.11

### 項目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号（165 m<sup>2</sup>：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成24年6月中旬
  - 3) 定植月日 平成24年7月上旬  
（前作の栽培中にその株間に定植）
  - 4) 栽植距離 ベッド幅120 cm、株間40 cm、2条植え 320株/棟
  - 5) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 6) 使用資材(kg/a) 大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 7) 収穫期間 平成24年9月上旬～11月下旬
  - 8) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機による（12℃設定）（10月上旬～）
- (3) 調査区の構成 8区（品種） 1区10株 1区制
- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| (1) りんか409（㈱サカタのタネ）  | (5) 桃太郎ギフト（タキイ種苗㈱） |
| (2) 麗夏（㈱サカタのタネ）      | (6) 朝日和もえか（朝日工業㈱）  |
| (3) みそら64（みかど協和㈱）    | (7) もえか007（朝日工業㈱）  |
| (4) CF桃太郎はるか（タキイ種苗㈱） | (8) 朝日和10（朝日工業㈱）   |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.12

### 項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号（165 m<sup>2</sup>：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成23年12月22日
  - 3) 移植月日 平成24年1月19日（12 cmポット）
  - 4) 定植月日 平成24年2月21日
  - 5) 育苗日数 60日
  - 6) 栽植距離 ベッド幅120 cm、株間40 cm、2条植え 320株/棟
  - 7) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 8) 使用資材(kg/a) ハイフミンハイブリッドG：18 kg、パワーリン（P30%）：10.0 kg、珪酸加里プレミアム34（K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%）：20.7 kg、ハイクト40（Mg40%）：4.6 kg  
大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 9) 収穫期間 平成24年5月7日～7月下旬
  - 10) 加温・保温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定）定植後（～6月中旬）
- (3) 調査区の構成 6区（品種） 1区10株 1区制
- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| (1) サンチェリーピュア（トキタ種苗㈱） | (5) ラブリー藍（みかど協和㈱） |
| (2) キャロル10（㈱サカタのタネ）   | (6) CF千果（タキイ種苗㈱）  |
| (3) SC7-040（㈱サカタのタネ）  |                   |
| (4) リトルジェムダブル（朝日工業㈱）  |                   |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.13

### 項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成19年度～平成24年度）

- 1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165㎡：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成24年2月28日
  - 3) 移植月日 平成24年3月21日（12cmポット）
  - 4) 定植月日 平成24年4月19日
  - 5) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
  - 6) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 7) 使用資材(kg/a) ハイフミンハイブリッドG：18kg、珪酸加里プレミアム34：(K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：8.7kg、マルチサポート1号(Mg15%-B0.2%-Mn0.5%) 16.0kg、ハイクド40(Mg40%)：6kg
- 8) 収穫期間 大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）  
平成24年6月上旬～10月下旬
- (3) 調査区の構成 8区（品種） 1区10株 1区制
- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| (1) キャロル10（㈱サカタのタネ）   | (5) AMS-100（㈱朝日工業）   |
| (2) SC7-040（㈱サカタのタネ）  | (6) TSX-100（トキタ種苗㈱）  |
| (3) ラブリー藍（みかど協和㈱）     | (7) CF千果（タキイ種苗㈱）     |
| (4) キャロルクイーン（㈱サカタのタネ） | (8) SC9-049（㈱サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.14

### 項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号（165㎡：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) は種月日 平成24年6月中旬
  - 3) 定植月日 平成24年7月上旬  
（前作の栽培中にその株間に定植）
  - 4) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
  - 5) 施肥量(kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
  - 6) 使用資材(kg/a) 大塚養液土耕5号（～収穫前）、2号（収穫開始～）
  - 7) 収穫期間 平成24年9月上旬～11月下旬
  - 8) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機による（12℃設定）（10月上旬～）
- (3) 調査区の構成 5区（品種） 1区10株 1区制
- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| (1)キャロル10（㈱サカタのタネ）  | (4)サンチェリーピュア（トキタ種苗㈱） |
| (2)SC7-040（㈱サカタのタネ） | (5)キャロルクイーン（㈱サカタのタネ） |
| (3)ラブリー藍（みかど協和㈱）    |                      |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

## 施設野菜の部 計画No.15

### 項目：栽培技術調査

調査名：ミニトマトの作型比較調査（平成23年度～平成25年度）

- 1 目的 当地域におけるミニトマトの主な作型（①5月定植型、②半促成+抑制型、③長期型：3月下旬定植）について比較調査をすることで、今後の単収増を図る上での参考資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス3号（約132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培  
（半促成）（5月定植）（抑制）（長期型）
- 2) は種月日 平成24年2月1日、同4月10日、同6月中旬、同2月1日
- 3) 定植月日 平成24年3月30日、同5月中旬、同7月上旬、同3月30日
- 4) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え 320株/棟
- 5) 施肥量(kg/a) 土壌分析結果による
- 6) 使用資材(kg/a) ハイフミンハイブリッドG：17.0kg、珪酸加里プレミアム34  
(K20%-Si34%-Mg4%-B0.1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：29.1kg、ハイ  
クド40(Mg40%)：11.0kg、大塚養液土耕5号（～収穫前）、2  
号（収穫開始～）
- 7) 収穫期間 平成24年4月中旬～11月
- (3) 調査区の構成 3区（品種：キャロル10（株サカタのタネ）
- (1) ①5月定植型
- (2) ②半促成+抑制型
- (3) ③長期型
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度



## 3 - 2 調査計画（露地野菜）

### 露地野菜の部 No.1

項目：品種比較調査

調査名：ねぎの品種比較調査（平成22年度～平成24年度）

1 目的 当地域におけるねぎの作型別での適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303（264穴）2粒播き
- 2) は種及び定植月日
- 〈は種〉 平成24年1月18日 平成24年4月10日
- 〈定植〉 平成24年4月4日 平成24年5月中旬
- 平成24年5月7日 平成24年6月中旬
- 3) 栽植距離 うね幅100cm、株間5cm
- 4) 植付本数 40,000本/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=18-18-18 kg/10a
- 6) 使用資材 (基肥) ハイパーCDU555(中期) : 40 kg/10a(15-15-15)
- (追肥) ハイパーCDU555(中期) : 80 kg/10a/2回(15-15-15)
- 7) 収穫月日 ①平成24年7月下旬
- ②平成24年9月中旬
- ③平成24年10月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 9区(1区1.25m、2区制)
- 供試品種 (1)K-904 (株)パセリー菜
- (2)K-924 (株)パセリー菜
- (3)みちのく701 (株)パセリー菜
- (4)おいらせ111 (株)パセリー菜
- (5)夏扇パワー (株)サカタのタネ
- (6)夏扇2号 (株)サカタのタネ
- (7)夏扇4号 (株)サカタのタネ
- (8)Y0-810 (吉田種苗株)
- (9)夏秋白扇5号 (吉田種苗株)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

## 露地野菜の部 No.2

項目：品種比較調査

調査名：ピーマンの品種比較調査（平成 23 年度～平成 24 年度）

1 目的 近年、露地栽培において、既存品種の品質低下が問題となっていることから、当地域に適応する品種を特定するため比較調査をし、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作 2 年目）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) は種及び定植月日
- |   | 〈は種〉             | 〈定植〉            |
|---|------------------|-----------------|
| ① | 平成 24 年 2 月 16 日 | 平成 24 年 5 月 1 日 |
| ② | 平成 24 年 3 月 9 日  | 平成 24 年 5 月中旬   |
- 3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 4) 定植株数 1,300 株/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=44.4-33.6-44.4 kg/10a
- 6) 使用資材 (基肥) 野菜エコブレンド：300 kg/10a (10-10-10)  
(追肥) くみあい燐硝安加里 S646：90 kg/3 回/10a (16-4-16)
- (3) 調査区の構成 調査区 5 区 (1 区 5 株、1 区制)
- | 供試品種      |                |
|-----------|----------------|
| (1) かがやき  | (株) 南国育種研究農場   |
| (2) 武蔵    | (株) 南国育種研究農場   |
| (3) P-002 | (株) パセリー菜      |
| (4) 京ゆたか  | (タキイ種苗株)       |
| (5) さらら   | (財) 財日本園芸生産研究所 |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

## 露地野菜の部 No.3

### 項目：栽培技術調査

#### 調査名：ピーマンの接ぎ木栽培調査（新規：平成24年度）

- 1 目的 ピーマンの接ぎ木栽培は自根栽培に比べ増収効果があると報告があることから、当地域での接ぎ木栽培の特性を把握するため調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作2年目）
- (2) 耕種概要
- |             |                |           |
|-------------|----------------|-----------|
| 1) 栽培方法     | 土耕栽培           |           |
| 2) は種及び定植月日 | 〈は種〉           | 〈定植〉      |
|             | ①台木：平成24年2月10日 | 平成24年5月1日 |
|             | 穂木：平成24年2月13日  |           |
|             | 自根：平成24年2月16日  |           |
|             | ②台木：平成24年3月2日  | 平成24年5月中旬 |
|             | 穂木：平成24年3月5日   |           |
|             | 自根：平成24年3月9日   |           |
- 3) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
- 4) 定植株数 1,300株/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=44.4-33.6-44.4kg/10a
- 6) 使用資材 (基肥) 野菜エコブレンド：300kg/10a(10-10-10)  
(追肥) くみあい磷硝安加里 S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
- (3) 調査区の構成 調査区 8区(1区5株、1区制)  
供試品種 台木 [スケットPX、スケットFR①、スケットFR②]  
(榊南国育種研究農場)  
穂木 [かがやき] (榊南国育種研究農場)  
自根 [かがやき] (榊南国育種研究農場)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

## 露地野菜の部 No.4

### 項目：肥料比較調査

調査名：ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 追肥時期の遅れによる秀品率低下の解消、追肥作業の省力化を図るため、追肥省略型肥料における品質・収量について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 平成24年5月中旬
- 2) 栽植距離 うね幅120cm、株間21cm
- 3) 植付本数 3,968本/10a
- 4) 施肥量
- ①慣行区  
（基肥）太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）  
（追肥）くみあい燐硝安加里S440：90kg/3回/10a（14-4-20）  
【合計】22.6-18.0-27.6kg/10a
- ②秋のごたえ7  
（基肥）秋のごたえ7：260kg/10a（10-12-7）  
【合計】26-31.2-18.2kg/10a
- ③ハイパーCDU555中期  
（基肥）ハイパーCDU555中期：150kg/10a（15-15-15）  
【合計】22.5-22.5-22.5kg/10a
- ④スーパーロング424-S70  
（基肥）スーパーロング424-S70：160kg/10a（14-12-14）  
【合計】22.4-19.2-22.4kg/10a
- ⑤ハイパーCDU555長期  
（基肥）ハイパーCDU555長期：150kg/10a（15-15-15）  
【合計】22.5-22.5-22.5kg/10a
- ⑥ビオンエース  
（基肥）ビオンエース：150kg/10a（15-6-6）  
【合計】22.5-9-9kg/10a
- 5) 収穫月日 平成24年11月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 6区（1区5.25m<sup>2</sup>2区制）  
供試品種 園試系6（1年子（頂芽付き）91g～120g）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

## 露地野菜の部 No.5

### 項目：品質特性調査

調査名：ながいもの種いも別比較調査（新規：平成24年度～平成25年度）

- 1 目的 種いもの種類別の特性を把握するため収量・品質について調査し、栽培上の資料とする。

### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 定植年月日 平成24年5月中旬
  - 2) 栽植距離 うね幅120cm、株間21cm（3,968本/10a）
  - 3) 施肥量（基肥）太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）  
（追肥）くみあい燐硝安加里S440：90/3回/10a（14-4-20）  
【合計】22.6-18.0-27.6kg/10a
  - 4) 収穫月日 平成24年11月下旬
- (3) 調査区の構成
- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 調査区  | 4区（1区5.25m、2区制）       |
| 供試品種 | 園試系6                  |
|      | 1) 1年子：81g～100g（頂芽付き） |
|      | 2) 2年子：81g～100g（頂芽付き） |
|      | 3) 切りいも：101g～120g     |
|      | 4) 切片子：81g～100g（頂芽付き） |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質（糖度・粘度・乾物率）

露地野菜の部 No.6

項目：栽培技術調査

調査名：ながいもの施肥量別調査（新規：平成24年度～平成25年度）

1 目的 当地域におけるながいも栽培において株間及び施肥量の違いによる収量・品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）

(2) 耕種概要

1) 定植年月日 平成24年5月中旬

2) 栽植距離 ①うね幅120cm、株間18cm（4,629本/10a）

②うね幅120cm、株間21cm（3,968本/10a）

③うね幅120cm、株間24cm（3,472本/10a）

3) 施肥量（基肥）太平複合新長いも（12-18-12）

（追肥）くみあい磷硝安加里 S440（14-4-20）

① I	80 kg/10a	基肥
	90 kg/3回/10a	追肥
	22.2-18.0-27.6 kg/10a	合計
II	93.3 kg/10a	基肥
	105 kg/3回/10a	追肥
	25.9-21.0-32.2 kg/10a	合計
III	106.7 kg/10a	基肥
	120 kg/3回/10a	追肥
	29.6-24.0-36.8 kg/10a	合計
② I	80 kg/10a	基肥
	90 kg/3回/10a	追肥
	22.2-18.0-27.6 kg/10a	合計
II	85.8 kg/10a	基肥
	96.5 kg/3回/10a	追肥
	23.8-19.3-29.6 kg/10a	合計
III	91.7 kg/10a	基肥
	103 kg/3回/0a	追肥
	25.4-20.6-31.6 kg/10a	合計
③	80 kg/10a	基肥
	90 kg/3回/10a	追肥
	22.2-18.0-27.6 kg/10a	合計

	株間18cm ①	株間21cm ②	株間24cm ③
I	22.2kg (4.8g)	22.2kg (5.6g)	慣行区 22.2kg (6.4g)
II	25.9kg (5.6g)	23.8kg (6.0g)	
III	29.6kg (6.4g)	25.4kg (6.4g)	

10a当たりN量〔( )は1本当たり〕

4) 収穫月日 平成24年11月下旬

(3) 調査区の構成 調査区 7区（1区3.75～6m、2区制）  
供試品種 園試系6（1年子（頂芽付き）81g～100g）

(4) 調査項目 生育、収量、品質（糖度・粘度・乾物率）

## 露地野菜の部 No.7

### 項目：栽培技術調査

#### 調査名：にんにくの栽植距離別調査（平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 当地域におけるにんにく栽培において株間及び種子重量別の違いによる収量・品質について調査し、栽培上の資料とする。

#### 2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作2年目）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培（コーターコンビ・グリーン）
- 2) 定植年月日 平成23年10月7日
- 3) 栽植距離 ①うね幅150cm、株間13cm、条間25cm、4条植え（20,512株/10a）  
②うね幅150cm、株間15cm、条間25cm、4条植え（17,777株/10a）  
③うね幅150cm、株間17cm、条間25cm、4条植え（15,686株/10a）
- 4) 施肥量 N-P-K=25.2-25.2-18kg/10a
- 5) 使用資材 サイトンエースZ：90kg/10a  
（基肥）熟畑大玉にんにく：180kg/10a（14-14-10）
- 6) 収穫月日 平成24年6月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 9区（1区2.44～3.19㎡、2区制）  
供試品種 エム・ジー・エス（バイオ由来）  
種子重量 小（8.0g～12.0g） 中（12.1g～16.0g） 大（16.1g～）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

### 3 - 3 調査計画（花き）

花きの部 No.1

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(8月出荷)（平成7年度～平成26年度）

1 目的 収益性を見定める花き品目として有望なトルコギキョウについて、8月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

#### 2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス8号 (99 m<sup>2</sup> : 約30坪)

#### (2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) 播種年月日 平成24年2月3日
- 3) 定植年月日 平成24年4月4日
- 4) 栽植距離 ベッド幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え(中3条抜き)
- 5) 定植株数 4,300本/棟
- 6) 施肥量(kg/a) N・P・K=1.5-0.6-7.6
- 7) 使用資材(kg/a) トリオ有機S048 (N10%-P4%-K8%) : 15、ケイ酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B-1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 32、ハイクド40 (Mg40%) : 3kg、288穴セルトレイ、白黒ダブルマルチ、10cm×11目フラワーネット、ネニソイル(微生物資材) : 11.4
- 8) 収穫期間 平成24年8月上旬

#### (3) 調査区の構成

- 1) 調査区 15区 (1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 15品種

No.	品種名	早晩性	花形	花径	色	会社名
1	ファンシーホワイト	早生	八重	大	白	ムラカミシード(株)
2	ファンシーブルー	早生	八重	大	白/紫緋	ムラカミシード(株)
3	ホイップホワイト	中早生	八重	中小	白	タキイ種苗(株)
4	ホイップグリーン	中早生	八重	中小	緑	タキイ種苗(株)
5	エンゲージホワイト	中早生	八重	中大	白	住化農業資材(株)
6	ファルダチェリー	中生	一重	大	濃サーモン	タキイ種苗(株)
7	バルカンホワイト	中生	一重	中小	白	タキイ種苗(株)
8	パレットブルー	中生	一重	中	薄緑/紫覆輪	ムラカミシード(株)
9	ロベライエロー	中生	八重	中大	黄	サカタのタネ(株)
10	マリーナブルーフラッシュ	中生	八重	大	白/紫緋	タキイ種苗(株)
11	マリーナアプリコット	中生	八重	大	やや濃杏	タキイ種苗(株)
12	マリアホワイト	中生	八重	中	白	サカタのタネ(株)
13	ミルフルール	中生	八重	小	白/桃緋	福花園種苗(株)
14	09-073	中生	八重	中小	紫	福花園種苗(株)
15	09-337	中生	八重	中大	白/紫覆輪	福花園種苗(株)

(4) 調査項目 生育、開花、切花



花きの部 No.2

項 目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷) (平成12年度～平成26年度)

1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス1号 (132㎡：約40坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
  - 2) 播種年月日 平成24年3月14日
  - 3) 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、6℃暗黒条件下にて35日間冷蔵処理、その後普通育苗
  - 4) 定植年月日 平成24年5月下旬
  - 5) 栽植距離 ベッド幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え(中3条抜き)
  - 6) 定植株数 5,120本/棟
  - 7) 短日処理 定植10日後から25日間 (17時～翌8時遮光)
  - 8) 施肥量 (kg/a) N・P・K=1.2-0.9-2.2
  - 9) 使用資材 (kg/a) 大塚化学(株)製養液土耕5号：1.7、同2号：7.3、288穴エクセルソイル(育苗培土)、白黒ダブルマルチ、10cm×11目フラワーネット、ネニソイル(微生物資材)：11.4、短日処理用遮光カーテン、メガクール(遮光フィルム)
  - 10) 遮光期間 平成24年7月上旬～9月上旬 ※メガクール
  - 11) 収穫期間 平成24年9月中旬

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 22区 (1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 22品種

No.	品種名	早晩性	花形	花径	色	会社名
1	バルカンホワイト	中生	一重	中小	白	タキイ種苗(株)
2	ファルダチェリー	中生	一重	大	濃サーモン	タキイ種苗(株)
3	ロベライエロー	中生	八重	中大	黄	サカタのタネ(株)
4	グランドピンク	中生	八重	中大	桃	カネコ種苗(株)
5	ソフィール	中生	八重	中	白/淡藤覆輪	カネコ種苗(株)
6	バレットピンク	中晩生	一重	中	薄緑/桃覆輪	ムラカミシード(株)
7	コパミル	中晩生	一重	中小	極淡桃	ミヨシ(株)
8	ジャズニホワイト	中晩生	八重	中大	白	ミヨシ(株)
9	ルセントホワイト	中晩生	八重	中小	白	ミヨシ(株)
10	アリア	中晩生	八重	小	白	福花園種苗(株)
11	09-172	中晩生	八重	大	白	福花園種苗(株)
12	ハレスライトピンク	中晩生	八重	中	白/薄桃緋	カネコ種苗(株)
13	アンジェリケ	中晩生	八重	中	赤緋	カネコ種苗(株)
14	コゾローサ	中晩生	八重	中	濃桃	カネコ種苗(株)
15	コゾライトピンク	中晩生	八重	中大	淡桃	カネコ種苗(株)
16	コゾピンク	中晩生	八重	中大	桃	カネコ種苗(株)
17	リエナピンク	中晩生	八重	大	桃	カネコ種苗(株)
18	フィリアラベンダー	中晩生	八重	中	ラベンダー	カネコ種苗(株)
19	クローミーピンク	中晩生	八重	大	黄/桃緋	カネコ種苗(株)
20	クインオブナイト	中晩生	八重	中大	濃紫	ムラカミシード(株)
21	パレオオタムピンク	晩生	八重	大	桃	タキイ種苗(株)
22	オーブカテル	晩生	八重	中大	黄/濃桃絞	サカタのタネ(株)

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 No.3

項 目：栽培技術調査

調査名：ラークスパークの栽培調査(6月出荷) (平成23年度～平成25年度)

1 目的 収益性を見込める花き品目を開拓するため、ラークスパークの6月出荷栽培における栽培技術及び開花時期、切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調 査 場 所 パイプハウス5号 (132㎡：約40坪)

(2) 耕 種 概 要

- 1) 栽 培 方 法 土耕栽培
- 2) 播 種 年 月 日 平成24年2月13日
- 3) 定 植 年 月 日 平成24年3月19日
- 4) 栽 植 距 離 ベッド幅80cm、株間20cm、条間20cm、4条植え
- 5) 定 植 株 数 1,600株/棟
- 6) 仕 立 て 法 草丈10cmの位置で摘心、側枝を10本に整枝
- 7) 施 肥 量 (kg/a) N・P・K=1.0-0.4-8.7
- 8) 使 用 資 材 (kg/a) トリオ有機S048 (N10%-P4%-K8%) : 10、けい酸加里 (K20%-Si34%-Mg4%-B-1%-Ca7~12%-Fe2~5%) : 39.4  
200穴セルトレイ、黒マルチ、20cm×4目フラワーネット
- 9) 収 穫 期 間 平成24年6月中旬

(3) 調査区の構成

1) 調 査 区 4区 (1品種1区制10株)

2) 供 試 品 種 4品種

No.	品種名	早晚性	花色	会社名
1	シドニーライトブルー	早生	淡藤	(株)ミヨシ
2	ミヨシのライラック	中生	藤	(株)ミヨシ
3	カンヌローズストライプ	早生	濃桃・桃絞	タキイ種苗(株)
4	バースデーピンク	中晩生	濃桃・心白	福花園種苗(株)

(4) 調 査 項 目 生育、開花、切花

花きの部 No.4

項 目：品質特性調査

調査名：黄輪菊の栽培調査(9月出荷)(新規：平成24年度～平成26年度)

1 目的 秋彼岸向けとして収益性を見込める花き品目として有望な黄輪菊について、9月出荷栽培における栽培技術及び開花時期、切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地 (18 m<sup>2</sup>)

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 土耕栽培

2) 挿し穂年月日 平成24年5月2日

3) 定植年月日 平成24年5月下旬

4) 栽植距離 ベッド幅60cm、株間20cm、条間20cm、1マス2株、2条植(20cm×3目フラワーネット使用、中1条抜き)

5) 定植株数 1,666株/a

6) 仕立て法 活着後、新葉展開開始期に摘心、2本仕立て

7) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.2-1.2-7.0

8) 使用資材(kg/a) トリオ有機S048(N10%-P4%-K8%)：12、パワーリン(P30%-Mg3%)：2.3、けい酸加里(K20%-Si34%-Mg4%-B-1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：30、20cm×3目フラワーネット、200穴セルトレイ、黒マルチ

9) 収穫期間 平成24年9月上中旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 2区(1品種1区制20株)

2) 供試品種 2品種

No.	品種・系統名	会社名
1	笑の旭	小井戸微笑園
2	深志の匠	小井戸微笑園

(4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 No.5

項 目：栽培技術調査

調査名：新鉄砲ユリの栽培調査(9月出荷) (新規：平成24年度～平成26年度)

1 目的 秋彼岸向けとして収益性を見込める花き品目を開拓するため、新鉄砲ユリの9月出荷栽培における栽培技術及び開花時期、切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス12号(99㎡：約30坪)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) 播種年月日 平成24年3月5日
- 3) 定植年月日 平成24年5月下旬
- 4) 栽植距離 ベッド幅90cm、株間15cm、条間15cm、6条植え
- 5) 定植株数 2,160株/棟
- 6) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.5-0.9-8.1
- 7) 使用資材 トリオ有機S048(N10%-P4%-K8%)：15、パワーリン(P30%-Mg3%)：1、けい酸加里(K20%-Si34%-Mg4%-B-1%-Ca7~12%-Fe2~5%)：35、白黒ダブルマルチ、200穴セルトレイ、15cm×6目フラワーネット
- 8) 収穫期間 平成24年9月中旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 2区(1品種1区制10株)

2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
1	雷山2号	白	(株)ムラカミシード
2	オーガスタ	白	(株)ムラカミシード

(4) 調査項目 生育、開花、切花

### 3 - 4 土壌分析

<p>目的</p>	<p>農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。</p> <p>また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。</p>																																								
<p>分析項目</p>	<p>(1) pH (H<sub>2</sub>O・KC1)</p> <p>(2) EC (電気伝導度)</p> <p>(3) 有効態リン酸</p> <p>(4) リン酸吸収係数</p> <p>(5) CEC (塩基置換容量)</p> <p>(6) 置換性カルシウム</p> <p>(7) 置換性マグネシウム</p> <p>(8) 置換性カリウム</p> <p>(9) 水分</p>																																								
<p>定点観測地点の概要</p>	<table border="1" data-bbox="461 1059 1385 1933"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th colspan="2">地点数</th> <th colspan="2">対象作物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市川地区</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>いちご 花き</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>下長地区</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>花き ミニトマト</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>上長地区</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>ながいも 食用菊</td> <td>露地 露地</td> </tr> <tr> <td>豊崎地区</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>にんにく ピーマン ながいも</td> <td>露地 露地 露地</td> </tr> <tr> <td>館地区</td> <td>6</td> <td></td> <td>ミニトマト</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>是川地区</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>ねぎ ながいも きゅうり</td> <td>露地 露地 施設</td> </tr> <tr> <td>南郷地区</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>トマト きゅうり そば 農園</td> <td>施設 施設 露地 露地</td> </tr> </tbody> </table>	地区名	地点数		対象作物		市川地区	1	2	いちご 花き	施設	下長地区	3	2	花き ミニトマト	施設	上長地区	2	1	ながいも 食用菊	露地 露地	豊崎地区	3	1	にんにく ピーマン ながいも	露地 露地 露地	館地区	6		ミニトマト	施設	是川地区	7	2	ねぎ ながいも きゅうり	露地 露地 施設	南郷地区	6	1	トマト きゅうり そば 農園	施設 施設 露地 露地
地区名	地点数		対象作物																																						
市川地区	1	2	いちご 花き	施設																																					
下長地区	3	2	花き ミニトマト	施設																																					
上長地区	2	1	ながいも 食用菊	露地 露地																																					
豊崎地区	3	1	にんにく ピーマン ながいも	露地 露地 露地																																					
館地区	6		ミニトマト	施設																																					
是川地区	7	2	ねぎ ながいも きゅうり	露地 露地 施設																																					
南郷地区	6	1	トマト きゅうり そば 農園	施設 施設 露地 露地																																					

### 3 - 5 植物組織培養

#### 1 優良種苗の増殖実績

- (4) いちご・・・・・・・・・・(3品種、培養中)
- (5) デルフィニウム・・・・(2品種、随時順化中)
- (6) 食用菊・・・・・・・・・・(3品種、培養中)

#### 2 優良種苗の配布実績

デルフィニウムの苗については、市内の花き生産農家からの要望に応じて随時順化後、配布予定。

### 3 - 6 市民農園設置事業

目 的	自然環境の中で市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。
場 所	八戸市農業経営振興センター内
期 間	平成24年4月22日～平成24年11月18日まで
面積及び募集区画数	1区画当たり33㎡：250区画、99㎡：10区画
対 象	八戸市民（1世帯1区画）
使 用 料	2,500円（33㎡）、7,500円（99㎡）
主 要 施 設	休憩所（1ヶ所） トイレ(2基) 電話（1台） 農業用水道（6ヶ所） 駐車場（1ヶ所 1,000㎡）

### 3 - 7 農業体験学習

目 的	小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食物に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。
計 画	1 鷗盟大学（園芸科1学年、2学年） 平成24年4月下旬から11月下旬 じゃがいも等の栽培指導 （畝作り、植付、管理、収穫） 2 小学校等への出張指導 作物の植付けから収穫までの指導 3 幼稚園、小学校等を対象に体験学習 作物の植付け（種まき）、管理、収穫の体験 八戸の農業についての勉強

### 3 - 8 栽培展示計画表

●ガラス温室	H23												H24					H25			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
作物名	調査目的																				
栽培面積 (a)	調査区分																				
1号	ハウス軟白	0.8																			
	糖塚きゅうり	0.8	採種用																		
2号	共通	1.7	育苗																		
3号	夏秋いちご	1.7	展示栽培																		
4号	花き	1.7	育苗																		
5号	トマト	0.8	品種比較 (夏秋)																		
	ミニトマト	0.8	品種比較 (夏秋)																		
	ミニトマト	0.8	予備																		
6号	トマト	0.8	品種比較 (促成)																		
	トマト	0.8	予備																		
	ミニトマト	0.8	予備																		
	トマト	0.8	品種比較 (抑制)																		
	ミニトマト	0.8	品種比較 (促成)																		
7号	野菜類	1.7	展示栽培																		
8号	野菜類	1.7	展示栽培																		
	(ホウレンソウ等)																				

■ (意味: コマツナ、水菜、チンゲンサイ等葉菜類)







**発行：八戸市農業経営振興センター（平成 24 年 5 月）**

〒番号	039-1101
住 所	青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電 話	0178-27-9163
F A X	0178-27-9166
E-mail	<a href="mailto:nokei@city.hachinohe.aomori.jp">nokei@city.hachinohe.aomori.jp</a>